

ちば産学官連携プラットフォーム単位互換科目シラバス

	大学等名称	科目名	開講学期	開講曜日	開講時限	ページ
1	植草学園大学	人間と道徳	前期	月曜	6限	1
2	植草学園大学	バイオリテラシー入門	前期	火曜	4限	2
3	植草学園大学	教育学入門	前期	火曜	6限	3
4	植草学園大学	心理学	前期	水曜	6限	4
5	植草学園大学	自信を高める心理学	前期	木曜	5限	5
6	植草学園大学	人間関係論	前期	木曜	6限	7
7	植草学園大学	コミュニケーション論	後期	火曜	6限	8
8	植草学園大学	障害インクルージョン論	後期	水曜	6限	9
9	植草学園大学	哲学入門	後期	金曜	2限	11
10	植草学園大学	行動科学入門	後期	金曜	2限	12
11	神田外語大学	中国語学概論Ⅰ	前期	月曜	3限	13
12	神田外語大学	インドネシアの政治・経済Ⅰ	前期	月曜	3限	14
13	神田外語大学	児童英語教育論A (2コマセットの授業)	前期	月曜	3限	15
			前期	木曜	3限	
14	神田外語大学	ブラジルの宗教・社会	前期	火曜	3限	17
15	神田外語大学	東南アジア宗教論Ⅰ	前期	火曜	4限	18
16	神田外語大学	ブラジルの民族・地理	前期	火曜	4限	19
17	神田外語大学	認知発達と英語教育A (2コマセットの授業)	前期	火曜	4限	20
			前期	金曜	3限	
18	神田外語大学	スペイン語音声学Ⅰ	前期	木曜	2限	23
19	神田外語大学	現代スペイン文学Ⅰ	前期	木曜	2限	25
20	神田外語大学	現代ラテンアメリカ研究Ⅰ	前期	木曜	2限	27
21	神田外語大学	韓国語社会言語学Ⅰ	前期	木曜	2限	28
22	神田外語大学	現代イベリア研究Ⅰ	前期	木曜	3限	29
23	神田外語大学	東南アジア史Ⅰ	前期	木曜	5限	31
24	神田外語大学	東南アジア政治経済論Ⅰ	前期	金曜	1限	33
25	神田外語大学	韓国語文法論Ⅰ	前期	金曜	2限	34
26	神田外語大学	韓国史概論Ⅰ	前期	金曜	3限	36
27	神田外語大学	米国政治・外交論Ⅰ	前期	金曜	4限	37
28	淑徳大学	宗教と科学	前期	月曜	5限	39
29	淑徳大学	福祉政策と社会保障A	前期	火曜	1限	40
30	淑徳大学	福祉政策と社会保障B	前期	火曜	2限	41
31	淑徳大学	人間の心理と行動A	前期	水曜	4限	42
32	淑徳大学	日本社会と歴史文化	前期	水曜	5限	43
33	淑徳大学	社会福祉論	前期	金曜	2限	45
34	淑徳大学	スポーツマネジメント	後期	月曜	5限	46
35	淑徳大学	ボランティア・市民活動論B 【コミュ他学部】	後期	月曜	5限	47
36	淑徳大学	家族社会学	後期	火曜	1限	48
37	淑徳大学	コーチング理論	後期	火曜	5限	49
38	淑徳大学	地域振興論	後期	水曜	4限	50
39	淑徳大学	消費者行動分析	後期	水曜	4限	52
40	淑徳大学	地域福祉論	後期	金曜	2限	53

	大学等名称	科目名	開講学期	開講曜日	開講時限	ページ
41	千葉明德短期大学	音楽表現演習Ⅰ（ギター）	前期	火曜	3限	54
42	千葉明德短期大学	保育原論	前期	水曜	3限	55
43	千葉明德短期大学	教育原理	前期	木曜	1限	56
44	千葉明德短期大学	社会福祉	前期	木曜	2限	57
45	千葉明德短期大学	音楽表現演習Ⅱ（ギター）	後期	火曜	3限	58
46	千葉明德短期大学	あそび実践演習（言葉）	後期	水曜	2限	59
47	千葉明德短期大学	あそび実践演習（音楽）	後期	木曜	1限	60
48	千葉明德短期大学	あそび実践演習（運動）	後期	木曜	1限	61
49	千葉明德短期大学	社会的養護Ⅰ	後期	木曜	1限	62
50	千葉明德短期大学	フィールドワーク（人間と文化）	集中	集中	集中	63
51	千葉明德短期大学	フィールドワーク（生活と社会）	集中	集中	集中	64
52	帝京平成大学	スポーツ心理学	前期	月曜	4限	65
53	帝京平成大学	スポーツ指導論	前期	水曜	2限	67
54	帝京平成大学	スポーツ倫理	前期	水曜	3限	68
55	帝京平成大学	トレーニング科学	前期	木曜	2限	70
56	帝京平成大学	スポーツ社会学	前期	木曜	5限	72
57	帝京平成大学	スポーツ生理学Ⅰ	前期	金曜	1限	74
58	帝京平成大学	予防と介護	後期	月曜	1限	76
59	帝京平成大学	健康とスポーツ	後期	水曜	2限	79
60	帝京平成大学	スポーツ生理学Ⅱ	後期	水曜	3限	81
61	帝京平成大学	スポーツ経営・管理学	後期	木曜	4限	83
62	東京情報大学	コンピュータグラフィックス基礎	前期	月曜	1限	85
63	東京情報大学	ゲーム制作基礎	前期	火曜	1限	86
64	東京情報大学	地理情報システム a	前期	火曜	1限	88
65	東京情報大学	ソフトウェア工学 a	前期	木曜	1限	89
66	東京情報大学	システム設計論 a	前期	木曜	2限	90
67	東京情報大学	社会学概論	後期	月曜	2限	91
68	東京情報大学	経営学概論	後期	月曜	3限	92
69	東京情報大学	心理学概論	後期	水曜	3限	93
70	東京情報大学	情報ネットワーク概論	後期	金曜	3限	94
71	東京情報大学	視覚デザイン論	後期	金曜	3限	96
72	千葉経済大学	日本経済史Ⅰ	前期	月曜	3限	97
73	千葉経済大学	国際金融論Ⅰ	前期	火曜	3限	98
74	千葉経済大学	経営管理論Ⅰ	前期	火曜	3限	99
75	千葉経済大学	上級簿記Ⅰ	前期	水曜	4限	101
76	千葉経済大学	中級マクロ経済学	前期	金曜	2限	103
77	千葉経済大学	日本経済史Ⅱ	後期	月曜	3限	105
78	千葉経済大学	中小企業論	後期	火曜	2限	106
79	千葉経済大学	国際金融論Ⅱ	後期	火曜	3限	108
80	千葉経済大学	経営管理論Ⅱ	後期	火曜	3限	109
81	千葉経済大学	上級簿記Ⅱ	後期	水曜	4限	111
82	千葉経済大学短期大学部	情報と社会	前期	月曜	3限	113
83	千葉経済大学短期大学部	観光ビジネスⅠ	前期	火曜	1限	114
84	千葉経済大学短期大学部	自然科学への招待 A	前期	木曜	3限	115

	大学等名称	科目名	開講学期	開講曜日	開講時限	ページ
85	千葉経済大学短期大学部	健康科学概論 (β h)	前期	木曜	3限	116
86	千葉経済大学短期大学部	健康科学概論 (α h)	前期	木曜	4限	
87	千葉経済大学短期大学部	映画で学ぶ英語表現	後期	月曜	2限	117
88	千葉経済大学短期大学部	ホスピタリティサービス	後期	月曜	4限	118
89	千葉経済大学短期大学部	観光ビジネスⅡ	後期	火曜	1限	119
90	千葉経済大学短期大学部	文学	後期	木曜	4限	120
91	千葉経済大学短期大学部	自然科学への招待 B	後期	木曜	3限	122
92	千葉経済大学短期大学部	歴史への旅	後期	木曜	4限	123
93	敬愛大学	数学Ⅰ	前期	月曜	2限	124
94	敬愛大学	統計学Ⅰ	前期	水曜	3限	125
95	敬愛大学	地域ボランティア活動	前期	水曜	2限	126
96	敬愛大学	日本語学	前期	金曜	1限	127
97	敬愛大学	憲法	前期	金曜	2限	128
98	敬愛大学	法学	前期	金曜	3限	129
99	敬愛大学	数学Ⅱ	後期	月曜	2限	130
100	敬愛大学	統計学Ⅱ	後期	水曜	3限	131
101	敬愛大学	言語学	後期	金曜	1限	132
102	敬愛大学	歴史学	後期	月曜	2限	133
103	敬愛大学	法学	後期	金曜	2限	134
104	敬愛大学	憲法	後期	金曜	3限	135
105	敬愛短期大学	乳児保育Ⅱ	後期	月曜	4限	136
106	敬愛短期大学	子どもと造形	前期	火曜	2限	137
107	敬愛短期大学	子どもと言葉	前期	火曜	2限	138
108	敬愛短期大学	児童文化Ⅱ	前期	火曜	2限	139
109	敬愛短期大学	育ちと学びの心理学	前期	火曜	3限	140
110	敬愛短期大学	生涯スポーツ実習	前期	火曜	4限	141
111	敬愛短期大学	保育者論	後期	木曜	1限	142
112	敬愛短期大学	社会的養護Ⅰ	前期	木曜	3限	143
113	敬愛短期大学	子ども家庭支援の心理学	前期	金曜	1限	144
114	敬愛短期大学	特別支援教育	前期	金曜	3限	145
115	敬愛短期大学	保育内容演習 (健康)	後期	月曜	4限	146
116	敬愛短期大学	リトミック	後期	木曜	3限	147
117	敬愛短期大学	教育原理	後期	金曜	1限	148

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	植草学園大学	学部・学科名※	発達教育学部 発達支援教育学科
科目名※	人間と道徳	単位数※	講義 2 単位
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	月曜日・6 時限
キャンパス※	千葉若葉キャンパス	教室※	遠隔授業
学修分野	教養教育科目 基礎科目		
授業目的※	人間や社会に対する理解や生命の尊厳について深く認識し、高い道徳心と倫理観をもって行動できる。		
到達目標	1.さまざまな価値観が複雑に絡まりあっている社会において、多角的・批判的な思考ができるようになる。 2.正義や道徳心を守るために、自分が所属する仲間や組織の同調圧力に安易に流されず、自律的な考えができるようになる。 3.ひとつのものごとを深く探求し、自分の考えを的確に表現できるようになる。		
授業内容	第 1 回 ガイダンス「あなたは正義のために自分の所属する組織を裏切ることができるか」(目標 2・3) 第 2 回 「なぜ人を殺してはいけないか」(目標 1・3) 第 3 回 「いじめ考～あなたはいじめを止められるか」(目標 2・3) 第 4 回 なぜ児童虐待は増え続けているのか(目標 2・3) 第 5 回 校則はなぜ必要なのか(目標 1・3) 第 6 回 感染症と薬害エイズ(目標 2・3) 第 7 回 報道と差別(目標 1・3) 第 8 回 死は誰のものか(目標 1・3) 第 9 回 高齢者福祉は安心か(目標 1・3) 第 10 回 代理母論～あなたは他人のために子どもを産めるか(目標 1・3) 第 11 回 狙われる高齢者(目標 1・3) 第 12 回 ウクライナの正義 vs ロシアの正義(目標 1・3) 第 13 回 重度障害者は社会を不幸にするか、社会にとって必要か(目標 1・3) 第 14 回 やまゆり園事件とプライバシー(目標 1・3) 第 15 回 優生思想についてどう考えるか(目標 1・2・3)		
授業形態※	講義		
評価方法※	授業内の提出物 80% 毎回授業の中で課題(教科書の抜粋部分を読んだ意見や感想を書く)を提示する。 グーグルクラスルームのフォームから提出する。 レポート 20% 期末課題をグーグルクラスルームのフォームから提出する。		
評価基準	1.さまざまな価値観が複雑に絡まりあっている社会において、多角的・批判的な思考ができるようになったかどうか。 2.正義や道徳心を守るために、自分が所属する仲間や組織の同調圧力に安易に流されず、自律的な考えができるようになったかどうか。 3.ひとつのものごとを深く探求し、自分の考えを的確に表現できるようになったかどうか。		
テキスト	「弱さを愛せる社会へ～分断の時代を超える『令和の幸福論』」(野澤和弘著、中央法規 ISBN978-4-8050-8945-9、1700 円<税別>)を教科書とする。		
注意事項			
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	植草学園大学	学部・学科名※	発達教育学部 発達支援教育学科
科目名※	バイオリテラシー入門	単位数※	講義 2 単位
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	火曜日・4 時限
キャンパス※	千葉若葉キャンパス	教室※	基礎医学実習室
学修分野	教養教育科目 基礎科目		
授業目的※	人間や社会に対する理解や生命の尊厳について深く認識し, 高い道德心と倫理観をもって行動できる。		
到達目標	1.生き物や生命現象についての基本的な知識を習得する。 2.生物の中に潜む法則性と生物間の多様性について、多様な側面から考えることができるようになる。 3.日常の生活と,生物学との係わりや意義について理解できるようになる。		
授業内容	第 1 回 脊椎動物の進化と分類 1 (恐竜の特徴・爬虫類の進化と分類について) (目標 1,2,3) 第 2 回 脊椎動物の進化と分類 2 (鳥類の特徴と進化について) (目標 1,2,3) 第 3 回 脊椎動物の機能と生態 (コアジサシについて) (目標 1,2,3) 第 4 回 脊椎動物の進化と分類 3 (哺乳類の特徴と進化について) (目標 1,2,3) 第 5 回 脊椎動物の進化と分類 4 (クジラの特徴について) (目標 1,2,3) 第 6 回 生物・動物の分類(目標 1,2,3) 第 7 回 棘皮動物の進化と分類 (ウニについて) (目標 1,2,3) 第 8 回 新口動物の分類と進化 1 (目標 1,2,3) 第 9 回 新口動物の分類と進化 2 (目標 1,2,3) 第 10 回 動物と植物(目標 1,2,3) 第 11 回 エネルギー代謝 (何故お腹がすくか?) (目標 1,2,3) 第 12 回 糖代謝(目標 1,2,3) 第 13 回 タンパク質・脂質代謝(目標 1,2,3) 第 14 回 外呼吸(目標 1,2,3) 第 15 回 内呼吸(目標 1,2,3)		
授業形態※	講義		
評価方法※	授業内の提出物 40% 授業内での発表 20% 期末試験 40%		
評価基準	1.生き物や生命現象についての基本的な知識を習得できたか。 2.生物の共通性と多様性について、多様な側面から考えることができたか。 3.日常の生活と,生物学との係わりや意義について理解できたか。		
テキスト	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。		
注意事項	生物学の基礎について, 日常生活との関係から理解し, それに基づいて判断できるような資質の獲得を目指す。また, 関連する分野の広い生物学全体を俯瞰したり, 自分なりの生命観を持てるようになる。		
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	植草学園大学	学部・学科名※	発達教育学部 発達支援教育学科
科目名※	教育学入門	単位数※	講義 2 単位
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	火曜日・6 時限
キャンパス※	千葉若葉キャンパス	教室※	遠隔授業
学修分野	教養教育科目 基礎科目		
授業目的※	人間や社会に対する理解や生命の尊厳について深く認識し、高い道徳心と倫理観をもって行動できる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「なぜ人間には教育が必要なのか」という教育の基本原則や学校教育に関して、理解し基礎的な知識を習得する。 2. 日本の教育の現状や教育課題について、データや資料に基づいて自らの考えをまとめることができるようになる。 3. 教育に関する理解を深めるために積極的に予習・復習に取り組んだり、教育課題を解決することができる方法を考えようとする。 		
授業内容	<p>第 1 回 講義概要の説明：「教育学入門」における学習の目的、授業計画、授業の進め方、授業外の学修、評価方法など（目標 1）</p> <p>第 2 回 人間の成長・発達と教育：「ヒトは教育によって人になる」といわれるが、なぜ人間には教育が必要なのかを学ぶ。（目標 1）</p> <p>第 3 回 発達の理論①：「子どもの発達段階」、ピアジェ（目標 1）</p> <p>第 4 回 発達の理論②：エリクソン（目標 1）</p> <p>第 5 回 教育目的：学校教育の狙い、目指す人間像。（目標 1）</p> <p>第 6 回 教育制度①：教育に関する法律（目標 1・2・3）</p> <p>第 7 回 教育制度②：日本の学校制度（目標 1・2・3）</p> <p>第 8 回 教育課程①：現代教科の成立（目標 1・2・3）</p> <p>第 9 回 教育課程②：問題解決学習（目標 1・2・3）</p> <p>第 10 回 教育政策の動向：学習指導要領の改訂の流れを学ぶ。（目標 1・2・3）</p> <p>第 11 回 教育とジェンダー：隠れたカリキュラム、役割取得と社会化とは何か。（目標 1・2・3）</p> <p>第 12 回 保育とジェンダー：保育分野にみるジェンダーバイアスとは何か。（目標 1・2・3）</p> <p>第 13 回 現代日本の教育課題：（1）体罰、不登校、いじめ、逸脱（目標 1・2・3）</p> <p>第 14 回 現代日本の教育課題：（2）多文化共生と教育（目標 1・2・3）</p> <p>第 15 回 現代日本の教育課題：（3）ESD（education for sustainable development）持続可能な開発のための教育（目標 1・2・3）</p>		
授業形態※	講義		
評価方法※	<p>授業内の提出物 30%</p> <p>期末試験 70%</p>		
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「なぜ人間には教育が必要なのか」という教育の基本原則や家庭・学校・地域社会の教育役割・機能に関して、理解し基礎的な知識を習得できたか。 2. 日本の教育の現状や教育課題について、データや資料に基づいて自らの考えをまとめることができたか。 3. 教育に関する理解を深めるために積極的に予習・復習に取り組んだり、教育課題を解決することができる方法を考えようとしたか。 		
テキスト	『教育の基礎と展開（第 3 版）－豊かな教育・保育を目指して－』 高野良子・武内清編 著 学文社 価格 2000 円＋税 ISBN・ISSN 未定		
注意事項			
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	植草学園大学	学部・学科名※	発達教育学部 発達支援教育学科
科目名※	心理学	単位数※	講義 2 単位
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	水曜日・6 時限
キャンパス※	千葉若葉キャンパス	教室※	遠隔授業
学修分野	教養教育科目 基礎科目		
授業目的※	人間や社会に対する理解や生命の尊厳について深く認識し、高い道徳心と倫理観をもって行動できる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学に関する基礎的な知識について理解し、その概要を説明できる。 2. 身近な心理的問題について理解し、自分の考えを述べることができる。 3. 心理学的な知識を、自分の心の働きを考えるために活用できる。 		
授業内容	第 1 回 授業ガイダンス・心理学の起源(目標 1) 第 2 回 感覚・知覚(目標 1,2) 第 3 回 記憶(目標 1,2) 第 4 回 脳研究と心理学 (目標 1,3) 第 5 回 学習 (目標 1,2,3) 第 6 回 無意識と精神分析 (目標 1,3) 第 7 回 動機づけ(目標 1,2,3) 第 8 回 発達と発達理論 (目標 1,2,3) 第 9 回 パーソナリティ (目標 1,2,3) 第 10 回 社会(対人認知・態度変容) (目標 1,2,3) 第 11 回 集団の心理(目標 1,2,3) 第 12 回 心理学の研究方法 (目標 1,3) 第 13 回 心理学と哲学 (目標 1) 第 14 回 ストレスと精神的健康 (目標 1,3) 第 15 回 心理的問題とその援助(目標 1,3)		
授業形態※	講義		
評価方法※	授業内の提出物 30% 毎回の授業で出題される課題の内容、特に「授業内容について考えたこと」についての記述をもとに授業への参加態度の積極性や理解度を評価する。 期末試験 70% 対面で行う筆記試験の得点をもとに成績評価を行う。		
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学に関する基礎的な知識について理解し、その概要を説明できること。 2. 身近な心理的問題について理解し、自分の考えを述べるができること。 3. 心理学的な知識を、自分の心の働きを考えるために活用できること。 		
テキスト	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。		
注意事項			
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	植草学園大学	学部・学科名※	発達教育学部 発達支援教育学科
科目名※	自信を高める心理学	単位数※	講義 2単位
開講年度学期※	2025年度前期	曜日・時限※	木曜日・5時限
キャンパス※	千葉若葉キャンパス	教室※	講義室 10・11 (予定)
学修分野	教養教育科目 基礎科目		
授業目的※	人間や社会に対する理解や生命の尊厳について深く認識し、高い道徳心と倫理観をもって行動できる。		
到達目標	<p>1. 自己イメージがどのように形成されるかについて基礎的な知識を習得し、自己肯定感を高める方法を実際に活用する体験をする。</p> <p>2. ストレスへの対処や自分自身の感情のコントロールに関する心理学的な知識を獲得し、自分の精神的健康の維持や向上に役立てる。</p> <p>3. 他者との望ましい人間関係を築き、維持するためのコミュニケーションスキルについて知識を獲得し、授業の中で行う訓練を通じてそうしたスキルを高める。</p>		
授業内容	<p>第1回 授業ガイダンス・精神的成長とストレス・心理学的に見た青年期(目標 2)</p> <p>第2回 ストレスへの対処とメンタルヘルス(目標 2)</p> <p>第3回 自己イメージはどのようにつくられるか(目標 1)</p> <p>第4回 ストレス、不安や恐怖を和らげる方法 (目標 2)</p> <p>第5回 自己肯定感を高めるには (目標 1,2)</p> <p>第6回 マインドフルネスを高める (目標 2)</p> <p>第7回 自分自身への思いやりを高める(目標 1,2)</p> <p>第8回 自己カウンセリング(目標 1,2)</p> <p>第9回 価値観の形成とアイデンティティの確立 (目標 1,2)</p> <p>第10回 アサーションの基礎 (目標 3)</p> <p>第11回 アサーション実技訓練(目標 3)</p> <p>第12回 合意形成のグループワーク (目標 3)</p> <p>第13回 認知行動療法を日常生活に活かす (目標 1,2)</p> <p>第14回 性格テストを活用した自己理解 (目標 1,2)</p> <p>第15回 まとめ 自信を高めるには(目標 1,2)</p>		
授業形態※	講義		
評価方法※	<p>授業内の提出物 40%</p> <p>毎回の授業の最後に提出する小レポートやその他の提出物の内容に対する評価をもとに授業への参加態度の積極性や理解度を評価する。</p> <p>期末試験 20%</p> <p>授業時間内に対面で行う筆記試験の得点をもとに成績評価を行う。試験には、授業で取り上げた知識・スキルを問う問題や、授業に関わる自分の体験についての質問などが含まれる。</p> <p>その他 40%</p> <p>ディスカッションへの参加・貢献や、体験的ワークへの取り組みの積極性を評価する。</p>		
評価基準	<p>1. 自己イメージがどのように形成されるか、自己肯定感を高める方法について基礎的な知識を習得し、その概要を説明できること。</p> <p>2. ストレスへの対処や自分自身の感情のコントロールに関する心理学的な知識を獲得し、それらを自分の精神的健康の維持や向上に役立てる方法を説明できること。</p> <p>3. 他者との望ましい人間関係を築き、維持するためのコミュニケーションスキルについて基礎的な知識を獲得し、そうしたスキルを高める練習ができるようになっていること。</p>		

テキスト	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
注意事項	授業内で行う様々な個人ワークやグループワークに積極的に取り組んでください。過去のネガティブな出来事や、現在の悩み事やストレスについて文章を書く課題に取り組むことで精神的健康を失うリスクが大きいと判断される場合は履修をひかえることをお勧めします。判断に迷う場合は、必ず第1回の授業後に担当講師にご相談ください。 授業内容や授業の順序は、受講生のニーズやその他の条件に応じて、変更する可能性があります。
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	植草学園大学	学部・学科名※	発達教育学部 発達支援教育学科
科目名※	人間関係論	単位数※	講義 2 単位
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	木曜日・6 時限
キャンパス※	千葉若葉キャンパス	教室※	遠隔授業
学修分野	教養教育科目 基礎科目		
授業目的※	人間や社会に対する理解や生命の尊厳について深く認識し, 高い道徳心と倫理観をもって行動できる。		
到達目標	1.様々な人間関係のあり方について理解する。 2.様々な組織や集団における人間関係の特徴を理解する。 3.人間関係で予想されるトラブルを理解し,学んだ知識を活用して解決法を考えることができる。		
授業内容	第1回 印象・対人認知の仕組み(目標1) 第2回 対人魅力の規定要因・親密性(目標1) 第3回 対人コミュニケーション・非言語的コミュニケーション(目標1) 第4回 説得(目標1,3) 第5回 集団と個人(目標1,2,3) 第6回 集団による問題解決(目標2,3) 第7回 攻撃行動・暴力(目標1,3) 第8回 虐待(目標1,3) 第9回 性格と自己理解(目標1) 第10回 家族における人間関係(目標1) 第11回 友人関係と恋愛関係(目標1) 第12回 子どもの人間関係・学校での人間関係(目標1) 第13回 人間関係の構築に役立つ方法(目標1,3) 第14回 自己と他者の双方を尊重する自己主張の方法(目標3) 第15回 インターネットに関わる交流(目標1,3)		
授業形態※	講義		
評価方法※	授業内の提出物 30% 毎回の授業で出題される課題の内容、特に「授業内容について考えたこと」についての記述をもとに授業への参加態度の積極性や理解度を評価する。 期末試験 70% 対面で行う筆記試験の得点をもとに成績評価を行う。		
評価基準	1.様々な人間関係のあり方について理解し, 概要を説明できること。 2.様々な組織や集団における人間関係の特徴を理解し, 概要を説明できること。 3.人間関係で予想されるトラブルを理解し,学んだ知識を活用して解決法を検討できること。		
テキスト	書籍名 ワークショップ 人間関係の心理学 著者名 藤本忠明・東正訓 出版社 ナカニシヤ出版 価格 2000 ISBN 978-88848-833-4		
注意事項			
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	植草学園大学	学部・学科名※	発達教育学部 発達支援教育学科
科目名※	コミュニケーション論	単位数※	講義 2 単位
開講年度学期※	2025 年度後期	曜日・時限※	火曜日・6 時限
キャンパス※	千葉若葉キャンパス	教室※	遠隔授業
学修分野	教養教育科目 基礎科目		
授業目的※	人間や社会に対する理解や生命の尊厳について深く認識し、高い道徳心と倫理観をもって行動できる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションの基礎概念や理論を学び、理解する。 2. 教育や医療の専門職として、実際の対人場面でのコミュニケーションを理解する。 3. 学んだ知識やスキルを活用し、様々な状況における最適なコミュニケーションの取り方について考えることができる。 		
授業内容	第 1 回 授業ガイダンス・コミュニケーションの概要(目標 1) 第 2 回 言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション(目標 1) 第 3 回 共感的傾聴(目標 1,2,3) 第 4 回 アサーション(目標 1,2,3) 第 5 回 感情のコントロールとコミュニケーション・スキル訓練(目標 1) 第 6 回 説得的コミュニケーション(目標 1,3) 第 7 回 対人援助とコミュニケーション(目標 2,3) 第 8 回 子どもを相手としたコミュニケーション(目標 2,3) 第 9 回 教育場面におけるコミュニケーション(目標 2,3) 第 10 回 医療場面におけるコミュニケーション(目標 2) 第 11 回 共感的なコミュニケーションのロールプレイ(目標 3) 第 12 回 障害・困難を抱える人へのコミュニケーション(目標 2) 第 13 回 対人援助チームにおけるコミュニケーション(目標 3) 第 14 回 発達障害児へのコミュニケーション支援(目標 2) 第 15 回 プレゼンテーション・ICT を活用したコミュニケーション(目標 1,3)		
授業形態※	講義		
評価方法※	授業内の提出物 30% 毎回の授業で出題される課題の内容、特に「授業内容について考えたこと」についての記述をもとに授業への参加態度の積極性や理解度を評価する。 期末試験 70% 対面で行う筆記試験の得点をもとに成績評価を行う。		
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションの基礎概念や理論を理解し、説明できること。 2. 教育や医療の専門職として、実際の対人場面でのコミュニケーションを理解し、説明できること。 3. 様々な状況における最適なコミュニケーションの取り方を自分なりに工夫できること。 		
テキスト	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。		
注意事項			
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	植草学園大学	学部・学科名※	発達教育学部 発達支援教育学科
科目名※	障害インクルージョン論	単位数※	講義 2 単位
開講年度学期※	2025 年度後期	曜日・時限※	水曜日・6 時限
キャンパス※	千葉若葉キャンパス	教室※	遠隔授業
学修分野	教養教育科目 基礎科目		
授業目的※	人間や社会に対する理解や生命の尊厳について深く認識し、高い道徳心と倫理観をもって行動できる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達障害・知的障害のある子や人のコミュニケーションの特性はなにかを知る。 2. 虐待の実態や差別の取り組みを学ぶ。 3. 地域共生社会や障害者文化芸術の新しい潮流を知る。 		
授業内容	<p>第 1 回 ガイダンス（授業計画の説明、講師の自己紹介） 講義「君たちはどんな時代を生きていくのか、何を学ぶのか」（目標 1）</p> <p>第 2 回 前回のリアクションペーパーの紹介 頭を柔らかくする小テスト①（障害児の世界を知る） 講義「障害者のリアルに迫る」（目標 1）</p> <p>第 3 回 前回のリアクションペーパーの紹介と Q&A 頭を柔らかくするテスト② 講義「障害者虐待」（目標 2）</p> <p>第 4 回 前回のリアクションペーパーの紹介と Q&A 頭をやわらかくするテスト③ 講義「あなたは虐待する？」（目標 2）</p> <p>第 5 回 前回のリアクションペーパーの紹介と Q & A 頭を柔らかくするテスト④ 講義「虐待をしないためには何が必要か」（目標 2）</p> <p>第 6 回 前回のリアクションペーパーの紹介と Q & A 頭を柔らかくするテスト⑤ 講義「行動障害と身体拘束」（目標 2）</p> <p>第 7 回 前回のリアクションペーパーの紹介と Q & A 頭を柔らかくするテスト⑥ 講義「行動障害の改善」（目標 2）</p> <p>第 8 回 前回のリアクションペーパーの紹介と Q & A 頭を柔らかくするテスト⑦ 講義「利用者中心の支援」（目標 1）</p> <p>第 9 回 前回のリアクションペーパーの紹介と Q & A 講義「障害者が登場する映画やドラマ」（目標 3）</p> <p>第 10 回 前回のリアクションペーパーの紹介と Q & A 講義「警察プロジェクト」（目標 3）</p> <p>第 11 回 前回のリアクションペーパーの紹介と Q & A 障害者差別をなくすための千葉県条例～条例の成立過程と内容(目標 2)</p> <p>第 12 回 前回のリアクションペーパーの紹介と Q & A 講義「発達障害と事件」（目標 1, 2）</p> <p>第 13 回 前回のリアクションペーパーの紹介と Q & A 講義「アール・ブリュット」（目標 3）</p> <p>第 14 回 前回のリアクションペーパーの紹介と Q & A 講義「意思決定支援」（目標 1）</p> <p>第 15 回 地域共生型福祉と障害(目標 3)</p>		
授業形態※	講義		

評価方法※	授業内の提出物 80% 毎回授業を聞いての意見や感想（リアクションペーパー）をGoogle Classroomのフォームで書いて提出する。 レポート 20% 期末課題をGoogle Classroomのフォームから提出する。
評価基準	1. 発達障害・知的障害のある子や人のコミュニケーションの特性を理解できたか。 2. 虐待の実態や差別解消の取り組みを理解できたか。 3. 地域共生、障害者文化芸術の新しい潮流を知ることができたか。
テキスト	教科書は用いない。必要な資料等を授業の際にクラスルーム等で提示する。
注意事項	
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	植草学園大学	学部・学科名※	発達教育学部 発達支援教育学科
科目名※	哲学入門	単位数※	講義 2 単位
開講年度学期※	2025 年度後期	曜日・時限※	金曜日・2 時限
キャンパス※	千葉若葉キャンパス	教室※	講義室 14 (予定)
学修分野	教養教育科目 基礎科目		
授業目的※	人間や社会に対する理解や生命の尊厳について深く認識し, 高い道徳心と倫理観をもって行動できる。		
到達目標	1. 哲学の領域で問題になってきたトピックについて理解できるようになる。 2. 自分とは異なる考えに対する関心を持てるようになる。 3. ひとつの問題について、いろいろな視点から考えられるようになる。		
授業内容	第 1 回 ガイダンスー哲学とはどのような学問か (目標 1) 第 2 回 思索、考えること、世界の理解 (目標 2・3) 斉一性・一貫性・整合性 第 3 回 人間のコミュニケーションとは (目標 1) 意味・真偽・論理的思考について 第 4 回 AI・人工知能と人間の心 (目標 1・2) 人間の条件と他者理解 第 5 回 哲学の理論的展開(1): 自分の意見をまとめるために (目標 2) 第 6 回 なぜ言葉が問題になるのか (目標 1・3) 思考、言語、世界と他者に向かう理解 第 7 回 なぜ人間は分かり合えたり分かり合えなかつたりするのか (目標 1・3) 第 8 回 SNS 時代のメッセージ (目標 1・2) 第 9 回 言語における意図と他者理解 (目標 1・2) 第 10 回 哲学の理論的展開(2): 自分の意見を伝えるために (目標 2) 第 11 回 自由の問題 (1) (目標 1・3) 決定論と因果律、懐疑論 意図を基盤とする言語的コミュニケーション理解で意味はキャンセルできるか 第 12 回 自由の問題 (2) (目標 1・3) 言論の自由と人間の尊厳 第 13 回 コミュニケーションと正義 (目標 1・2) コミュニケーションにおける正しさとは何か 第 14 回 コミュニケーションと人間の幸福 (目標 1・2) 第 15 回 まとめ ここまでの振り返りと、哲学的概念分析における重要ポイントの確認 (目標 1・3)		
授業形態※	講義		
評価方法※	授業内の提出物 30% 各授業時に指定する課題を提出する レポート 50% 事前に提示するルーブリックに合致するレポートを作成する 授業内での発表 20% 毎回の授業内での発表で、先行研究を批判的に概説し、自分の意見を論理的に展開する		
評価基準	1. 哲学の領域で問題になってきたトピックについて理解できること。 2. 自分とは異なる考えに関心を持てること。 3. ひとつの問題について、いろいろな視点から考え、文章で適切に表現できること。		
テキスト	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。		
注意事項			
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	植草学園大学	学部・学科名※	発達教育学部 発達支援教育学科
科目名※	行動科学入門	単位数※	講義 2 単位
開講年度学期※	2025 年度後期	曜日・時限※	金曜日・2 時限
キャンパス※	千葉若葉キャンパス	教室※	講義室 1 5
学修分野	教養教育科目 基礎科目		
授業目的※	人間や社会に対する理解や生命の尊厳について深く認識し，高い道徳心と倫理観をもって行動できる。		
到達目標	(1) 行動のしくみ，認知，対人・社会，健康という各テーマにおける行動の基礎的知識を説明できる (2) 行動に関わる意思決定過程や行動の生起・変容に関わる理論やメカニズムについて理解し説明できる (3) 日常生活や社会的出来事に見られる様々な行動について，行動科学の視点から議論できる		
授業内容	第 1 回 ガイダンス（行動科学と研究手法）（目標 1） 第 2 回 行動のしくみ（1）；行動の生物科学的入門（目標 1,2） 第 3 回 行動のしくみ（2）；進化心理学（個が生き残る力）（目標 1,2,3） 第 4 回 行動のしくみ（3）；進化心理学（子孫を残し繁栄する力）（目標 1,2,3） 第 5 回 認知（1）；マンガの認知科学（マンガの読みと理解の認知過程）（目標 1,2,3） 第 6 回 認知（2）；社会的情報処理と適応（対人行動と認知過程）（目標 1,2,3） 第 7 回 認知（3）；行動の自己制御（実行機能と非認知能力）（目標 1,2） 第 8 回 対人・社会（1）；対人関係（社会性の発達）（目標 1,2,3） 第 9 回 対人・社会（2）；対人行動（印象形成と対人魅力）（目標 1,2,3） 第 10 回 対人・社会（3）；対人行動（同調と内集団ひいき、集団と集合）（目標 1,2,3） 第 11 回 健康（1）；感情のコントロールと精神的健康（目標 2,3） 第 12 回 健康（2）；精神疾患と行動上の問題（目標 2,3） 第 13 回 健康（3）；行動科学的アプローチによる治療（目標 2,3） 第 14 回 健康（4）；精神的健康増進に役立つ行動変容（目標 1,2,3） 第 15 回 まとめ；レポート課題のフィードバック（目標 1,2,3）		
授業形態※	講義		
評価方法※	授業内の提出物 30% 毎回の授業の提出物や参加態度 レポート 70% レポート課題は，各担当教員の授業回（第 4 回，第 7 回，第 10 回，第 14 回を予定）に課すものとする。		
評価基準	(1) 授業で取り上げた，各テーマにおける行動の基礎的知識を説明できることを合格基準とする (2) 授業で取り上げた，行動に関わる意思決定過程や行動の生起・変容に関わる理論やメカニズムについて説明できることを合格基準とする (3) 授業で得た知識を基に，日常生活や社会的出来事に見られる様々な行動について，行動科学の視点から自分の意見を述べられることを合格基準とする		
テキスト	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。		
注意事項			
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	神田外語大学	学部・学科名※	外国語学部
科目名※	中国語学概論 I	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	月曜日 3 時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	<p>【授業のテーマと概要】 この授業では、中国語とはどのような言語であるかを主に文法面から概説します。現代中国語の文法を体系的に理解できるようになることを目指しますが、前半は漢字の成り立ち、文字改革などについても触れます。また、中国語のことは遊び（物謎、字謎、しゃれ言葉、早口言葉）やことわざ、祝祭日のことば、慶弔のことばなどについても適宜紹介します。</p> <p>【授業の目標と到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国語の文字や文法体系について学び、その歴史や特徴を理解する。 ・中国語とはどのような言語か、その主な特徴について説明できる。 ・中国語という言語を多面的に考察し、その本質を理解する力を養う。(DP3) <p>【授業形態】 講義。中間発表課題についてはペアまたはグループで取り組む。</p> <p>【必要となる授業外学習時間】 講義の内容を復習し、ポイントをまとめておく（1-2 時間）</p>		
到達目標			
授業内容	<p>第 1 回 ガイダンス、中国語とはどのような言語であるのか 第 2 回 文字とは何か—漢字の起源・六書・字形の変化と「字書」の話 第 3 回 中国の漢字と日本の漢字、中国の文字改革 第 4 回 ピンイン・ローマ字の制定、正書法 第 5 回 「語法」と「文法」、「字」と「語」、外来語 第 6 回 グループワーク：外来語について調べる（次週の発表準備） 第 7 回 中間発表：外来語について調べて発表（中間試験に相当。形式等詳細は授業内で説明します） 第 8 回 単語と連語、文の成立、标点符号 第 9 回 文の種類（構造上の分類、用法上の分類） 第 10 回 文の成分（主語、述語、述語の構成から見た基本構文） 第 11 回 文の成分（賓語） 第 12 回 文の成分（補語） 第 13 回 文の成分（修飾語） 第 14 回 ことばにみる中国人の世界観、思考法 第 15 回 前期のまとめ（期末試験ならびに解説）</p>		
授業形態※	対面		
評価方法※	授業参加度・課題への取り組みなどの平常点（60%）、中間発表（グループワーク・10%）、期末試験（30%）		
評価基準			
テキスト			
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（ https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/ ）からシラバス検索で該当科目を確認してください。		
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	神田外語大学	学部・学科名※	外国語学部
科目名※	インドネシアの政治・経済 I	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	月曜日 3 時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	<p><授業の概要> 本講義では、インドネシアにおける政治あるいは民主主義の実際が如何なるものかを検討します。そのために、独立後インドネシアの政治体制を概観した上で、1998 年以降の民主化の過程を検討する。軍の力を背景とした権威主義体制から、どのように大統領権限を制限し、自由な選挙を実現したか、そしてその結果および実際はどのようなものだったのかが焦点となります。</p> <p><授業の目的と到達目標> ・インドネシアの政治、特にインドネシアにおける民主主義に関する専門知識を身に付けます (DP3) ; ・インドネシア政治に関する知識を得ることで、異なる文化や価値観、社会の多様性を理解し尊重する姿勢を身に付けます。(DP3)</p> <p><必要な準備学習> 予習：次回授業用の資料を読み、不明な用語を予習。(90 分) 復習：資料やノートを見返し、授業で得た知識や理解した内容の確認。(90 分)</p>		
到達目標			
授業内容	<p>第 1 回 イントロダクション：インドネシアの歴代大統領 第 2 回 独立戦争後の困難 第 3 回 スカルノ体制 第 4 回 スハルトの開発独裁体制 第 5 回 民主化運動とスハルト体制の崩壊 第 6 回 民主化の開始：ハビビ政権 第 7 回 東ティモール問題 第 8 回 1999 年総選挙とアブドゥルラフマン、メガワティ政権 第 9 回 スハルト時代にたいする反省：歴史問題 第 10 回 2004 年、2009 年総選挙とユドヨノ政権 第 11 回 選挙スタイルの変化と民主化の矛盾 第 12 回 イスラムの政治コモディティ化 第 13 回 2014 年、2019 年総選挙・大統領選挙のポリティクス 第 14 回 ジョコウィ政権と 2024 年総選挙 第 15 回 まとめと今後の課題</p>		
授業形態※	対面		
評価方法※	筆記試験		
評価基準			
テキスト			
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 (https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/) からシラバス検索で該当科目を確認してください。		
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	神田外語大学	学部・学科名※	外国語学部
科目名※	児童英語教育論 A	単位数※	4
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	月曜日 3 時限・木曜日 3 時限 (2 コマセットの授業)
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	この講義は将来的に早期英語学習者を対象とする英語教師になるために、必要な理論や教育現場での実践活動を概観し、模擬授業などの実技演習にも取り組む。特に我が国における早期英語教育の全体像と新しい学習指導要領における小学校外国語活動と外国語科を理解し、自ら授業案を立案・指導できるようになるための入門基礎科目として関連内容を幅広く扱う。		
到達目標			
授業内容	<p>第 1 回 講座内容の紹介、成績評価方法、レポート課題発表 第 1 章：小学校における英語教育－導入の経緯、現状と展望 ①</p> <p>第 2 回 第 1 章：小学校における英語教育－導入の経緯、現状と展望 ② 新学習指導要領を紐解く、グループワーク①</p> <p>第 3 回 第 1 章：小学校における英語教育－導入の経緯、現状と展望 ③ 新学習指導要領を紐解く、クイズ、グループワーク②</p> <p>第 4 回 第 2 章：言語習得と関連領域 ① 子どもの言語獲得の過程 第二言語習得論 関連領域からの理論的枠組み① 学習理論、生成文法、相互作用論 実践体験その 1：子どもの歌、TPR</p> <p>第 5 回 第 2 章：言語習得と関連領域 ② 第二言語習得論 関連領域からの理論的枠組み② インプットとアウトプット理論、インタラクション仮説、クイズ 実践体験その 2：絵本の読み聞かせ①</p> <p>第 6 回 第 2 章：言語習得と関連領域 ③ 第二言語習得論 関連領域からの理論的枠組み③ CPH、気付きの理論、ピアジェ、ヴィゴツキー、クイズ 実践体験その 2：絵本の読み聞かせ②</p> <p>第 7 回 第 3 章：基本的な外国語教授法 ナチュラルアプローチ、CLT、他教科連携①、クイズ 実践体験その 3：チームティーチング①</p> <p>第 8 回 第 3 章：基本的な外国語教授法 ナチュラルアプローチ、CLT、他教科連携②、クイズ</p> <p>第 9 回 実践体験その 3：チームティーチング②</p> <p>第 10 回 第 3 章：基本的な外国語教授法 絵本やお話を使った外国語指導①</p> <p>第 11 回 第 3 章：基本的な外国語教授法 絵本やお話を使った外国語指導②</p> <p>第 12 回 第 4 章：国際理解教育と英語教育 第 13 章：指導の基本と留意ポイント</p> <p>第 13 回 第 9 章：クラスルーム・イングリッシュの活用 スモールトーク演習①</p> <p>第 14 回 第 9 章：クラスルーム・イングリッシュの活用 スモールトーク演習②</p> <p>第 15 回 第 11 章：教材の使い方・選び方と開発方法：教材の作成・教具についての知識① グループワーク</p> <p>第 16 回 第 11 章：教材の使い方・選び方と開発方法：教材の作成・教具についての知識② グループワーク</p> <p>第 17 回 第 11 章：教材の使い方・選び方と開発方法：音声指導 歌やチャンツの使い方、演習①</p>		

<p>授業形態※</p>	<p>第 18 回 第 11 章：教材の使い方・選び方と開発方法：音声指導 歌やチャンツの使い方、演習② 第 19 回 第 14 章：指導の実際：単元計画、授業の組み立て方 『We can!』を使って模擬授業案を検討する：グループワーク① 第 20 回 第 14 章：指導の実際：単元計画、授業の組み立て方 『We can!』を使って模擬授業案を検討する：グループワーク② 第 21 回 第 14 章：指導の実際：単元計画、授業の組み立て方 『We can!』を使って模擬授業案を検討する：グループワーク③ 第 22 回 第 15 章：文字指導のあり方① 模擬授業準備、実践演習、グループワーク④ 第 23 回 第 15 章：文字指導のあり方② 模擬授業準備、実践演習、グループワーク⑤ 第 24 回 教材作成、実践演習、グループワーク⑥ 第 25 回 模擬授業に向けての技術的指導、実践演習、グループワーク⑦ 第 26 回 模擬授業①チームティーチング、考察、フィードバック 第 27 回 模擬授業②チームティーチング、考察、フィードバック 第 28 回 模擬授業③チームティーチング、考察、フィードバック 第 29 回 模擬授業実践の振り返りと理論の裏付け 第 30 回 実践と理論の結びつけ、授業のまとめ</p> <p>対面</p>
<p>評価方法※</p>	<p>レポート・クイズ・振り返り 30% 実技演習 40% 授業への貢献 30% レポート・クイズ、授業デモ、授業への貢献度を考慮して総合的に評価する。</p>
<p>評価基準</p>	
<p>テキスト</p>	
<p>注意事項</p>	<p>この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 (https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/) からシラバス検索 で該当科目を確認をしてください。</p>
<p>授業シラバス</p>	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	神田外語大学	学部・学科名※	外国語学部
科目名※	ブラジルの宗教・社会	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	火曜日 3 時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	<p>本講義では、現代ブラジルが抱える社会問題に焦点を当てる。ブラジルの格差、各宗教信者数の急激な変化、中絶問題、少数優遇制度（格差是正制度）、識字教育などを取り上げる。この授業を通じて学生は、下記の能力を習得する。（DP4）</p> <p>1）専攻言語および同言語圏の社会問題や将来の展開に関する知識と理解</p> <p>2）ブラジル社会の課題発見と解決に貢献する力</p> <p>講義では、ブラジルの歴史的経緯をふまえたうえで現在の社会問題を学び、グループディスカッションを行う。学生の積極的な発言が求められる。</p> <p>授業の理解を深めるため、各自で授業外で調べたり文献を読む必要がある。毎週 2 時間の授業外学習を要す。</p>		
到達目標			
授業内容	<p>第 1 回 講義概要 レポートの書き方</p> <p>第 2 回 世界の貧困を考える：不平等論</p> <p>第 3 回 世界の貧困を考える：貧困論</p> <p>第 4 回 ブラジルの格差の歴史</p> <p>第 5 回 ブラジルの過去と現在の奴隷制</p> <p>第 6 回 ブラジルの公衆衛生（感染症対策）</p> <p>第 7 回 ブラジルの教育・識字と不平等</p> <p>第 8 回 大学入試における積極的格差是正制度をめぐる議論</p> <p>第 9 回 大学入試における積極的格差是正制度をめぐる議論 2</p> <p>第 10 回 ブラジルの宗教／日系宗教／憑依宗教</p> <p>第 11 回 ブラジルの宗教とリプロダクティブ・ヘルス</p> <p>第 12 回 政治と信仰、保守と左派の対立</p> <p>第 13 回 ブラジルの中絶／銃規制への賛否と信仰</p> <p>第 14 回 ブラジル先住民の過去と現在</p> <p>第 15 回 ブラジルの宗教と社会－総括</p>		
授業形態※	対面		
評価方法※	授業での発言などの貢献度 10%、グループディスカッションとミニレポート 25%、確認試験 25%、最終期末レポート 40%		
評価基準			
テキスト			
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（ https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/ ）からシラバス検索で該当科目を確認してください。		
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	神田外語大学	学部・学科名※	外国語学部
科目名※	東南アジア宗教論 I	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	火曜日 4 時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	<p>① 授業のテーマと概要 上座部仏教とはミャンマー、タイ、カンボジア、ラオス、スリランカにて多数派の人々が信仰している仏教のことです。ただし、同じ仏教でも、私たちの知る日本の仏教とは大きく異なっています。例えば、上座部仏教の僧侶は、一般の人々を救うためではなく、基本的には自分自身の救済のために出家しています。それなのになぜ僧侶は、人々から広く尊敬を集めているのでしょうか。本授業では、上座部仏教について、こうした基本的な考え方や実践内容を学ぶとともに、伝統的な王権との関係や、現代社会への対応、女性の出家の現状などを考えます。</p> <p>② 到達目標 東南アジアの上座部仏教社会について理解を深め、その価値観を尊重することができる。(DP3、7) 同時にテーマに基づいて異文化社会を批判的に分析することができる。(DP5)</p> <p>③ 授業形態 講義</p> <p>④ 準備学習とその時間 課題 2 回とレポート作成 (20 時間)</p>		
到達目標			
授業内容	<p>第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 上座部仏教とは何か 第 3 回 GW 課題 (持戒体験) 第 4 回 出家者の仏教： なぜ出家するのか① 第 5 回 出家者の仏教： なぜ出家するのか② 第 6 回 出家者の仏教： なぜ出家するのか③ 第 7 回 在家者の仏教： 積徳行とは何か 第 8 回 歴史： 王権と仏教 第 9 回 仏塔と経済 第 10 回 女性は出家できるか① 第 11 回 女性は出家できるか② 第 12 回 社会参加仏教 第 13 回 レポートの相互評価 第 14 回 仏教と政治 第 15 回 仏教と少数民族</p>		
授業形態※	対面		
評価方法※	<p>1) リアクションペーパー： 10% 2) 課題： 40% 3) 期末レポート： 50% ※欠席は 1 回につき減点 3%</p>		
評価基準			
テキスト			
注意事項	<p>この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 (https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/) からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。</p>		
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	神田外語大学	学部・学科名※	外国語学部
科目名※	ブラジルの民族・地理	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	火曜日 4 時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	<p>ブラジルの自然や民族の多様性を学び、ブラジル研究を進める上で必要な知識を得ることを目的とする（DP1）。</p> <p>授業ではブラジルの5つの地域の特徴を概観しながら、先住民をはじめとし、現在ブラジルに居住するアフリカ系、ヨーロッパ系、アジア系等の人々の移住の経緯や文化、地理や都市に関する知識を深める（DP3）。受講者はブラジルの都市、移住者集団についてプレゼンテーションを実施することで、特定のテーマに関する専門知識を身につける（DP3）。</p> <p>Google Classroom にアップされている授業で使用するプリントは必ず予習しておく。また、授業開始時には前回の授業の内容に関する質問をすることで復習にも力を注ぐ必要がある（予習復習を合わせて毎回 180 分程度）。</p> <p>ブラジル・ポルトガル語専攻以外の学生の受講も歓迎する。</p>		
到達目標			
授業内容	<p>第1回 講義概要および提出課題の説明 ブラジルの基礎知識の確認</p> <p>第2回 ブラジル史概観</p> <p>第3回 ブラジル5地域の特徴を知る（オンデマンド）</p> <p>第4回 アフリカ系住民（移住の経緯、文化と生活）</p> <p>第5回 先住民の生活と文化</p> <p>第6回 ヨーロッパ移民（イタリア系、ドイツ系など）</p> <p>第7回 アジア系移民（中東系、中国系、韓国系）</p> <p>第8回 アジア系移民（日本移民）</p> <p>第9回 在外ブラジル人（移住の経緯と生活文化）</p> <p>第10回 ブラジルの移住者集団に関する発表</p> <p>第11回 ブラジルの地形と気候</p> <p>第12回 ブラジルの都市①</p> <p>第13回 ブラジルの都市②</p> <p>第14回 ブラジルの地域（都市）に関する発表</p> <p>第15回 総括と期末試験</p>		
授業形態※	対面		
評価方法※	<p>原則として4回欠席した者、課題（プレゼン資料）未提出者、試験未受験者は評価の対象から外す。</p> <p>授業貢献 20%、課題（プレゼン） 30%、期末試験 50%。成績は A+ から F の評価とする。</p>		
評価基準			
テキスト			
注意事項	<p>この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/）からシラバス検索で該当科目を確認してください。</p>		
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	神田外語大学	学部・学科名※	外国語学部
科目名※	認知発達と英語教育 A	単位数※	4
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	火曜日 4 時限 金曜日 3 時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	<p>①授業のテーマと概要 本講座は、ことばの習得において重要な役割を担う乳幼児期・児童期に、「子どもの認知と言語がどのように発達するか」を学ぶ。 授業では、認知と言語の発達に関する種々の側面（概念の形成、語彙の発達、脳の機能と発達、文法の理解の発達、発達障害、心の理論など）を科学的な研究に基づいて学ぶ。さらに Piaget の発達理論や Vygotsky の社会文化理論などの諸理論より、学習がどのように成立するか学ぶ。</p> <p>②授業の目的と到達目標 本講座において学生は、以上の認知発達の過程と特徴、および、子どもの心理と言語習得に関する知識を修得すると同時に、これらの知識をどのように英語教育の指導方法や指導技術に応用できるかをともに考える。</p> <p>③授業形態 講義を中心に、学生は問題や課題について話し合ったり、案を出し合ったりしながら授業を進める。</p> <p>④準備学習とその時間 4 単位科目（週 2）⇒毎週 360 分（6 時間）の授業外学習を要す。 各章の終わりで学生は当該章から問題を考えてくる。各章で採択された問題（平均 6 問程度）に回答するために復習が必要である。</p>		
到達目標			
授業内容	<p>第 1 回 クラスの紹介（シラバス・レポート・宿題等の確認） 第 1 章 枠組みと方法 子どもの発達に関する重要な課題や疑問、また発達研究において用いられる主な行動学的・神経生理学的方法について学ぶ。</p> <p>第 2 回 第 1 章 枠組みと方法 子どもの発達に関する重要な課題や疑問、また発達研究において用いられる主な行動学的・神経生理学的方法について学ぶ。</p> <p>第 3 回 第 2 章 理論と方法 ロックやルソーの発達理論を学ぶ。またピアジェの発達の見方とヴィゴツキーの発達の見方の主要な点を学ぶ。さらに、愛着理論と動物行動学におけるその起源について、また、神経構成主義と、ウィリアムズ症候群のような発達障害が神経構成主義の枠組みの中でいかに理解できるかについて学ぶ。</p> <p>第 4 回 第 2 章 理論と方法 ロックやルソーの発達理論を学ぶ。またピアジェの発達の見方とヴィゴツキーの発達の見方の主要な点を学ぶ。さらに、愛着理論と動物行動学におけるその起源について、また、神経構成主義と、ウィリアムズ症候群のような発達障害が神経構成主義の枠組みの中でいかに理解できるかについて学ぶ。</p> <p>第 5 回 第 3 章 乳幼児期への導入 胎児期の発達と母親の影響、早産の長期にわたる認知的影響、早期の運動能力、生後 1 週間の赤ちゃんの知覚について学ぶ。</p> <p>第 6 回 第 4 章 乳児期の認知発達 乳児の対象のカテゴリー化の発達、初期の認知発達について学ぶ。</p> <p>第 7 回 第 5 章 初期の言語発達 言語発達が乳児の誕生前から始まっていること、乳児の音素認識について、喃語の段階、初期の言語発達と社会的文脈、語の認識、乳児の語彙の測定法などを学ぶ。</p>		

授業内容	第 8 回	第 5 章 初期の言語発達 言語発達が乳児の誕生前から始まっていること、乳児の音素認識について、喃語の段階、初期の言語発達と社会的文脈、語の認識、乳児の語彙の測定法などを学ぶ。
	第 9 回	第 6 章 乳児期における社会的、情動的発達 ここでは他者との関係が認知や言語的発達へばを提供するとともに、社会的、情動的発達に重要であることを学ぶ。乳児期に起こっていることは個々の生涯を通して起こることに影響することを学ぶ。具体的には、乳児の顔の認識能力とその重要性、早期の発達における模倣の役割、愛着について学ぶ。
	第 10 回	第 6 章 乳児期における社会的、情動的発達 ここでは他者との関係が認知や言語的発達へばを提供するとともに、社会的、情動的発達に重要であることを学ぶ。乳児期に起こっていることは個々の生涯を通して起こることに影響することを学ぶ。具体的には、乳児の顔の認識能力とその重要性、早期の発達における模倣の役割、愛着について学ぶ。
	第 11 回	第 7 章 就学前期への導入 2 歳から 6 歳の脳の発達と身体的、精神的発達、運動能力の主な変化、描画能力の発達について学ぶ。
	第 12 回	第 7 章 就学前期への導入 2 歳から 6 歳の脳の発達と身体的、精神的発達、運動能力の主な変化、描画能力の発達について学ぶ。
	第 13 回	第 8 章 就学前期の認知能力 就学前期におけるピアジェの認知発達に関する考え、推理や問題解決の発達とそれらの測定方法・課題、見かけと現実の区別の発達、心の理論の発達と自閉スペクトラムとの関係について学ぶ。
	第 14 回	第 8 章 就学前期の認知能力 就学前期におけるピアジェの認知発達に関する考え、推理や問題解決の発達とそれらの測定方法・課題、見かけと現実の区別の発達、心の理論の発達と自閉スペクトラムとの関係について学ぶ。
	第 15 回	第 9 章 就学前期における言語発達 内側から外への言語発達理論と外側から内への言語発達理論、チョムスキーとピンカーの生得理論、文法的発達と子どもが受ける言語入力との関係について、過大規則化の誤りと、それがなぜ言語発達の理論において重要であるか、早期の文法理解を理解するための選好注視法、特異的言語発達障害の主な特徴などについて学ぶ。
	第 16 回	第 9 章 就学前期における言語発達 内側から外への言語発達理論と外側から内への言語発達理論、チョムスキーとピンカーの生得理論、文法的発達と子どもが受ける言語入力との関係について、過大規則化の誤りと、それがなぜ言語発達の理論において重要であるか、早期の文法理解を理解するための選好注視法、特異的言語発達障害の主な特徴などについて学ぶ。
	第 17 回	第 10 章 就学前期の社会性と情動の発達 就学前期の子どもの友達関係の発達と良好な相互交渉の基礎となる重要なスキルについて、性差について気づき、自己理解、ふり遊びの発達の意義などについて学ぶ。
	第 18 回	第 11 章 児童中期への導入 運動技能の発達と行動の性差、脳の発達過程、注意欠如多動性（ADHD）の主要な特性と診断方法、発達性協調運動症（DCD）の特性とそれを持つ子どもの動きの計画の困難さについて学ぶ。
	第 19 回	第 12 章 児童中期の認知発達 ピアジェの具体的操作的推理、ワーキングメモリの変化、数的処理を学ぶときに直面する課題、計算障害の特徴、数学的能力の文化間の差について学ぶ。
	第 20 回	第 12 章 児童中期の認知発達 ピアジェの具体的操作的推理、ワーキングメモリの変化、数的処理を学ぶときに直面する課題、計算障害の特徴、数学的能力の文化間の差について学ぶ。
	第 21 回	第 12 章 児童中期の認知発達 ピアジェの具体的操作的推理、ワーキングメモリの変化、数的処理を学ぶときに直面する課題、計算障害の特徴、数学的能力の文化間の差について学ぶ。

<p>授業内容</p>	<p>第 22 回 第 13 章 読み書き能力 (リテラシー) 子どもはどのように読みを学ぶかを決める主要な要因、記号解読スキルと読みの理解の違い、書体によって読みの困難度が違う理由、子どもが文字を綴るときに用いる方法、発達性ディスレクシアの特徴と読みの理解の障害との違い、手書きの困難さが学校での学習に影響する理由などについて学ぶ。</p> <p>第 23 回 第 13 章 読み書き能力 (リテラシー) 子どもはどのように読みを学ぶかを決める主要な要因、記号解読スキルと読みの理解の違い、書体によって読みの困難度が違う理由、子どもが文字を綴るときに用いる方法、発達性ディスレクシアの特徴と読みの理解の障害との違い、手書きの困難さが学校での学習に影響する理由などについて学ぶ。</p> <p>第 24 回 第 13 章 読み書き能力 (リテラシー) 子どもはどのように読みを学ぶかを決める主要な要因、記号解読スキルと読みの理解の違い、書体によって読みの困難度が違う理由、子どもが文字を綴るときに用いる方法、発達性ディスレクシアの特徴と読みの理解の障害との違い、手書きの困難さが学校での学習に影響する理由などについて学ぶ。</p> <p>第 25 回 第 14 章 児童中期の社会性と感情性の発達 友人関係の発達、「公正」「悪意」の考え方の発達、ピアジェとコールバーグによる道徳性の発達、「感情表現ルール」の意味と、非社会的状況に対する子どもの反応の変化、性役割 (ジェンダー) の発達について学ぶ。</p> <p>第 26 回 第 15 章 青年期の導入 青年期を通じての脳の発達変化と、青年期特有の行動との関係、青年期の行動に及ぼす文化の影響について学ぶ。</p> <p>第 27 回 第 16 章 青年期の認知発達 ピアジェの形式的操作的推理、道徳的推理、青年期の実行機能の発達とその大脳の発達との関係について学ぶ。</p> <p>第 28 回 第 17 章 青年期の社会的、情動的発達 青年期の道徳的判断は社会・文化的要因にどのように影響されるか、青年期の家族・友人との関係の重要性、愛着の長期にわたる成り行き、攻撃性といじめの型の性差、家族・親の役割について学ぶ。</p> <p>第 29 回 全体の振り返り 課題の確認</p> <p>第 30 回 期末テスト、その他</p>
<p>授業形態※</p>	<p>対面</p>
<p>評価方法※</p>	<p>期末テスト 40% レポート 30% 宿題 30%</p>
<p>評価基準</p>	
<p>テキスト</p>	
<p>注意事項</p>	<p>この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 (https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/) からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。</p>
<p>授業シラバス</p>	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	神田外語大学	学部・学科名※	外国語学部
科目名※	スペイン語音声学 I	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	木曜日 2 時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	<p>① 授業のテーマと概要 本授業では、まず、スペイン語の調音音声学を学ぶ。日本語とスペイン語で調音器官、調音点、及び調音法の用語も学ぶ。英語、日本語の音の違いも指摘する。次に、スペイン語の単語は次の音と一緒に発音されることが多いので（いわゆるリエゾンという現象）、これに慣れるためにスペイン語会話を聞き取って書く、即ちディクテーション（dictado; dictation）を行う。</p> <p>② 授業の目的と到達目標 ・スペイン語音声学に関する気補填きな用語や知識を身につける。（DP3） ・スペイン語のさまざまな音声事象について理解する。（DP3） ・とりわけスペイン語教育の観点から、スペイン語の音声学的特徴を理解する。（DP3）</p> <p>③ 授業形式 前半（1/2～2/3）は講義形式、後半は演習形式（ディクテーションなど）</p> <p>④ 授業外学修時間 予習：メインテキストや資料の指定されたページ等を読み、理解が難しい用語などを適宜、百科事典や言語学辞典などで調べる。問題点は整理して、授業時に質問できるようにしておく。（60 分） 復習：学習内容の復習と振り返り（リアクションペーパー）、さらにディクテーションの完成を目指す。テキストやノート、資料等を見返して復習する。関連文献を参照して学習項目の理解を深める。学習内容やディクテーションを振り返り、面白かったり難しかったりした事柄や、間違えた部分を音声学の知見から考察したことをリアクションペーパーとして書く。授業時に書き取りきれなかったディクテーションをできる限り完成させる（120 分）</p>		
到達目標			
授業内容	<p>第 1 回 オリエンテーション（授業の目的・進め方について） 概論：音声学とは 第 2 回 調音器官、発音記号（IPA）、母音と子音、有声/無声と調音点と調音法 第 3 回 スペイン語の母音、音節、アクセント スペイン語の子音 両唇閉鎖音：無声音[p]と有声音[b]、両唇摩擦音：有声音[β] 第 4 回 歯裏閉鎖音：無声音[t]と有声音[d]、歯裏閉鎖音：有声音[ð] 第 5 回 軟口蓋閉鎖音：無声音[k]と有声音[g]、軟口蓋摩擦音：有声音[ɣ] 第 6 回 無声唇歯摩擦音[f]と無声歯間摩擦音[θ] 第 7 回 歯茎摩擦音：無声音[s]と有声音[z] 第 8 回 有声硬口蓋摩擦音[j]と有声硬口蓋接近音[j̞] 第 9 回 硬口蓋破擦音：有声音[dʒ]と無声音[tʃ] 第 10 回 両唇鼻音[m]と歯茎鼻音[n] 第 11 回 硬口蓋鼻音[ɲ]と無声軟口蓋摩擦音[x] 第 12 回 歯茎側(面接近)音[l̪]と硬口蓋側(面接近)音[ɻ] 第 13 回 歯茎たたき音[r̄]と顫動音(ふるえ音)[r̄] 第 14 回 前期の総復習と期末試験 第 15 回 前期のまとめ スペイン語の歌、詩と音節構造</p>		
授業形態※	対面		

評価方法※	授業活動、リアクションペーパー…20% 演習課題、期末試験…50% ディクテーション…30%
評価基準	
テキスト	
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（ https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/ ）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	神田外語大学	学部・学科名※	外国語学部
科目名※	現代スペイン文学 I	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	木曜日 2 時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	<p>1. Tema y esquema del curso: En este curso estudiaremos las obras literarias españolas más importantes escritas entre la Edad Media y el siglo XIX. El estudio de estas obras se llevará a cabo a través de la lectura de textos significativos traducidos al japonés y de extractos fílmicos de películas que adaptaron las obras. 授業のテーマと概要 本講義では中世から 19 世紀までのスペインの重要な文学作品について学びます。取り上げる作品については、日本語に翻訳されたものを読み、映画などの映像を見て理解を深めます。 Course Theme and Outline: In this course we will study the most important Spanish literary works written between the Middle Ages and the 19th century. The study of these works will be carried out through the reading of significant texts translated into Japanese and film extracts from films that adapted the works.</p> <p>2. Objetivos y metas: Aprender la historia de la literatura española y comprender las características y diversidad de la cultura española. (DP3) Conocer las características fundamentales de la literatura española en cada período histórico-literario. Conocer a los escritores y obras más importantes de cada época. Reconocer las particularidades de las obras que se analicen en clase. (DP1) Aprender a comentar de manera adecuada un texto literario. Adquirir los conocimientos básicos para hablar de literatura española en cualquier situación comunicativa. Fomentar el pensamiento crítico a través de los textos literarios. 授業の目的と到達目標 スペイン文学の歴史を学び、スペイン文化の特徴と多様性を理解する。(DP3) スペイン文学における、歴代作品の基本的な特徴を知る 各時代の優れた著者についてと、その作品について知る 授業で分析する作品の特徴についての理解を深める 文学作品に適切な注釈をつける方法を学ぶこと スペイン文学について語るうえで、必要な基礎知識を身につけること 文学作品を通じて、批判的思考を考える力を身につけましょう。 Objectives and Goals: Learn the history of Spanish Literature and understand the characteristics and diversity of spanish culture. (DP3). Know the fundamental characteristics of Spanish literature in each historical-literary period. Get to know the most important writers and works of each era. Recognize the particularities of the works that are analyzed in class. Learn to adequately comment on a literary text. Acquire the basic knowledge to speak of Spanish literature in any communicative situation. Promote critical thinking through literary texts.</p>		

	<p>3. Dinámica de la clase Los estudiantes leerán textos representativos de la literatura española y expondrán sus comentarios y opiniones durante la clase. El profesor explicará las características y elementos esenciales de las obras para que los estudiantes tengan una base sobre la que fundamentar sus opiniones. Class Formats: Students will read representative texts of Spanish literature and present their comments and opinions during class. The teacher will explain the characteristics and essential elements of novels so that students have a basis on which to base their opinions.</p> <p>4. Tiempo de preparación de la clase Preparación: lectura de los textos proporcionados en clase. (90 minutos) Revisión: Revisión de los textos conforme a lo aprendido en clase (90 minutos) Preparation study and amount of time Preparation: reading of the texts provided in class. (90 minutes) Review: Review of the texts according to what was learned in class (90 minutes)</p>
到達目標	
授業内容	<p>第1回 Introducción a la asignatura / オリエンテーション、シラバス確認 第2回 La literatura medieval española / 中世スペイン文学 第3回 Análisis del "Cantar de mio Cid" / 『わがシッドの歌』の分析 第4回 Análisis de El conde Lucanor / 『ルカノール伯爵』の分析 第5回 Análisis de "La Celestina" / 『ラ・セレスティーナ』の分析 第6回 La literatura española del Siglo de Oro / スペイン黄金世紀文学 第7回 Análisis del "Lazarillo de Tormes" / 『ラサリーリョ・デ・トルメスの生涯』の分析 第8回 Análisis de "Fuenteovejuna" / 『フエンテ・オベフーナ』の分析 第9回 Análisis de "Don Quijote de la Mancha" / 『ドン・キホーテ・デ・ラ・マンチャ』の分析 第10回 La literatura española del Romanticismo / スペインロマン主義文学 第11回 Análisis de "Don Juan Tenorio" / 『ドン・ファン・テノーリオ』の分析 第12回 Análisis de las "Leyendas" / 『伝説集』の分析 第13回 La literatura española del Realismo y Naturalismo / スペイン写実主義文学 第14回 Análisis de "Fortunata y Jacinta" / 『フォルトウナータとハシクタ』の分析 第15回 Análisis de "La Regenta" y examen final / 『ラ・レヘンタ』の分析と学期末試験 対面</p>
授業形態※	
評価方法※	<p>Trabajo: 40% Examen (respuesta múltiple): 40% Participación en clase: 20% レポート 40% 試験 [選択問題] 40% 授業への貢献 20% Report: 40% Exam (multiple choice exam): 40% Contribution to the class: 20%</p>
評価基準	
テキスト	
注意事項	<p>この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 (https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/) からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。</p>
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	神田外語大学	学部・学科名※	外国語学部
科目名※	現代ラテンアメリカ研究 I	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	木曜日 2 時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	<p>① 授業のテーマと概要 この授業ではラテンアメリカの社会と文化について学びます。</p> <p>② 授業の目的と到達目標 ラテンアメリカの社会と文化について学び、その特質性と多様性を理解する (DP3)。</p> <p>③ 授業形態 講義形式：毎回の授業でグループディスカッションを行い、その内容を取り入れる予定です。 なお、交流協定校において日本語を学ぶメキシコ人学生とのタンDEM学習を調整していますが、先方の都合により中止となる可能性もあります。</p> <p>④ 準備学習とその時間 予習：配布資料や教科書を読み、わからない用語を予習 (45 分) 復習：ノートを見返し、授業で得た知識や理解した内容を確認 (45 分)</p>		
到達目標			
授業内容	<p>第 1 回 インTRODクシON</p> <p>第 2 回 食文化</p> <p>第 3 回 人種と階層社会</p> <p>第 4 回 先住民</p> <p>第 5 回 宗教 (1) : キリスト教の普及</p> <p>第 6 回 宗教 (2) : 植民地時代以前の宗教とキリスト教の融合</p> <p>第 7 回 環境問題 (1) : 開発と環境保全</p> <p>第 8 回 環境問題 (2) : 先住民から見た環境保全</p> <p>第 9 回 政治と経済 (1) : 独立から寡頭支配体制まで</p> <p>第 10 回 政治と経済 (2) : ポピユリズム</p> <p>第 11 回 政治と経済 (3) : 軍事政権</p> <p>第 12 回 政治と経済 (4) : 民政移管</p> <p>第 13 回 小説・映画</p> <p>第 14 回 音楽・絵画</p> <p>第 15 回 まとめ 発表の総評</p>		
授業形態※	対面		
評価方法※	授業への貢献度(42%)、発表 (58%)		
評価基準			
テキスト			
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 (https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/) からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。		
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	神田外語大学	学部・学科名※	外国語学部
科目名※	韓国語社会言語学 I	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	木曜日 2 時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	<p>① 授業のテーマと概要 本講義は、社会的文脈におかれた言語使用の実態を明らかにしようとする立場、つまり社会言語学的な観点に立って、現代韓国語を分析しようとするものです。</p> <p>② 授業の目的と到達目標 皆さんは、韓国語が使用される国・地域における歴史、文化、社会、政治、経済の特質を理解するとともに、アジアのダイナミズムに目を向け、広い視野で共生のあり方を考察する力を身が付きまます。(ディプロマ・ポリシー 3)</p> <p>③ 授業形態 韓国語の社会言語学について書かれた論文読んだり、インターネットで調べた資料についての解説を聞きながら、韓国語社会言語学に関する理解を深めて行きます。なお、授業の資料は、前もって Google Classroom にアップされています。</p> <p>④ 準備学習とその時間 予習：Google Classroom にアップされている授業資料を読んで、理解を深めておいてください。(2 時間) 復習：授業資料やノートを見返して、授業で得た知識や理解した内容を確認してください。(2 時間)</p>		
到達目標			
授業内容	<p>第 1 回 ・オリエンテーション (授業の目的・進め方について) 、シラバス確認 ・社会言語学の領域と基本概念</p> <p>第 2 回 ・「韓国の若者言葉と俗語 (356 単語・表現) 」その 1 : pp.1-15.</p> <p>第 3 回 ・「韓国の若者言葉と俗語 (356 単語・表現) 」その 2 : pp.16-30.</p> <p>第 4 回 ・課題提出</p> <p>第 5 回 ・「韓国の若者言葉と俗語 (356 単語・表現) 」その 3 : pp.31-45.</p> <p>第 6 回 ・「韓国の若者言葉と俗語 (356 単語・表現) 」その 4 : pp.46-60.</p> <p>第 7 回 ・「社会階層による言語特性の違い」その 1 : 研究目的</p> <p>第 8 回 ・「社会階層による言語特性の違い」その 2 : 研究方法</p> <p>第 9 回 ・「社会階層による言語特性の違い」その 3 : 音声/語彙</p> <p>第 10 回 ・「社会階層による言語特性の違い」その 4 : 文章/談話</p> <p>第 11 回 ・「言語と性 (gender) 」その 1 : 研究史概観</p> <p>第 12 回 ・「言語と性 (gender) 」その 2 : 研究方法</p> <p>第 13 回 ・「言語と性 (gender) 」その 3 : 応答語/疑問形語尾/語頭濃音化/母音変異</p> <p>第 14 回 ・「言語と性 (gender) 」その 4 : 語彙/発話行為/性差別的言語現象</p> <p>第 15 回 ・期末試験とその解説</p>		
授業形態※	対面		
評価方法※	定期試験と授業への貢献度を考慮して総合的に評価します。		
評価基準			
テキスト			
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 (https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/) からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。		
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	神田外語大学	学部・学科名※	外国語学部
科目名※	現代イベリア研究 I	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	木曜日 3 時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	<p>① 授業のテーマと概要：本科目は 21 年度から開始した新設科目です。この授業では、時代を 18 世紀後半から 20 世紀・1939 年のスペイン内戦の終了までに限定して、イベリア両国の政治経済の歴史の理解を深めます。国民国家を扱う以上、時代を 18 世紀後半から現代までに限定し、さらに政治経済の側面に注目する点がイベリア史概論と異なります。</p> <p>② 授業の目的と到達目標： A：スペイン・ポルトガルの歴史の展開がイベロアメリカ諸国とどう共通し、どのように異なるかを理解する。(DP-3) B：他の欧州諸国やアフリカとの交流や相克を広範なスケールで理解する。(DP-3, 4) C：イベリア諸国の動きを通して、農業社会・工業社会・情報社会へと移行する文明史的な見方や、多文化との共生・反発の歴史を理解する。(DP-1, 4)</p> <p>③ 授業形態：主に講義形式で行います。同時に、授業に関連する歴史や地理、政治・経済や文化人類学的な質問を挟んで答えてもらいます。</p> <p>④ 準備学習とその時間： 予習 = 配布資料と参考文献に目を通し、歴史の流れを把握する。(1 時間) 復習 = レジュメ、ノートなどを見返し、大きな歴史の流れを確認するとともに、政治・経済的な事柄とのかかわりを理解する(2 時間) 予習・復習のポイントは各項目の所に記しておきます。</p>		
到達目標			
授業内容	<p>第 1 回 【講義】イントロ：①スペイン・ポルトガルに関するアンケートを行う。②そのあと、イベリア半島の地政学的位置を明らかにする。 【予習】1 時間。イベリア諸国のイメージ、自分の知見を整理しておく。 【復習】2 時間。地政学が何であるかを確認する。</p> <p>第 2 回 【講義】18 世紀啓蒙主義時代のイベリア諸国：カルロス三世とポンバル侯爵による産業育成と教育改革 【予習】1 時間。イベリア両国の貿易状況をまとめておく。 【復習】2 時間。経済の自由化、宗教の寛容が何であるかをまとめる。</p> <p>第 3 回 【講義】19 世紀ナポレオン戦争時代：ナポレオンのイベリア半島侵入；自由主義憲法としてのカディス憲法制定。 【予習】1 時間。ナポレオンの人物像と業績を調べる。 【復習】2 時間。自由主義とは何であるかをその特徴を把握する。</p> <p>第 4 回 【講義】19 世紀イベロアメリカ諸国の独立と旧宗主国への影響：リエゴの反乱；ポルトガル国王の帰国とブラジル独立。 【予習】1 時間。「リエゴ賛歌」について調べる。 【復習】2 時間。ブラジルの独立の経緯を整理する。</p> <p>第 5 回 【講義】19 世紀イベリア諸国で並行する内乱：カルリスタ戦争とミゲリスタ戦争 【予習】1 時間。サリカ法典について調べる。 【復習】2 時間。両内戦の共通する特徴を把握する。</p> <p>第 6 回 【講義】19 世紀スペインの第一共和政 【予習】1 時間。これと同時代的に生じた明治維新の背後にある思想を調べておくこと。 【復習】2 時間。革命家で教育者のカステラルの思想についてまとめる。</p> <p>第 7 回 【講義】19 世紀スペインの王政・復古：穏健な王政と二大政党体制の成立。 【予習】1 時間。カノバスの人物像を調べておくこと。 【復習】2 時間。二大政党制の意義と限界をまとめる。</p>		

	<p>第8回 【講義】19世紀イベリア両国の工業発展と都市化の進展。 【予習】1時間。エッフェル塔で有名なエッフェルによる建築物を調べる。 【復習】2時間。スペインにあるビルバオとバルセロナの工業化をまとめる。</p> <p>第9回 【講義】1898年米西戦争の帰趨とポルトガルのアフリカ植民地構想 【予習】1時間。フィリピン、キューバの当時の政情を調べておく。 【復習】2時間。ポルトガルと英国との緊張をまとめておく。</p> <p>第10回 【講義】1910年のポルトガル革命：理念先行、現実を置き去りにした憲法発布 【予習】1時間。メキシコ革命やロシア革命の理念を調べておく。 【復習】2時間。ポルトガル共和革命の脆弱性をまとめる。</p> <p>第11回 【講義】1910年代と20年代のイベリア諸国の混乱 【予習】1時間。エサ・デ・ケイロス著「アマロ神父の罪」によりポルトガル社会の状況を調べておく。 【復習】2時間。スペインと北モロッコとの抗争を整理しておく。</p> <p>第12回 【講義】1920年代のスペイン独裁者プリモ・デ・リベラ：汎欧州的なファシズムの動向 【予習】1時間。イタリアの独裁者ムッソリーニの思想と行動を調べる。 【復習】2時間。プリモ・デ・リベラによる産業振興策の全体像をまとめる。</p> <p>第13回 【講義】スペイン内戦（1936から39年）と授業のまとめ：人民戦線と国民戦線との抗争；フランコ・サラザール体制の成立。 【予習】1時間。フランスやチリでの人民戦線の実情を調べる。 【復習】2時間。スペインにおける対立のポイントを整理しておく。</p> <p>第14回 【講義】19世紀カタルーニャにおける“文化復興”運動 【予習】1時間。カタルーニャ語の特徴を調べる 【復習】2時間。カタルーニャ復興運動の特色を整理する</p> <p>第15回 【講義】ポルトガルの独裁者サラザールとグルベンキャン。全体のまとめ 【予習】1時間。オスマントルコにおけるアルメニア人の位置づけを調べる 【復習】2時間。グルベンキャンの文化活動をまとめる</p>
授業形態※	対面
評価方法※	期末レポートをはじめ数回のレポート70%、授業発表貢献点30%の割合で合算して成績を出す。レポートは講評を行います。
評価基準	
テキスト	
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（ https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/ ）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	神田外語大学	学部・学科名※	外国語学部
科目名※	東南アジア史 I	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	木曜日 5 時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	<p>①授業のテーマと概要： 本講義では、古くからさまざまなヒト、モノ、情報が交錯するコスモポリタンシティ（国際都市）であった東南アジア地域の歴史に焦点を当て、異質な人々同士が出会い、モノや情報を交換し、技術を学び、伝えながら、お互いに良好な（時として野蛮な）関係を取り結んでいったことについて、じっくり考え、議論していきたいと考えています。 前期の東南アジア史 I では、前近代東南アジア海域に跋扈した「海賊」に焦点を当てます。映像資料（映画、ドラマ）や文献資料（小説、学術論文）を積極的に利用しながら、資料から見えてくる「事実」を学び、その意味を解き明かすとともに、資料からは十分に見えてこない部分の「事実」も想像しながら、「海賊」の存在の表と裏に迫っていきましょう。</p> <p>②授業の目的と到達目標： 日本や世界との関わりをふまえたうえで、東南アジアの人々が歩んできた歴史を深く理解する DP(3)</p> <p>③授業形態： 授業の進度や履修者の要望等を勘案しながら、講義と、グループディスカッションやグループワーク、ゲスト講師を招いた体験学習型授業等のアクティブ・ラーニングを適宜組み合わせで行う。</p> <p>④準備学習とその時間： 授業外の自主学習として、毎週 2 時間の事前・事後学習を必要とする（15 週で計 30 時間）。 ・毎回の講義内容の復習とリアクションペーパーの記入と提出（事後学習） ・授業内容に応じて適宜教員から配布される課題資料を事前に読み、自分自身の考えをまとめてくること（事前学習）。</p>		
到達目標			
授業内容	<p>第 1 回 イン트로ダクション 第 2 回 地域概念としての「東南アジア」 第 3 回 前近代東南アジアの海と「海に生きる人たち」①講読 第 4 回 前近代東南アジアの海と「海に生きる人たち」②ディスカッション 第 5 回 コスモポリタンシティとしての港市国家①講読 第 6 回 コスモポリタンシティとしての港市国家②ディスカッション 第 7 回 大航海時代と船乗りたち①講読 第 8 回 大航海時代と船乗りたち②ディスカッション 第 9 回 西洋社会から東南アジアへの「まなざし」①講読 第 10 回 西洋社会から東南アジアへの「まなざし」②ディスカッション 第 11 回 「東インド会社」とはなにものだったのか？ ①講読 第 12 回 「東インド会社」とはなにものだったのか？ ②ディスカッション 第 13 回 日本の「鎖国」を考えてみる①講読 第 14 回 日本の「鎖国」を考えてみる②ディスカッション 第 15 回 期末レポートへのフィードバックと発展学習</p>		
授業形態※	対面		
評価方法※	授業への貢献度（グループディスカッションおよびプレゼンテーションでのプレゼンスを含む）、リアクションペーパー、期末レポートの内容をもとに、総合的に評価する。		

評価基準	
テキスト	
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（ https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/ ）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	神田外語大学	学部・学科名※	外国語学部
科目名※	東南アジア政治経済論 I	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	金曜日 1 時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	<p><授業の概要> 本講義では、東南アジア地域および各国における政治経済の現状と、それぞれが抱える問題を理解することにより、豊かな教養を有し国際社会に貢献しうる自立した人材を養成することを目指す。</p> <p><授業の目的と到達目標> 東南アジア地域および各国に関する基本知識、それらの歴史的背景、そして政治経済の現状と、現在抱える問題を理解する。(DP3)</p> <p><必要な準備学習> 予習：次回授業用の資料を読み、不明な用語を予習。(90分) 復習：資料やノートを見返し、授業で得た知識や理解した内容の確認。(90分)</p>		
到達目標			
授業内容	<p>第1回 インTRODクシヨン：東南アジアというまとまりと、その国々 第2回 ミャンマー（ビルマ） 第3回 タイ 第4回 ベトナム 第5回 カンボジア、ラオス 第6回 フィリピン 第7回 マレーシア、シンガポール、ブルネイ 第8回 インドネシア 第9回 東チモール 第10回 冷戦下の東南アジア 第11回 ASEAN の発展 第12回 東南アジアの対外関係 第13回 東南アジアの人権問題 第14回 東南アジアの紛争 第15回 まとめと今後の課題</p>		
授業形態※	対面		
評価方法※	筆記試験		
評価基準			
テキスト			
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（ https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/ ）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。		
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	神田外語大学	学部・学科名※	外国語学部
科目名※	韓国語文法論 I	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	金曜日 2 時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	<p>① 授業のテーマと目的 この授業の目的は、韓国語能力試験（TOPIK）最上級である 6 級に合格できるだけ韓国の文法能力を身に付けることです。</p> <p>② 授業の目的と到達目標 韓国語が使用される国・地域における文化、社会の特質を理解するとともに、アジアのダイナミズムに目を向け、広い視野で共生のあり方を考察する力が、皆さんには身に付きます。（ディプロマ・ポリシー-3）</p> <p>③ 授業形式 毎回の授業で、投影されたパワーポイントのスライドを見るとともに、教員の解説も参考にしながら、韓国語の様々な文法形式（後期に行われる「韓国語文法論Ⅱ」と合わせて 173 個）を学んでいきます。</p> <p>④ 準備学習とその時間 予習：Google classroom に前もってあげられている授業内容に関する PDF ファイルを見ておいてください。（2 時間） 復習：授業時間に配ったプリントを見返しつつ、Google classroom にあげられている「テスト」の問題を解いてください。（2 時間）</p>		
到達目標			
授業内容	<p>第 1 回 ・オリエンテーション（授業の目的・進め方について、韓国語能力試験の概要説明）、シラバス確認、「文法事項目録」の概説 ・「助詞」の 1～5（-같이, -나마/-이나마, -는커녕/-은커녕, -대로, -더러）</p> <p>第 2 回 ・「助詞」の 6～10（-든가/-이든가 -든지/-이든지, -라도/-이라도, -라든가/-이라든가, -라든지/-이라든지）</p> <p>第 3 回 ・「助詞」の 11～14（-란/-이란, -로부터/-으로부터, -로서/-으로서, -로써/-으로써）</p> <p>第 4 回 ・これまでの授業に関する課題提出</p> <p>第 5 回 ・「助詞」の 15～20（-마저, -만큼, -보고, -뿐, -조차, -치고）</p> <p>第 6 回 ・「後置詞」の 1～8（-은/-는 고사하고, -로/-으로 인하여, -로/-으로 인한, -에 따라서, -에 따르면, -에 의하면, -에 의하여, -에도 불구하고）</p> <p>第 7 回 ・「終止形語尾」の 1～5（Ⅰ-거든, Ⅰ-게, Ⅰ-고말고, Ⅰ-기는, Ⅱ-ㄴ걸/Ⅰ-는걸）</p> <p>第 8 回 ・「終止形語尾」の 6～9（Ⅰ-다고/Ⅰ-는다고/-라고, Ⅰ-다니/-라니, Ⅰ-다니까/Ⅰ-는다니까/-라니까, Ⅰ-다면서/Ⅰ-는다면서/-라면서）</p> <p>第 9 回 ・「終止形語尾」の 10～13（Ⅰ-더러, Ⅰ-더라고, Ⅰ-던데, Ⅰ-데）</p> <p>第 10 回 ・「終止形語尾」の 14～18（Ⅱ-ㄴ걸, Ⅱ-ㄴ래, Ⅱ-리라, Ⅱ-ㅂ시다 Ⅰ-잖아）</p> <p>第 11 回 ・「接続形語尾」の 1～6（Ⅰ-거나 Ⅰ-거니와, Ⅰ-거든, Ⅰ-거들랑, Ⅰ-건, Ⅰ-건대）</p> <p>第 12 回 ・「接続形語尾」の 7～12（Ⅰ-건마는, Ⅰ-고도, Ⅰ-고서, Ⅰ-고서는, Ⅰ-고서야, Ⅰ-고야）</p> <p>第 13 回 ・「接続形語尾」の 13～18（Ⅰ-고자, Ⅰ-기로서니, Ⅰ-기에, Ⅰ-길래, Ⅱ-ㄴ데도/Ⅰ-는데도, Ⅱ-ㄴ들）</p> <p>第 14 回 ・「接続形語尾」の 19～24（Ⅱ-나, Ⅰ-노라면, Ⅰ-느니, Ⅰ-느라고, Ⅱ-니/Ⅰ-느니, Ⅱ-니만큼/Ⅰ-느니만큼）</p> <p>第 15 回 ・期末試験と解説</p>		
授業形態※	対面		

評価方法※	筆記試験、授業への貢献度を考慮して総合的に評価します。
評価基準	
テキスト	
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（ https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/ ）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	神田外語大学	学部・学科名※	外国語学部
科目名※	韓国史概論 I	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	金曜日 3 時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	この講義では、朝鮮半島を中心とした地域の歴史を学び、その展開を東アジア史の中に位置づけながら理解することを目的とする。それによって日本列島の歴史をより相対的に理解するための視角を得ることができるだろう。前期の I では古代～近世の歴史を学ぶ。		
到達目標			
授業内容	<p>第 1 回 韓国朝鮮史を学ぶために</p> <p>第 2 回 歴史における「朝鮮」の登場と高句麗</p> <p>第 3 回 高句麗・百済の成長と葛藤</p> <p>第 4 回 新羅の成長と半島統一</p> <p>第 5 回 統一新羅と渤海</p> <p>第 6 回 高麗王朝の建国</p> <p>第 7 回 高麗前期における国家体制の整備</p> <p>第 8 回 中間試験</p> <p>第 9 回 高麗社会の展開</p> <p>第 10 回 モンゴルの侵略と高麗後期の文化</p> <p>第 11 回 朝鮮王朝の成立</p> <p>第 12 回 朝鮮前期の支配体制</p> <p>第 13 回 朝鮮前期の政治と社会</p> <p>第 14 回 朝鮮前期の政争と国際関係</p> <p>第 15 回 期末試験と総括</p>		
授業形態※	対面		
評価方法※	中間・期末試験による。なお授業への積極的なとりくみも考慮する。		
評価基準			
テキスト			
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 (https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/) からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。		
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	神田外語大学	学部・学科名※	外国語学部
科目名※	米国政治・外交論 I	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	金曜日・4 限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	<p><授業の概要> 本授業の目的は、アメリカの政治・外交について理解を深めるものである。「米国政治・外交論 I」では 17 世紀の建国期から太平洋戦争までの期間を扱い、歴史学、国際政治学の観点からアメリカの政治・外交について考察する。具体的に受講生は①アメリカのナショナリズムと政治の理念（デモクラシー、リベラリズム）、②帝国主義、③国際主義、以上 3 つの概念について、講義、リーディング課題、プレゼンテーション、ディスカッションを通して関心と理解を広げ、深めていく。</p> <p><到達目標> 1. アメリカのナショナリズムと政治の根幹にあるデモクラシー、リベラリズムについて、憲法・法律や外交の観点から説明することができる。 2. アメリカの帝国主義について、国際政治、資本主義、文化・宗教といった多角的な視点から論じることができる。 3. アメリカ外交のキーワードの 1 つである国際主義について、歴史学・国際政治学の観点から説明することができる。</p> <p><授業の流れ> 1. 受講生は各授業前までに、課題のリーディング資料を読み、関心のある事項についてまとめてくる。資料は Google Classroom にアップロードされる。 2. 資料のサマリーについて、グループで 15 分間のプレゼンテーションを行う（1、2 回程度）。プレゼンターは報告の最後に、授業内で行うディスカッションの論点を提示する。 3. 受講生は講師から講義を受ける。必要な箇所はメモを取る。 4. 講義後に受講生はプレゼンターと講師から出された論点について、ディスカッションを行う。各グループは議論した内容の概要について、授業内で報告を行う。</p> <p><準備学習（予習・復習）について> 受講生は毎回、①課題のリーディング資料に目を通す。次に、②その内容から関心のある点を整理する。③必要に応じて書籍や Web 上でリサーチを行い、①～③の行程で講義内やディスカッションで発言できるよう準備を行う。目安となる準備学習の時間は、各回 2 時間程度。 復習のため、不定期に小テストを実施する。復習の所要時間目安は 2 時間程度。</p>		
到達目標			
授業内容	第 1 回 インロダクション 第 2 回 建国外交 第 3 回 国際戦争の進行とアメリカ外交 第 4 回 【オンライン】課題 第 5 回 対英戦争終結とモンロー主義 第 6 回 西部への発展と日米外交の黎明 第 7 回 19 世紀後半のアメリカ外交 第 8 回 帝国主義外交の展開 第 9 回 ウィルソン外交と第一次世界大戦 第 10 回 戦争とアメリカニズム 第 11 回 1920 年代のアメリカ外交 第 12 回 F・D・ルーズベルトの外交 第 13 回 戦間期のアメリカ 第 14 回 太平洋戦争 第 15 回 総括		

授業形態※	対面
評価方法※	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加（リーディング、プレゼンテーション、ディスカッション、授業内での発言等）：40ポイント ・小テスト、課題：30ポイント ・最終レポート：30ポイント 合計：100ポイント
評価基準	
テキスト	
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（ https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/ ）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	淑徳大学	学部・学科名※	コミュニティ政策学部 コミュニティ政策学科
科目名※	宗教と科学	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度前学期	曜日・時限※	月曜日 5 時限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	12-101
学修分野			
授業目的※	宗教と科学それぞれの基礎的知識を養い、両者の関連性を把握し、あわせて人間生活における宗教の役割を考察する力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会現象としての宗教を対象化して人間理解として観る姿勢を培う。 2. 社会科学、自然科学の在り方を具体的テーマを通じて理解する。 3. 「宗教と科学」との関連を考察することの意味を把握することができる。 		
授業内容	宗教と自然科学および社会科学との関連について知的な興味をもつ学生諸君の関心に応えて、人生と科学とのかかわりをさまざまな側面から学生諸君の理解に合わせて講述する。そのさい宗教と科学を架橋する考え方を平面的に解説するだけでなく、宗教の意味や役割を考察することにより、「宗教と科学」の問題を学生諸君が自分自身の課題として考える糸口になるようにしたい。		
授業形態※	授業は講義形式でおこなわれ担当者が毎回の授業運営にあたるが、約半数の授業では授業のなかに 2 人ずつのペアワーク、3 人以上のグループワークといったアクティブラーニングを取り入れる。		
評価方法※	宗教現象を、人間理解の一助とし、社会科学、自然科学的文脈で対象化して理解し、「宗教と科学」との関連について理解するための授業内容に関する、事前・事後学習、小レポート、授業内試験（レポート提出）により総合的に評価する。		
評価基準	事前事後学習レポート 30 点、小レポート 30 点、授業内試験 40 点の計 100 点		
テキスト	この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。		
注意事項	<p>15 回を通じて、主体的に学修に取り組むこと。</p> <p>事前・事後学習を欠かさないこと。</p> <p>提出物は必ず提出すること。</p>		
授業シラバス	<p>「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。</p> <p>https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp</p>		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	淑徳大学	学部・学科名※	コミュニティ政策学部 コミュニティ政策学科
科目名※	福祉政策と社会保障 A	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度前学期	曜日・時限※	火曜日 1 時限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	7-201
学修分野			
授業目的※	公共政策のなかの福祉政策の位置づけや性格の理解を目指す。また、社会保障制度の体系・機能・給付内容に関する基礎知識の習得を目的とする。		
到達目標	福祉政策に関する基礎理論を理解している。 社会保障・社会福祉の歴史的発展過程を理解している。 社会保障制度の体系、機能、給付内容を理解している。		
授業内容	現代社会における福祉問題に対する理解を深めた上で、社会福祉の概念や理念および福祉政策の理論について考察する。また、社会福祉および社会保障の歴史的発展過程を踏まえた上で、社会保障制度の体系・機能・給付内容について学習する。		
授業形態※	講義形式を基本としながら、その中にアクティブラーニングの手法を導入する。福祉政策・社会保障の諸課題を理解するためのペアワーク、グループワークなどを実施し、学生の主体的参加や能動的学習を重視した授業を実施する。 ■ 外部講師を招聘する授業回について ※外部講師（ゲストスピーカー）は、90 分授業の一部分のみを担当します。 ※外部講師招聘日は外部講師の都合により変更となる可能性があります。		
評価方法※	授業内試験によって、社会保障に関する基礎的な知識の習得および諸課題の理解に対する評価をおこなうことを基本としつつ、リアクションペーパー、レポートを加味して総合的に評価する。なお、授業内試験は各授業で随時おこなう「確認テスト」と、第 14 回授業（外部講師を招聘する授業の授業回が変更となった場合は、第 15 回授業）で行う「最終確認テスト」がある。		
評価基準	リアクションペーパー 20 点、レポート 30 点、授業内試験 50 点（うち確認テスト 30 点、最終確認テスト 20 点）、100 点満点		
テキスト	この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。		
注意事項	事前・事後学習は必ず行うこと。		
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	淑徳大学	学部・学科名※	コミュニティ政策学部 コミュニティ政策学科
科目名※	福祉政策と社会保障 B	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度前学期	曜日・時限※	火曜日 2 時限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	15-202
学修分野			
授業目的※	現代社会における福祉政策や福祉制度に関する基礎知識を習得するとともに、福祉政策の現状と課題についての認識を深めることを目的とする		
到達目標	福祉政策に関する基礎理論を理解している 福祉政策の歴史的発展過程を理解している 社会保障制度の体系、機能、給付内容、財政システムを理解している		
授業内容	現代の福祉問題と諸政策の事例を取り上げ、公共政策のなかの福祉政策の果たす役割を考察するとともに、福祉政策の位置づけや性格の理解を目指す。また、社会保障制度の体系・機能・給付内容に関する基礎的理解をもとに社会保障制度の重要性について理解を深める ※外部講師（ゲストスピーカー）は、90 分授業の一部分のみを担当する		
授業形態※	基本的に講義形式で行うが、その中にアクティブラーニングの手法を導入し、福祉政策・社会保障の諸課題を理解するためのペアワークなどを実施し、学生の主体的参加や能動的学習を重視した授業を実施する ■ 外部講師を招聘する授業回について ※外部講師（ゲストスピーカー）は、90 分授業の一部分のみを担当します。 ※外部講師招聘日は外部講師の都合により変更となる可能性があります。		
評価方法※	授業内試験によって福祉政策と社会保障に関する基礎的な知識の習得に対する評価をおこなうことを基本としつつ、リアクションペーパー、レポートを加味して総合的に評価する		
評価基準	リアクションペーパー10 点、レポート 20 点、授業内試験 70 点、100 点満点		
テキスト	この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。		
注意事項	特になし		
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	淑徳大学	学部・学科名※	総合福祉学部 実践心理学科
科目名※	人間の心理と行動 A	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度前学期	曜日・時限※	水曜日 4 時限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	15-301
学修分野			
授業目的※	心理学の基礎的な概念や理論、方法論を理解して、人間の心理と行動を客観的に把握する姿勢を身につける		
到達目標	自分自身の心の動きを客観的に把握できるようになる 他者の行動の背景にある心の動きやそのしくみを考慮できるようになる 心理学の基礎的な概念および理論と、それが導き出された過程について理解する		
授業内容	本講義は心理学の観点から、人間の心理と行動に対して科学的にアプローチしていく。講義の前半では、人が外界をどう理解し（知覚、認知）、それについてどのように反応し（記憶、推論、感情）、外界に働きかけていくのか（学習、動機づけ）といった個人内過程を扱う。後半では、人が自分や他人をどう理解し（パーソナリティ、自己）、他者とどのように関係を結んで影響を及ぼしあうのか（対人行動、社会的影響）、特に悩みをもった相手とどう向き合うのか（心理療法）について解説する。		
授業形態※	原則として講義形式で授業を行うが、アクティブラーニングの手法を取り入れることもある。履修者には、研究法の体験やその内容に基づく意見交換をする双方向型授業(アクティブラーニング)への参加、また、授業内提出の小レポートを通じて、自ら考えをまとめることが求められる。		
評価方法※	平常点（授業内レポート）50 点、試験 50 点		
評価基準	授業の冒頭と最後に出されるお題への回答が記入されている小レポートの提出をもって平常点とする。カードリーダーだけでは平常点はつかないので注意すること。		
テキスト	特に指定なし。レジュメを配布する。		
注意事項	他の受講生の邪魔になること（おしゃべりや飲食、化粧など）は禁止する。悪質な授業妨害があった場合、平常点を没収して退室を求める。速やかに従うこと。また、携帯電話、スマートフォンの使用は課題実施のために授業内で使用するときを除いて原則として禁止する。 ※履修希望者は初回の授業に必ず出席すること。 参考テキスト ISBN : 9784414301632, 「図説心理学入門 第 2 版」, 齊藤勇（心理学）, 誠信書房, 2005 年		
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	淑徳大学	学部・学科名※	総合福祉学部 実践心理学科
科目名※	日本社会と歴史文化	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度前学期	曜日・時限※	水曜日 5 時限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	5-102
学修分野			
授業目的※	<p>本授業では、文化がもっている、世代を通じて伝承される点、広範囲であること、経済・技術だけではない点、などの特色を考慮しつつ、日本が育んできた広がりのある豊かな歴史・文化を概観する。</p> <p>受講生は、日本がどのような歴史・文化をもっているところなのかについて、幅広い知識と理解を有することができるようになる。</p>		
到達目標	<p>日本に住んだ人々により、文化が多様に作られ、次第に統合されてきたあゆみを理解する。</p> <p>古代以来の中華帝国文明、近世伝来のキリシタン文化（南蛮文化）、幕末・近代以降のヨーロッパ文明が、日本の文化に影響を与えたことを理解し、日本と外来文化との関わりを理解する。</p> <p>過去に生まれた日本の文化と、現在の私たちの社会・文化・生活と関わっていることを理解し、日本・日本人に対する理解を深める。</p> <p>最終的には、①日本の歴史・文化で誇れること、②自分が外国・外国人との関係を支える為に大切にしたい日本文化、③今後作りたい日本文化、に対して明確な意見をもてるようにしたい。</p>		
授業内容	<p>日本という国家や日本の民族・文化は、有史以前からも含めて、長い年月を経て段階的に形成されてきている。明確にわかっていない歴史もある。</p> <p>授業全体として、日本に住んだ人々により、文化が多様に作られ、次第に統合されてきたあゆみを、主な歴史・文化とその流れを示すことにより捉えることとする。歴史・文化の日本的特色も明確にしたい。</p> <p>古代以来の中華帝国文明、近世伝来のキリシタン文化（南蛮文化）、幕末・近代以降のヨーロッパ文明が、日本の文化に影響を与えたことを示し、日本と外来文化との関わりを示す。</p> <p>また、過去に始まった文化が、現在の私たちの生活にも関わっていることも極力示し、日本・日本人に対する理解を深められるように留意する。</p> <p>なお、映像も、理解への手助けとして活用する。</p> <p>最終回には、日本の歴史・文化の継承・活用を考えるディスカッション（アクティブラーニングの1つ）の場を設け、一方的な講義だけに終わらないようにする。</p>		
授業形態※	<p>基本的には「対面授業」での講義形式で行うが、事前学習・事後学習で作成したレポート等を通しての意見交換も行う。</p> <p>最終回は、全員でのディスカッション（アクティブラーニングの1つ）を実践する。</p>		

評価方法※	出席 3 分の 2 以上を前提に、事前学習・事後学習レポートの数、事前学習・事後学習レポートの内容、授業参加態度、により総合的に評価する。
評価基準	<p><第 14 回目提出のレポート、授業参加態度、による評価> 事前学習・事後学習レポートの数（全部そろって始めて 10 点。休んだ回の事後学習・提出必要レポートは、その回のプリントを読んで考察したものでよいが、公欠の場合は公欠であったこともそこに明記）、事前学習・事後学習レポートの内容（事前学習 10 点、事後学習 80 点の合計 90 点。授業内容を理解し、歴史・文化に対する深い認識をもてたかをみる）、授業参加態度（授業内容に関する意見発表や質問、最終回ディスカッションでの発表は、1 度につき + 2 点<加点点評価の上限は、+ 4 点>。授業に関係のない作業、私語などは、1 度につき - 5 点。カードリーダーに入れた後などの理由告げずの戻らない途中退席は、1 度につき - 20 点<減点点評価の上限は、- 20 点>）</p> <p><第 14 回目提出のレポートを公欠で未提出の者> 事前学習・事後学習レポートを第 15 回授業最初に提出。上記の評価基準に準ずる。</p> <p><第 14 回目提出のレポートを公欠以外で未提出の者> 事前学習・事後学習レポートを第 15 回授業最初に提出。上記の評価基準に準ずるが、評価は 10 点落ちる。</p>
テキスト	※この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。
注意事項	重要なことは、シラバスと、配付資料（計 3 回）、などにより明確に伝えますが、特に評価方法、評価基準、レポートに関する指示、等はよく理解・把握してください。
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	淑徳大学	学部・学科名※	コミュニティ政策学部 コミュニティ政策学科
科目名※	社会福祉論	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度前学期	曜日・時限※	金曜日 2 時限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	5-301
学修分野			
授業目的※	誰もが社会福祉と無関係ではない。なぜなら、誰もが日々関わるさまざまな社会関係のなかで生じた「関係の不調」を社会福祉は対象とするからである。社会福祉分野で注目される考え方の基礎的な理解に込められた人間観・社会観を学習する。さらに受講生が自らの「コミュニティ政策学」の視点を育てるための一助とすることも合わせて目的とする。		
到達目標	①社会福祉の人間観・社会観を理解する。②自らも社会福祉と無関係ではないことを理解する。③「コミュニティと社会福祉」に関する自分なりの問題意識を育む。		
授業内容	(1) 社会福祉のしくみ、(2) 障害の社会モデル、(3) 伴走型支援、(4) 「当事者研究」、(5) 社会関連諸制度の概要（年金保険、介護保険、医療保険等）を理解する		
授業形態※	基本的に講義形式で行うが、その中にアクティブラーニングの手法を導入し、福祉の諸課題についての学生の主体的参加や能動的学習を重視した授業を実施する。また、DVD やビデオ等の映像資料を参考に、現実の社会問題について学び、課題や解決策をレポートする。		
評価方法※	7 回程度の「小レポート」（事前・事後学習）の質により総合的に評価する。なお、出席に関して、(1)学生証を忘れた場合のメモによる出席は 2 回まで（3 回目からは不可）。また基本的に 6 回以上欠席者のみ 15 回終了後にデータを「出席」に修正。(2)本人の出席カードタッチミスや確認漏れによる「出席」修正はできない		
評価基準	小レポート 100 点(20 点×3 回+10 点×4 回)		
テキスト	とくになし。参考資料は授業内で別途、紹介する		
注意事項	事前・事後学習をおこなうこと。参考文献を精力的に読んでみる。		
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	淑徳大学	学部・学科名※	コミュニティ政策学部 コミュニティ政策学科
科目名※	スポーツマネジメント	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度後学期	曜日・時限※	月曜日 5 時限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	10-202
学修分野			
授業目的※	本授業の目的は、Jリーグクラブの事例を中心に、スポーツビジネスの仕組みを理解し、これからのスポーツの在り方、スポーツクラブと地域の関係について考察し、スポーツマネジメントに関する知識や考え方を習得することである。		
到達目標	①スポーツの本来的意義、スポーツの在り方について、自分自身の意見を持ち、論理的に他者に説明することができる。 ②スポーツマネジメントに関する基本的な知識を理解しており、論理的に、他者に説明することができる。		
授業内容	スポーツの生み出す価値は、楽しさ、健康、エンターテインメントの提供にとどまらず、様々な分野と結びつき、人々の生活を豊かにし、地域の価値を向上させる重要なツールの 1 つとして期待されるようになってきている。本講義においては、Jリーグクラブの事例を中心に、スポーツを事業として展開する組織の活動を、組織構造や環境、消費者行動、マーケティング、地域連携といった様々な視点から解説し、学生と一緒に考えていくとともに、学生の関心、興味に応じて、Jクラブ、国際大会を経験してきた講師の知見を伝えていく。		
授業形態※	講義では、該当回の講義内容を 60 分程度、解説する。残りの 30 分程度で、授業内容について学生相互で振り返りを行う。 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。 詳細は以下の URL をご参照ください。 https://www.shukutoku.ac.jp/extra/pdf/chiba2025jitsumukyoin.pdf (【千葉キャンパス】2025 年度 実務経験のある教員一覧)		
評価方法※	事前事後学習の成果、中間・最終レポートの成果で総合評価する。		
評価基準	事前事後学習を含む毎回の課題の成果：30 点 中間レポート：30 点 最終レポート：40 点 S:100～90 点、A：89～80 点、B：79～70 点、C：69～60 点、D：60 点未満		
テキスト	この科目では特定の教科書を指定しない。授業内で使用する資料等については、別途授業内で案内する。		
注意事項	●グループワークすることがある。 ●グループワークなどの際、座席を指定することがある。 ●講義内での使用した資料の第三者への開示・転送は固く禁ずる。		
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	淑徳大学	学部・学科名※	コミュニティ政策学部 コミュニティ政策学科
科目名※	ボランティア・市民活動論 B【コミュ他学部】	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度後学期	曜日・時限※	月曜日 5 時限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	2-302
学修分野			
授業目的※	ボランティアに関する基本知識を身につけること、また、実践をととしてボランティアについて体験的に理解することを目的とする。自らがボランティアに従事するのみならず、地域社会の様々な課題を認識した上で公的機関・団体と共同してボランティア活動を組織し、地域社会に貢献できる調整力と実行力を身につける。		
到達目標	①ボランティアに関する基本的な知識を身につける。 ②ボランティアの意義と今日的課題を理解する。 ③ボランティアを実践する基礎力を養う。		
授業内容	<p>ボランティアとは何だろうか。講義をととしてその歴史、活動分野や種類、関連する制度について基本的な知識を身につけるとともに、実践をととしてその意義と今日的課題を体験的に学ぶ。</p> <p>なお、本科目は、ちば産学官連携プラットフォームの共同開発科目として、同プラットフォーム参加大学・短期大学と共同で展開される科目である。参加大学は、以下のとおりである。植草学園大学、神田外語大学、敬愛大学、敬愛短期大学、淑徳大学、千葉経済大学、千葉経済大学短期大学部、千葉明德短期大学、帝京平成大学、東京情報大学、放送大学。</p> <p>各大学・短期大学の取り組みを相互に学ぶと共に、千葉市内外におけるボランティア活動に共同で取り組み、体験的に学ぶものである。</p>		
授業形態※	講義、ボランティア実践の計画立案、実践および報告を組み合わせる授業を展開する。ちば産学官連携プラットフォーム参加校がそれぞれの大学におけるボランティア・市民活動の実践について講義し、大学を横断してボランティア・市民活動の知見を共有する。なお、担当校は 2024 年度実績に基づいており、順序等を入れ替えることもある。		
評価方法※	事前事後課題の提出状況及び内容に関する評価、ボランティア実践報告で評価する。		
評価基準	事前事後課題の提出状況及び内容に対する評価 80 点 ボランティア実践報告（パワーポイントを用いたプレゼン） 20 点		
テキスト	この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。		
注意事項	とくになし		
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	淑徳大学	学部・学科名※	コミュニティ政策学部 コミュニティ政策学科
科目名※	家族社会学	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度後学期	曜日・時限※	火曜日 1 時限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	10-202
学修分野			
授業目的※	少子高齢化が進むなかで、現代日本の家族はさまざまな問題に直面している。本講義のねらいは、現代日本の家族および家族をとりまく社会状況について理解を深めるところにある。		
到達目標	家族社会学における基礎概念や主要理論を理解することができる。統計資料等を根拠に家族の現状や変化を分析することができる。グローバル化する社会のなかで多様な価値観に支えられた家族の存在を認識し、彼らが直面している課題と支援について考えることができる。		
授業内容	家族に関する基礎概念や主要理論について解説するほか、未婚化、少子化、核家族化、小家族化、子ども虐待、高齢者介護といったトピックスを取り上げながら、家族の現状と家族が直面している諸問題を戦後の社会構造の変化や社会のグローバル化等と結びつけて考察していく。		
授業形態※	基本的には講義形式の授業を行うが、アクティブラーニングの手法（ペアワーク、ディスカッション等）の手法を活用する。		
評価方法※	事前事後学習課題および授業内試験の成績で判断する。授業を欠席し授業内試験を受けられなかった者には個別で対応する。		
評価基準	事前学習・事後学習課題 30 点、授業内試験 70 点、合計 100 点		
テキスト	この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。		
注意事項	事前・事後学習を欠かさないこと。		
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	淑徳大学	学部・学科名※	総合福祉学部 教育福祉学科
科目名※	コーチング理論	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度後学期	曜日・時限※	火曜日 5 時限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	15-501
学修分野			
授業目的※	コーチング/スポーツ指導をする上で必要となる知識および考え方を身につけ、対象者の体力レベルや状況に応じて適切な指導を実践出来るようにする。		
到達目標	<p>①スポーツ・運動指導者の役割を理解する。</p> <p>②トレーニング理論、スポーツ生理学、心理学等に基づくコーチングのあり方を理解する。</p> <p>③自身が選択したスポーツ・競技種目についてのコーチング方法についてまとめることができる。</p>		
授業内容	指導者の役割、スポーツ・運動指導の手法およびトレーニング理論を講義、実技、そして履修者自身のプレゼンテーションを通して学習する。		
授業形態※	<p>講義形式が中心だが、授業毎のテーマに即した練習問題を適宜設け、各自や小グループで取り組みその後フィードバックを行う。また、アクティブラーニングの手法を取り入れ、コーチングのあり方について、ディスカッションや演習形式での学習活動を行う。最終回では、各自がコーチングについてプレゼンテーションを行い、学生間での討議や意見の交流を深める。なお、一部の授業回では実技も交える。</p> <p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。 詳細は以下の URL をご参照ください。 https://www.shukutoku.ac.jp/extra/pdf/chiba2025jitsumukyoin.pdf (【千葉キャンパス】2025 年度 実務経験のある教員一覧)</p>		
評価方法※	1)毎授業時のミニレポート、2)最終回のプレゼンテーションの 2 点から総合的に評価する。		
評価基準	1)毎授業時のミニレポート：60 点、2)最終回のプレゼンテーション：40 点		
テキスト	この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。		
注意事項	科目の性質上、受講者が何らかの運動やスポーツの指導に今後、携わろうとしている、または志していることが望ましい。事前・事後学習を欠かさないこと		
授業シラバス	<p>「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。</p> <p>https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp</p>		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	淑徳大学	学部・学科名※	コミュニティ政策学部 コミュニティ政策学科
科目名※	地域振興論	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度後学期	曜日・時限※	水曜日 4 時限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	15-301
学修分野			
授業目的※	本講義では、人間の主要の生活空間を「地域」として捉えた時に生じる発展の可能性を認識することを目的とする。取り上げる実例としては「集客観光」施策を紹介し、地域住民の誇りであるシビックプライドの醸成面を見据えた企画立案及び実施手法を学ぶ。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域における「シビックプライド」を醸成する振興策の提供価値を理解する ② 観光振興策の手法各種を体得し、スキルを磨くとともに、自らの見識として身に付ける ③ 課題の発見及び解決プロセスを経て提供価値を最大限に高める手法を養う 		
授業内容	授業内容 地域で求められている「経済効果」「継続性」を念頭に観光振興の具体策とその効果を紹介する。またより理解を深め、モチベーションを高めるために、地域振興に役立つ各種実践的スキルを個人およびグループ学習によって一から体得する。授業では、振興策において「提供価値」に自らの主体的な「介入価値」をどう盛り込めるかを意識して進めて行く。		
授業形態※	<p>講義、討論、サービスマーケティング等を複合的に用いる。</p> <p>各回の講義の中で必要に応じて、アクティブラーニングの手法を活用する。質問、意見を求めたり、学生によるプレゼンテーションの機会を設ける。</p> <p>・民間からの専門職採用として千葉市観光プロモーション課課長を務め、同市の観光振興政策（インバウンド戦略立上げを含む）を数多く経験している。また、観光振興コンサルティング、情報発信経験も豊富で、観光情報誌の編集長から観光協会の専門員、行政の観光課課長、魅力発掘コンサルティングなど、長年にわたり、様々なポジションで、地域の観光振興を実現してきた経験を持つ。</p> <p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。</p> <p>詳細は以下の URL をご参照ください。</p> <p>https://www.shukutoku.ac.jp/extra/pdf/chiba2025jitsumukyoin.pdf</p> <p>（【千葉キャンパス】2025 年度 実務経験のある教員一覧）</p>		
評価方法※	<p>授業への参加姿勢（60 点） 事前事後の学習・レポート（40 点）</p> <p>■ 授業への参加姿勢について：以下 4 点において総合的に判断する</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 講師に近い前列のほうの席に座っており、しっかり授業に集中しているか？ ② アクティブラーニング（全 7 回程度）の際に講師は巡回するが、その時に見られた取組姿勢 ③ 質問を投げかけた時の対応（積極的な発言、まとを得た答えなど） ④ 都度投げかけられる講師の指示に従っているか？（持参を指示したするなど忘れないように） <p>■ 事前事後の学習・レポートについて：以下 3 点において総合的に判断する</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 提出しているか？ ② 提出の形は指示通り（文字数限度、フォーマット利用など）になっているか？ ③ 引用や一般論ではなくて、そこに自分の見方、意見などが見られるか？ 		

評価基準	<p>授業参加の姿勢（授業内での発言、各課題への対応状況など授業への取組み状況等）60点、 レポート（事前事後学習）40点</p> <p>24点以上～59点：不可、 60点～69点：C（合格）、 70点～79点：B（合格） 80～89点：A（合格）、 90～100点：S（合格）</p>
テキスト	<p>（ISBN番号：9784496055416） 『まちの魅力を引き出す編集力』（著者：桜井篤 発行元：(株)同友館 2021年）</p>
注意事項	<p>事前学習・事後学習を欠かさないこと。 ■ 毎回必ずノートをとること。 このノートは講義の度にとることで、全授業終了の際には、自分の貴重な学習記録となり、社会に出た後にも使えるものとなるため、メモ用紙ではなく保存性のあるノート形式をおすすめする。 本講義をやむを得ない理由で欠席・遅刻・早退する場合は、前もって講師に相談すること。 事後相談は原則として受け付けません。</p>
授業シラバス	<p>「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp</p>

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	淑徳大学	学部・学科名※	総合福祉学部 実践心理学科
科目名※	消費者行動分析	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度後学期	曜日・時限※	水曜日 4 時限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	12-301
学修分野			
授業目的※	幅広い心理学の知識と心理学の科学的な研究法を、消費者心理の分析および消費行動促進方法の開発などに応用し、その成果を分かりやすくレポートできるようになることを目指す。このことを通して、大学時代に、心理学の学びを活かして具体的にどのようなことを達成してきたのかについて、就職活動でアピールできる実績をつくる。		
到達目標	幅広い心理学の知識と心理学の科学的な研究法の中から、目指す消費者心理の分析および消費行動促進方法の開発に役立つものを選択し、適切に活用して研究を実施し、その成果を分かりやすくレポートできるようになること。グループでの活動に貢献して、1 人では到達できない成果を生み出す経験をすること。		
授業内容	消費行動に関わる、動機づけ、知覚、学習、記憶、意思決定、社会的相互作用過程などについての知識と研究方法について学んだ上で、消費行動の解明、促進方法の開発の研究を計画・実施・分析を行い、その結果についての報告を行う。以上の授業内容は全て、共通の関心を持った者同士のグループによるグループワークを通して行う。授業内容はかなり多岐にわたるので、下の 1 5 回分の授業内容等を必ず読むこと。その内容にあるようにグループワークへの能動的参加と事前事後学習における一定時間以上の課題対応が必要になる。そうした授業への負担を避けたい学生には、履修することを勧めない。		
授業形態※	様々な消費行動にかかわるトピックに関する論文について発表・討論を行い、背景知識と研究方法について学んだ上で、グループワークを通して、その先行研究をより発展させる研究計画を立案し、研究実施・データ分析・結果報告を討論しながら進めるアクティブラーニングを行う。		
評価方法※	先行研究の報告、研究計画・研究方法の適切性、研究成果の報告を総合的に評価する。		
評価基準	先行研究の報告 30 点、研究計画。研究方法の適切性 20 点、研究成果の報告 50 点の計 100 点満点。		
テキスト	この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。		
注意事項	半期で集中的に研究を行う授業になるため、事前事後学習時間が規定時間を大きく超えて必要になることがあります。グループでの協力や分担が必須のため、個人主義的な行動をとると単位修得が困難になります。授業を通して PC スキルの向上を求めます。		
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	淑徳大学	学部・学科名※	コミュニティ政策学部 コミュニティ政策学科
科目名※	地域福祉論	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度後学期	曜日・時限※	金曜日 2 時限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	2-302
学修分野			
授業目的※	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉が「コミュニティ政策」の課題のひとつであることを理解する ・医療や福祉のフィールドとして地域が政策的に注目されている理由を理解する ・地域福祉や地域包括ケアに関わる複数の専門職および公的機関と民間・地域住民のそれぞれの役割を理解する・「地域」の多様な意味を批判的に理解する ・以上をとおして、受講生ひとり一人が自らの「コミュニティ政策」の視点を形成する 		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域福祉の目的、多様な担い手、公と私の役割を説明できる 2. 地域包括ケアという政策課題の背景、関連諸制度の基礎知識を理解でき、相互に関係づけることができる 3. 地域福祉が「コミュニティ政策」の課題のひとつであることを説明できる 4. 授業で紹介した具体的な地域の取り組み事例のポイントを言語化できる 5. 課題解決のための地域資源に関する幅広い視点をもつことができる <p>以上 5 点それぞれについて、他者に向けた言語化（小レポート作成）ができる</p>		
授業内容	<p>主に 5 つの内容について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアをめぐる関連諸制度の理解 ・地域福祉、地域包括ケアの目的や背景の理解 ・住民と専門職の連携（多職種連携含む）のありようの理解 ・現代の医療や福祉にまつわる諸課題（社会的排除、在宅等での看取り等）の理解 ・対人援助の臨床的視点 <p>なお、事前事後学習の一部として、週末に開催される地域での活動への参加を推奨することがある</p>		
授業形態※	<p>基本的に講義形式で行うが、アクティブラーニングとして、必要に応じて意見を求める。DVD やビデオ等の映像資料を用いて現実の課題を理解し、そのうえで必要な政策や支援のあり方を考え小レポートの提出を求める。</p>		
評価方法※	<p>ほぼ毎回の小レポート（100 点）により総合的に評価する</p>		
評価基準	<p>小レポート 100 点</p>		
テキスト	<p>特に指定しない。適宜、資料等を配布し、授業内で参考文献等を紹介する。</p>		
注意事項	<p>とくになし</p>		
授業シラバス	<p>「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。</p> <p>https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp</p>		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉明德短期大学	学部・学科名※	保育創造学科
科目名※	音楽表現演習 I (ギター)	単位数※	1 単位
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	火曜・3 限
キャンパス※	千葉明德短期大学	教室※	33
学修分野			
授業目的※	保育の内容・方法に関する科目		
到達目標	ギターについての基礎的な知識や技術を学び、こどもの歌の弾き歌いや簡単な独奏曲を演奏することができる。		
授業内容	保育の内容を理解し、展開するために必要な保育の表現技術の一つである歌唱およびピアノやギターなどの伴奏楽器を用いた演奏の力量を高めることを目的として、少人数によるグループ授業を行う。「こどものうた」を知り、演奏することを通して、音楽を感じる心と豊かにする表現力を養う。グループ授業による歌唱や演奏技術の習得、授業内での実技試験、音楽理論の筆記試験を実施する。		
授業形態※	演習		
評価方法※	<ul style="list-style-type: none"> ・課題曲の達成度・実技試験 — 40% (実技試験を辞退した場合は、単位不可となります。) ・授業の取り組み — 40% ・音楽理論の筆記試験 — 20% 		
評価基準			
テキスト			
注意事項			
授業シラバス	<p>第 1 回 楽器に関する基礎知識、フォーム</p> <p>第 2 回 開放弦による右手フォーム、左手ポジション</p> <p>第 3 回 五線譜、ギターコードダイヤグラムの読み方</p> <p>第 4 回 スケール、単音の練習曲</p> <p>第 5 回 和音押弦の練習、左右フォーム</p> <p>第 6 回 和音の練習曲</p> <p>第 7 回 アルペジオ音型①</p> <p>第 8 回 アルペジオ音型②</p> <p>第 9 回 独奏曲の運指法、声部理解、断絃法</p> <p>第 10 回 独奏曲によるアーティキュレーション</p> <p>第 11 回 初級独奏曲①</p> <p>第 12 回 初級独奏曲②</p> <p>第 13 回 音楽基礎知識 (楽典) 試験、実技試験準備</p> <p>第 14 回 実技試験、まとめ</p> <p>第 15 回 学内コンサートの鑑賞</p>		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉明德短期大学	学部・学科名※	保育創造学科
科目名※	保育原論	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	水曜・3 限
キャンパス※	千葉明德短期大学	教室※	22AB
学修分野			
授業目的※	保育士資格必修 保育の本質・目的に関する科目		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の意義と目的について理解し、説明することができる。 ・幼稚園教育要領・保育所保育指針における保育の基本について理解し、説明することができる。 ・保育の内容と方法の基本について理解し、説明することができる。 ・保育の思想と歴史的変遷について理解し、説明することができる。 ・保育の現状と課題について考察し、意見を表明する。 		
授業内容	保育所保育指針等における保育の基本について学び、保育の意義や目的を理解する。また、保育の内容と方法、法令や制度の基本、歴史的変遷や思想について学んだ上で、保育の現状と課題について考察する。		
授業形態※	講義		
評価方法※	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内コメントシート 20% ・授業内課題 30% ・期末レポート 50% 		
評価基準			
テキスト	「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 「保育補保育指針解説」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館 その他、資料を適宜配布する。		
注意事項			
授業シラバス	第 1 回 「保育」とは何か：「保育」のイメージ 第 2 回 あらためて「保育」とは何か 第 3 回 保育の基盤としての子ども観 第 4 回 子ども理解から出発する保育 第 5 回 保育内容・方法の原理：保育の基本 第 6 回 保育内容・方法の原理：保育の一場面から 第 7 回 子どもが育つ環境の理解 第 8 回 保育実践から学ぶ①（第 1～7 回までのまとめ） 第 9 回 保育の計画と実践の原理 第 10 回 多様な子どもと共に育つ保育：多様性が求められる時代の保育 第 11 回 多様な子どもと共に育つ保育：保育の一場面から 第 12 回 保育の歴史に学ぶ 第 13 回 現代の子育てと子育て支援 第 14 回 保育実践から学ぶ②（第 9～13 回までのまとめ） 第 15 回 保育の現状と課題		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉明德短期大学	学部・学科名※	保育創造学科
科目名※	教育原理	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	木曜・1 限
キャンパス※	千葉明德短期大学	教室※	232AB
学修分野			
授業目的※	幼稚園教諭免許状必修 教育の基礎的理解に関する科目 保育士資格必修 保育の本質・目的に関する科目		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな教育という働きについて理解し、説明できる。 ・教育に関する思想や法的・制度的仕組みについて理解し、説明できる。 ・身近にある様々な教育の問題に興味を持ち自分なりの見解を持ち、説明できる。 		
授業内容	教育というと学校での教育をイメージしやすいと思いますが、教育＝学校ではありません。学校は「教育」のある部分を担ってはいますが、私たちは学校だけで成長しているわけではありません。この授業ではまず、学校以外での教育を考えます。そして、教育についての基礎的な理論・思想・制度等を学びつつ、今日の学校というシステムを見つめ直し、人が一人前の人間へと育てていくということの本質を考えていきます。それは、幼児教育や保育の考え方の理解へと繋がっていくと思います。		
授業形態※	講義		
評価方法※	<ul style="list-style-type: none"> ・小レポート - 20% ・小テスト - 30% ・期末レポート - 50% 		
評価基準			
テキスト			
注意事項			
授業シラバス	<p>第 1 回 オリエンテーション 教育とは何か</p> <p>第 2 回 なぜ教育が必要か</p> <p>第 3 回 日々の生活の営みにある教育① 家庭・地域がもっていた教育力</p> <p>第 4 回 日々の生活の営みにある教育② 子どもの遊び集団がもっていた教育的機能</p> <p>第 5 回 人が育つ環境としての現代社会の課題（家庭・地域・社会）</p> <p>第 6 回 近代公教育制度の成立と今日の学校の理念</p> <p>第 7 回 今日の教育制度・保育制度とその課題</p> <p>第 8 回 教育改革の動向と諸外国の教育事情</p> <p>第 9 回 学校と地域の連携</p> <p>第 10 回 近代教育思想の歴史</p> <p>第 11 回 子ども観と教育思想</p> <p>第 12 回 幼稚園教育要領・保育所保育指針の考え方と方法</p> <p>第 13 回 生涯学習社会と教育</p> <p>第 14 回 安全教育と危機管理</p> <p>第 15 回 現代教育の諸問題／総まとめ</p>		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉明德短期大学	学部・学科名※	保育創造学科
科目名※	社会福祉	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	木曜・2 限
キャンパス※	千葉明德短期大学	教室※	221
学修分野			
授業目的※	社会福祉主事任用資格選択必修 保育士資格必修 保育の本質・目的に関する科目		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の意義・理念及び歴史的変遷などを説明できる。 2. 社会福祉の制度，実施体制等を理解して説明できる。 3. 社会福祉における相談援助の基本姿勢と利用者の権利擁護に関わる仕組みを理解して説明できる。 4. 少子高齢化に関わる社会福祉の動向と課題等を理解して実際の保育業務に活用できる。 		
授業内容	<p>本授業は，保育者の基礎知識として社会福祉の意義・原理，日本の福祉制度の変遷を振り返り，現行の制度と課題等を理解する。</p> <p>また，都市化近代化，地縁血縁関係の脆弱化による家族機能・地域の変化のため，福祉のあり方はより重要性を増しており，公的扶助（生活保護），障害福祉，子ども家庭福祉，高齢者福祉などの概要と課題などを考える。</p> <p>なお，授業の進捗状況などにより，若干，授業計画は前後することもあり得る。</p>		
授業形態※	講義		
評価方法※	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度，参加意欲（課題提出期限厳守） — 20% ・期末試験 — 60% ・課題 — 20% 		
評価基準			
テキスト			
注意事項			
授業シラバス	<p>第 1 回 社会福祉の基本理念と概念</p> <p>第 2 回 社会福祉と少子高齢化を巡る問題</p> <p>第 3 回 日本の社会福祉発達史</p> <p>第 4 回 社会保障制度と社会保険</p> <p>第 5 回 障害児（者）の自立と福祉Ⅰ 障害者スポーツ大会</p> <p>第 6 回 障害児（者）の自立と福祉Ⅱ 共生社会の実現と施策</p> <p>第 7 回 社会福祉の制度Ⅰ 社会福祉法制－制度と法体系－</p> <p>第 8 回 社会福祉の制度Ⅱ 社会福祉行財政と実施機関</p> <p>第 9 回 社会福祉施設と専門職</p> <p>第 10 回 社会福祉における相談援助－意義・機能・方法と技術－</p> <p>第 11 回 生活保護</p> <p>第 12 回 社会福祉と子ども家庭支援</p> <p>第 13 回 権利擁護と苦情解決，情報提供，第三者評価</p> <p>第 14 回 期末テスト及び授業全体の振り返り</p> <p>第 15 回 期末テストの解説及び、地域福祉の意義・課題</p>		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉明德短期大学	学部・学科名※	保育創造学科
科目名※	音楽表現演習Ⅱ（ギター）	単位数※	1単位
開講年度学期※	2025年度後期	曜日・時限※	火曜・3限
キャンパス※	千葉明德短期大学	教室※	33
学修分野			
授業目的※	保育の内容・方法に関する科目		
到達目標	・ギターを弾きながら、10曲以上の「こどものうた」を歌う表現技術が身につく。また、独奏曲の演奏を通して、それぞれの楽器の特性を生かした演奏法が身につく。		
授業内容	保育の内容を理解し、展開するために必要な保育の表現技術の一つである歌唱およびギターを用いた弾き歌いの力量を高めることを目的として、少人数によるグループ授業を行う。こどもの歌の弾きうたいを通して豊かな感性や音楽的表現力の向上を目指す。授業では歌唱、授業内での実技発表、実技試験を実施する。		
授業形態※	演習		
評価方法※	・授業内の取り組み — 40% ・課題曲の達成度・弾き歌いの実技試験 — 40%（実技試験を辞退した場合は単位不可となります） ・音楽理論の筆記試験 — 20%		
評価基準			
テキスト			
注意事項			
授業シラバス	第1回 夏休みの課題 第2回 メジャーコードによる弾き歌い1 第3回 メジャーコードによる弾き歌い2 第4回 メジャーコードによる弾き歌い3 第5回 音楽理論の基礎とコードネーム 第6回 伴奏パターン1 第7回 伴奏パターン2 第8回 伴奏パターン3 第9回 独奏曲 第10回 マイナーコードによる弾き歌い1 第11回 マイナーコードによる弾き歌い2 第12回 音楽理論の筆記試験、解説 第13回 学内コンサートへの参加と鑑賞 第14回 実技試験 リハーサル 第15回 実技試験・まとめ・2年次への課題		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉明德短期大学	学部・学科名※	保育創造学科
科目名※	あそび実践演習（言葉）	単位数※	1 単位
開講年度学期※	2025 年度後期	曜日・時限※	水曜・2 限
キャンパス※	千葉明德短期大学	教室※	32
学修分野			
授業目的※	保育士資格・選択・保育の内容・方法に関する科目		
到達目標	(1) 言葉を使った保育実践の意義を理解し、説明できる。 (2) 言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解し、実践できる。 (3) 言葉に関わる児童文化財の意義を理解し、周辺領域である音楽や造形、身体による表現を含めた実践的な技能を身につける。		
授業内容	幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的な知識を学び、「言葉」を使った保育実践の意義について理解した上で、幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践を身につける。		
授業形態※	演習		
評価方法※	・授業への参加度（グループ活動、発表、模擬保育等）	—	60%
	・小レポート（テーマごとの授業での学びのふりかえり）	—	20%
	・最終レポート（授業での学びのふりかえりと今後の展開）	—	20%
評価基準			
テキスト	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説		
注意事項			
授業シラバス	第 1 回： 児童文化財の紹介、パネルシアターの製作（1） 第 2 回： パネルシアターの製作（2） 第 3 回： パネルシアターの製作（3）と発表 第 4 回： わらべうたの実践（1） 様々なわらべうたを学ぶ 第 5 回： わらべうたの実践（2） わらべうた音階の音楽アンサンブル 第 6 回： 言葉を豊かにする遊び（1） 第 7 回： 言葉を豊かにする遊び（2） 第 8 回： 日本語による表現を考える		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉明德短期大学	学部・学科名※	保育創造学科
科目名※	あそび実践演習（音楽）	単位数※	1 単位
開講年度学期※	2025 年度後期	曜日・時限※	木曜・1 限
キャンパス※	千葉明德短期大学	教室※	231
学修分野			
授業目的※	保育士資格選択保育の内容・方法に関する科目		
到達目標	①保育における音環境について考察し、豊かな「音環境」について説明できる。 ②いろいろな楽器に触れ、それらの基礎的な知識、簡単な技術が身につく。 ③いろいろな楽器や素材から、「音あそび」への展開を考えることができる。		
授業内容	・実習などを振り返りながら、それぞれが知っている保育の「音環境」について話し合い、子どもにとってどんな影響があるのか？豊かな「音環境」とは？を考えていく。いろいろな楽器の特性や音楽づくりの基礎的な知識を知り、自ら音遊びを経験することで、保育における音楽的活動の展開の仕方を学ぶ。		
授業形態※	演習		
評価方法※	・授業での取り組み（実技、発言、発表）70％ ・小レポート 30％		
評価基準			
テキスト	適宜資料を配布する		
注意事項			
授業シラバス	第1回 オリエンテーション：保育における音環境について考える 第2回 いろいろな楽器を知る 第3回 楽器遊び① 第4回 楽器遊び② 第5回 手作り楽器① 第6回 手作り楽器② 第7回 合奏① 第8回 合奏②		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉明德短期大学	学部・学科名※	保育創造学科
科目名※	あそび実践演習（運動）	単位数※	1 単位
開講年度学期※	2025 年度後期	曜日・時限※	木曜・1 限
キャンパス※	千葉明德短期大学	教室※	211
学修分野			
授業目的※	保育士資格選択 保育の内容・方法に関する科目		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのモノや人を通して経験する身体感覚や多様な動きを伴う遊びについて理解し、説明することができる。 ・多様な動きにつながる教材を探究し、展開することができる。 ・子どもの動きから学び、そこから遊びの展開について考えることができる。 		
授業内容	これまでの実習をふりかえりながら、身のまわりのモノや人を通して経験する繊細な身体感覚や多様な動きにつながる遊びや環境を考える。そのために、からだを捉え直し、身体感覚や動きをひきだす教材や環境、保育者の援助について、実践的に考えていく。		
授業形態※	演習		
評価方法※	授業での取り組み（グループ活動や実技での積極的な取り組み） -50% 実技の成果 -25% 授業毎のコメントペーパー -25 %		
評価基準			
テキスト	適宜資料を配布する。		
注意事項			
授業シラバス	第 1 回 オリエンテーション：身体の再発見、多様な動きとは 第 2 回 身のまわりのモノや人と関わる際の身体感覚を見つめ直す 第 3 回 これまでの実習で実践してきた遊びから、身体感覚や多様な動きを考える 第 4 回 伝承遊びの技と動き 第 5 回 身のまわりにある素材と全身運動につながる遊び 第 6 回 即興的な動きのやりとり、学外学習に向けた準備 第 7 回 学外学習：子どもと遊ぶ、動きと環境について考える 第 8 回 ふりかえり、まとめ		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉明德短期大学	学部・学科名※	保育創造学科
科目名※	社会的養護 I	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2025 年度後期	曜日・時限※	木曜・1 限
キャンパス※	千葉明德短期大学	教室※	222
学修分野			
授業目的※	保育士資格必修 保育の本質・目的に関する科目		
到達目標	1.社会的養護の理念と概念を理解し、保育士として実践で使用出来る知識を身につける。 2.児童の権利、児童養護の理念を理解し、保育士として実践で使用出来る知識を身につける。 3.施設養護における自立支援等の具体的な支援について理解し、保育士としての実践力を身につける。 4.社会的養護の抱える今後の課題について理解し、保育士としての考察力、対応力を身につける。		
授業内容	この科目は、保育士資格を取得するための必修科目であり、保育実践に不可欠の知識・技能を学習するものである。 具体的な内容としては、社会的養護の意義、制度や実施体系及び児童の権利擁護について理解する。また、関係法制度や最新の統計データを参考にしつつ、児童福祉施設の今日的動向と各サービスの特徴を理解する。 授業の形式は、講義、演習、ディスカッション等で実施をする。		
授業形態※	講義		
評価方法※	授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 1 授業への出席 総合点の45% 2 授業毎の感想レポート45% 3 授業への積極的参加度 日常の受講態度 10%		
評価基準			
テキスト			
注意事項			
授業シラバス	第1回：オリエンテーション 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷①社会的養護の理念と概念 第2回：現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷②社会的養護の歴史の変遷 第3回：社会的養護と児童家庭福祉①児童家庭福祉と社会的養護の関係性 第4回：社会的養護と児童家庭福祉②児童の権利擁護と社会的養護 第5回：社会的養護の制度と実施体系①社会的養護の制度と法体系 第6回：社会的養護の制度と実施体系②社会的養護の仕組みと実施体制 第7回：社会的養護の制度と実施体系③家庭養護と施設養護 第8回：社会的養護の制度と実施体系④社会的養護の専門職 第9回：施設養護の実際①施設養護の基本原則 施設養護の実際/養護系施設 第10回：施設養護の実際② 施設養護の実際/非行系施設・障害系施設 第11回：施設養護の実際③ 施設養護とソーシャルワーク 施設等の運営管理 記録の作成の留意点と自己評価の視点 第12回：社会的養護の課題と展望① 生活単位の小規模化とケア体制 第13回：社会的養護の課題と展望② 社会的養護の担い手のケアの必要性 第14回：社会的養護の課題と展望③ 社会的養護の課題 第15回：保育士として社会的養護にどのように関わりたいのかを考える		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉明德短期大学	学部・学科名※	保育創造学科
科目名※	フィールドワーク（人間と文化）	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2025 年度集中	曜日・時限※	不定期
キャンパス※	千葉明德短期大学	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	保育士資格選択 教養科目		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間が創り出すダンスの特性や文化的背景を理解し、述べるができる。 ・現代におけるダンスの意義を自分の言葉で語るができるようになる。 		
授業内容	<p>ダンスは生命に内在する根源的な活動とも言われ、時代や地域を問わず世界中にさまざまなダンスがあります。このコースでは、世界の多様なダンスを取り上げ、その歴史や文化を学びます。特に、日本の盆踊りと西洋の古典舞踊であるバレエ、そして時代や国の境界を超えた現代の舞踊であるコンテンポラリーダンスに焦点を当て、実際に劇場で鑑賞します。学内での事前学習として、世界のダンスを映像を通して鑑賞し、さまざまな国のダンスと文化の関係を学びます。</p>		
授業形態※	<p>①事前学習：ダンスの歴史・文化的背景と概要について学ぶ ②鑑賞：実際に劇場等で鑑賞する ③事後学習：事前学習から鑑賞までを含めたレポートを作成することを通して理解を深めます。</p> <p>演習</p>		
評価方法※	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習レポート：30% ・フィールドワークでの取り組み（活動への積極的な取り組みや発言内容）：30% ・事後学習のレポート：40% 		
評価基準			
テキスト			
注意事項			
授業シラバス	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の様々なダンスとその背景にある文化 ・日本の踊り① 事前学習 ・日本の踊り② 参加・鑑賞 ・日本の踊り③ 事後学習 ・バレエ① 事前学習 ・バレエ② 鑑賞 ・バレエ③ 事後学習 ・コンテンポラリーダンス① 事前学習 ・コンテンポラリーダンス② 鑑賞 ・コンテンポラリーダンス③ 事後学習 ・まとめ 		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉明德短期大学	学部・学科名※	保育創造学科
科目名※	フィールドワーク（生活と社会） 「サンセットウォーク」	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2025 年度集中	曜日・時限※	不定期
キャンパス※	千葉明德短期大学	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	保育士資格選択教養科目		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校から自身の設定したゴールまで完歩する。 ・自身と向き合い、他者と協力する姿勢を身に付ける。 ・臨機応変に行動する力を身に付ける。 		
授業内容	<p>車や電車等といった移動手段としての交通機関の発達は、私たちの社会や生活のあり方、また人の感性や健康、人間関係等、多岐にわたる変化をもたらしています。その一つに、歩く機会の減少があります。</p> <p>本授業では、長距離を歩くことで、人が本来備えている歩く力を実感すると共に、普段とは異なる移動中の音や光の感じ方、景色の見え方、時間の過ごし方、他者との距離の取り方等を体験します。具体的には、朝に学校を出発し、木更津港で夕日を眺めます。総距離は約 3 5 km を予定していますが、ゴールは自身で設定します。また、参加者全員で一緒に歩くため、参加者の体調や道路事情等によってはルート等を変更する場合があります。</p>		
授業形態※	演習		
評価方法※	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習への参加 — 20% ・活動への参加 — 50% ・レポートの作成および報告会への参加 — 30% 		
評価基準			
テキスト			
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・各自、適度の距離を歩くことに慣れておくこと。（30分～60分位のウォーキングを心掛ける） ・一日を通して歩くため、普段から（特に直前の）健康管理をしておくこと。 		
授業シラバス	<ul style="list-style-type: none"> ・5月：第1回オリエンテーション ・10月：第2回オリエンテーション、歩く行程確認、地図の作成 ・～11月：各自で、自宅周辺などを歩く ・11月上旬：サンセットウォーク実施 ・実施後、レポート作成および報告会の準備 		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	帝京平成大学	学部・学科名※	健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科
科目名※	スポーツ心理学	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	月曜日 4 限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	6-206 教室
学修分野			
授業目的※	スポーツ心理学とはスポーツに関する心理学的な諸問題について研究する学問領域のことであり、応用心理学の一領域として捉えられています。本講義ではスポーツ心理学の基礎的な理論を中心に説明し、トピックに応じて実践的な利用法についても紹介していきます。		
到達目標	競技スポーツ、学校体育、健康スポーツなどと関連する心理的な諸理論を理解し、説明できるようになる。さらに、本講義で学んだことと、今まで自身が経験してきたこととの関連性についても考察できるようになる。		
授業内容	本講義ではスポーツに関わる領域（競技、学校体育、健康など）の内容を取り上げながら、学生の皆さんが将来目指す立場（競技者、指導者、教員、スポーツ医・科学スタッフなど）のトピックを学んでいきます。また、毎授業時に受講生が作成するレポート課題の記載内容や質問を活用しながら他者の経験を受容し、自身の心理面との比較も行います。その際、グループディスカッションを適宜取り入れることがあります。		
授業形態※	対面		
評価方法※	定期試験の成績 60%、平常点 40%（授業内での毎回のレポート課題、授業時の取り組み）とし、総合して評価する。		
評価基準			
テキスト	「なし」 ※適宜プリントを配布する予定です。		
注意事項			
授業シラバス	<p>第 1 回 スポーツ心理学とは 授業の内容：ガイダンス、概念、歴史、スポーツ心理学が取り扱う分野について事前学習：シラバスを熟読しておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと</p> <p>第 2 回 スポーツ心理学の研究法 授業の内容：第 1 回目のレポート課題のフィードバック（配布資料あり）、実験法、調査法、面接法など 事前学習：研究の意味や方法について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと</p> <p>第 3 回 スポーツと発達 授業の内容：第 2 回目のレポート課題のフィードバック（配布資料あり）、心身の運動の発達など 事前学習：発達と心の関係について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと</p> <p>第 4 回 スポーツと動機づけ 授業の内容：第 3 回目のレポート課題のフィードバック（配布資料あり）、目標設定、社会的動機づけなど 事前学習：動機づけの意味について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと</p> <p>第 5 回 スポーツとパーソナリティ 授業の内容：第 4 回目のレポート課題のフィードバック（配布資料あり）、競技特性によるパーソナリティの違い 事前学習：パーソナリティの意味について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと</p>		

	<p>第6回 運動のメカニズム 授業の内容：第5回目のレポート課題のフィードバック（配布資料あり），学習理論，技術の獲得など 事前学習：運動学習について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと</p> <p>第7回 競技スポーツの心理① 授業の内容：第6回目のレポート課題のフィードバック（配布資料あり），競技者の心理，心理的スキルなど 事前学習：心理的スキルについて調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと</p> <p>第8回 競技スポーツの心理② 授業の内容：第7回目のレポート課題のフィードバック（配布資料あり），競技に必要な緊張，イメージなど 事前学習：緊張の意味について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと</p> <p>第9回 学校体育と心理 授業の内容：第8回目のレポート課題のフィードバック（配布資料あり），スポーツ選手のライフスキルなど 事前学習：ライフスキルについて調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと</p> <p>第10回 スポーツが心身の健康に及ぼす影響 授業の内容：第9回目のレポート課題のフィードバック（配布資料あり），メンタルヘルス，ストレスコーピングなど 事前学習：メンタルヘルスの意味について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと</p> <p>第11回 メンタルトレーニング① 授業の内容：第10回目のレポート課題のフィードバック（配布資料あり），心理臨床技法のスポーツへの活用（認知） 事前学習：心理学における認知の意味について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと</p> <p>第12回 メンタルトレーニング② 授業の内容：第11回目のレポート課題のフィードバック（配布資料あり），心理臨床技法のスポーツへの活用（行動） 事前学習：心理学における行動の意味について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと</p> <p>第13回 スポーツと社会心理学 授業の内容：第12回目のレポート課題のフィードバック（配布資料あり），凝集性，集団規範など 事前学習：社会心理学で取り扱われる内容について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと</p> <p>第14回 スポーツと臨床 授業の内容：第13回目のレポート課題のフィードバック（配布資料あり），アスリートの心理的課題 事前学習：臨床心理学で取り扱われる内容について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと</p> <p>第15回 まとめ 授業の内容：第14回目のレポート課題のフィードバック（資料あり），今までの授業で特に重要な範囲のまとめ，振り返り 事前学習：14回目までの範囲を再読しておくこと 事後学習：授業全体の内容についてまとめておくこと</p> <p>※授業内容は，受講者数や受講者の興味関心，理解度などに応じて多少変更することがあります。</p>
--	---

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	帝京平成大学	学部・学科名※	健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科
科目名※	スポーツ指導論	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	水曜日 2 限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	6-206 教室
学修分野			
授業目的※	パフォーマンススキルに関する知識だけではなく、選手のやる気を引き出したり、リーダーシップを発揮してチームをまとめたりと多様な能力を身に着ける。		
到達目標	指導者が社会に求められる役割から指導計画書の作成などの実務的なマネジメントスキルに関する知識を身に付けてもらうことを目指します。		
授業内容	本授業では、スポーツ指導者の倫理や心構え等の重要性について学ぶ。さらに、指導者の役割やプレーヤーと指導者の望ましい関係等について学ぶ。また、指導計画のたて方やスポーツ活動と安全管理についても学ぶ。		
授業形態※	対面		
評価方法※	毎回の授業内小レポート・授業外学習（50%）及び定期試験に代わるレポート（50%）とし、総合的に評価する。		
評価基準			
テキスト	なし		
注意事項			
授業シラバス	<p>第1回 オリエンテーション コーチングの概念を概説する</p> <p>第2回 スポーツ指導者とは スポーツの意義と価値、スポーツライフ構築の為の指導者について</p> <p>第3回 スポーツ指導者の倫理 スポーツ指導者としての望ましい考え方や行動について</p> <p>第4回 指導者の心構え・視点 スポーツ指導者の心構え、コーチングの基本的な理論</p> <p>第5回 プレイヤーと指導者の望ましい関係 望ましいプレイヤー像、コーチングスキルについて</p> <p>第6回 ミーティングの方法 なぜミーティングをするのか、ミーティング実施のポイントについて</p> <p>第7回 指導計画の立て方 スポーツ指導計画の重要性、スポーツ指導計画立案の原則について</p> <p>第8回 スポーツ活動と安全管理 スポーツにおける安全確保の知識、具体的行動について</p> <p>第9回 スポーツ指導者に求められる役割 スポーツ指導者に求められる役割。そのための知識とスキルについて</p> <p>第10回 プレイヤーズセンタードなコーチング 最適なスポーツ経験、ゲーム基盤型コーチングについて</p> <p>第11回 コーチの学び コーチの学びの場とセルフマネジメントについて</p> <p>第12回 対他者力を磨こう コミュニケーションスキル、リーダーシップスキル等の対他者スキルについて</p> <p>第13回 暴力・ハラスメントの根絶 暴力根絶宣言等について</p> <p>第14回 スポーツ指導者の法的責任 スポーツ指導者が負う法的責任について</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>※授業内容は、受講者数や受講者の興味関心、理解度などに応じて多少変更することがあります。</p>		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	帝京平成大学	学部・学科名※	健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科
科目名※	スポーツ倫理	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	水曜日 3 限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	1-219 教室
学修分野			
授業目的※	ジュニア期のスポーツに焦点を当て、子どもの特性・発育発達を踏まえた指導を、スポーツ倫理の側面から学修を進める。日本スポーツ協会のジュニアスポーツ指導員資格教本に準拠し、指導者の資質向上に向けた基礎的知識の獲得が主たるテーマとする。		
到達目標	本授業の到達目標は、以下の 3 点である。①ジュニア期のスポーツ指導者としての基礎知識が説明できる②指導者としての倫理観が説明できる③子どもとのコミュニケーションの基本が説明できる		
授業内容	本授業では、ジュニア期のスポーツの考え方、子どもの発達とコミュニケーションスキルといった具体的なテーマのもと、スポーツ倫理の重要性を学修する。スポーツ文化の価値を高め、創造するため、社会から求められる指導者像の確立につなげる。指導における、体罰や暴力の根絶に必要な知識とスキルを具体的に学ぶ。		
授業形態※	対面		
評価方法※	毎回の授業内小レポート・授業外学習（40%）及び定期試験（60%）とし、総合的に評価する。		
評価基準			
テキスト	指定テキストは特になし。必要な教材は随時配布もしくは紹介する。		
注意事項			
授業シラバス	<p>第 1 回 オリエンテーション 授業のねらい及び到達目標、学習内容、成績評価方法・基準について</p> <p>第 2 回 スポーツ倫理とは何か、なぜスポーツ倫理を学ぶのか スポーツ倫理とは何か、なぜスポーツ倫理を学ぶのかについて</p> <p>第 3 回 現代社会における子どもを取り巻く環境 子どもたちを取り巻く環境、体育・スポーツを行う意味とは</p> <p>第 4 回 ジュニア期のスポーツの考え方① 取り巻く問題とその背景</p> <p>第 5 回 ジュニア期のスポーツの考え方② 発育・発達段階に応じたプログラム</p> <p>第 6 回 ジュニア期のスポーツの考え方③ 望ましいジュニア期のスポーツ指導</p> <p>第 7 回 子供の発達とコミュニケーションスキル① コミュニケーションスキルの必要性</p> <p>第 8 回 子供の発達とコミュニケーションスキル② 自発的な行動を引き出すためのコミュニケーション</p> <p>第 9 回 スポーツ指導者のための倫理ガイドライン スポーツの意義と価値・フェアプレイの実践</p> <p>第 10 回 暴力、体罰、ハラスメントと社会 暴力、体罰、ハラスメントを克服するために</p> <p>第 11 回 ドーピング、アンチ・ドーピング スポーツの精神・価値、なぜドーピングはいけないのか</p> <p>第 12 回 スポーツボランティアについて スポーツボランティアとは？スポーツボランティアの種類等について</p>		

	<p>第13回 ゲームの倫理学 ゲームとは？ルール遵守等について</p> <p>第14回 スポーツとジェンダー ジェンダーとは？スポーツにおけるジェンダー</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>※授業内容は、受講者数や受講者の興味関心、理解度などに応じて多少変更することがあります。</p>
--	---

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	帝京平成大学	学部・学科名※	健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科
科目名※	トレーニング科学	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	木曜日 2 限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	6-205 教室
学修分野			
授業目的※	健康増進から体力強化、スポーツ愛好家から競技者、子どもから高齢者まで、目的や年齢の異なる幅広い対象者に対してトレーニングの指導・助言ができるようになる。		
到達目標	運動専門家に必要とされるトレーニングの基礎知識を習得し、幅広い対象者に対してトレーニングの指導・助言ができるようになる。		
授業内容	毎回テーマを設けて授業をします。また、学生が興味を持ったキーワードやテーマをもとに、グループワークやグループディスカッションを行います。		
授業形態※	対面		
評価方法※	定期試験 60%、レポート・受講態度など平常点 40%とし、総合的に評価する。		
評価基準			
テキスト	基本的にはプリントを配布します。		
注意事項			
授業シラバス	<p>【第 1 回】オリエンテーション授業の内容 本講義の目的と内容、本講義の進め方、テキストに関する説明、本講義における成績評価などについて説明。 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと 事後学習；授業について振り返りを行うこと</p> <p>【第 2 回】体力とは（体力の概念）授業の内容 関連科目であるスポーツトレーニング入門のおさらいをします（小テスト）。 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと 事後学習；授業について振り返りを行うこと</p> <p>【第 3 回】体力の加齢変化授業の内容 第 2 回目小テストの解答と解説を実施、授業テーマに入ります。 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと 事後学習；授業について振り返りを行うこと</p> <p>【第 4 回】トレーニングの進め方（トレーニングの原理原則、トレーニング処方）授業の内容 トレーニングの進め方、実施方法について説明します。 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと 事後学習；授業について振り返りを行うこと</p> <p>【第 5 回】トレーニングの種類（形態的分類、体力要素による分類）授業の内容 トレーニングの種類について説明します。 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと 事後学習；授業について振り返りを行うこと</p> <p>【第 6 回】トレーニングの理論とその方法①（トレーニング学の理論体系ほか）授業の内容 トレーニング学の理論体系について説明します。 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと 事後学習；授業について振り返りを行うこと</p> <p>【第 7 回】トレーニングの理論とその方法②（筋力トレーニングにおける基礎理論ほか）授業の内容 筋力トレーニングにおける基礎理論について説明します。 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと 事後学習；授業について振り返りを行うこと</p>		

【第 8 回】トレーニングの理論とその方法③（筋力トレーニングの方法）授業の内容
 授業前半で学習したトレーニングについてのおさらいをします（小テスト）。
 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと
 事後学習；授業について振り返りを行うこと

【第 9 回】トレーニング計画とその実際①（トレーニング目標の設定）授業の内容
 授業前半で第 8 回目のおさらいをした後、トレーニング目標の設定について説明します。
 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと
 事後学習；授業について振り返りを行うこと

【第 10 回】トレーニング計画とその実際②（トレーニング・プログラムの設計）授業の内容
 トレーニング・プログラムの設計について説明し、グループディスカッションを行います。
 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと
 事後学習；授業について振り返りを行うこと

【第 11 回】トレーニング計画とその実際③（疲労およびその回復ほか）授業の内容
 グループディスカッションをまとめ、グループごとにプレゼンテーションを行います。
 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと
 事後学習；授業について振り返りを行うこと

【第 12 回】体力テストとその活用①（体力テストの位置づけについて）授業の内容
 体力テストの位置づけについて説明します。
 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと
 事後学習；授業について振り返りを行うこと

【第 13 回】体力テストとその活用②（各種測定と評価）授業の内容
 体力テストの各種測定と評価について説明します。
 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと
 事後学習；授業について振り返りを行うこと

【第 14 回】スキルの獲得とその獲得過程①（スキルとは、スキル獲得の過程）授業の内容
 スキル獲得の過程について説明します。
 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと
 事後学習；授業について振り返りを行うこと

【第 15 回】スキルの獲得とその獲得過程②（スキル獲得に関わる要因）授業の内容
 前半はテーマについて説明し、その後授業のまとめとおさらいをします。
 事前学習；第 2 回目から 14 回目までの範囲を振りかえっておく
 事後学習；授業全体の内容についてまとめておく

※授業内容は、受講者数や受講者の興味関心、理解度などに応じて多少変更することがあります。

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	帝京平成大学	学部・学科名※	健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科
科目名※	スポーツ社会学	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	木曜日 5 限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	9-302 教室
学修分野			
授業目的※	近代社会におけるスポーツの特徴や意義・役割について理解する。またこれからのスポーツ振興のあり方や方法についても理解する。		
到達目標	スポーツを社会現象として捉え、社会との関係からスポーツの特徴やあり方について説明できるようになる。さらに地域のスポーツ振興についても興味を持てるようになる。		
授業内容	本授業では、まずスポーツの概念や歴史から学ぶ。さらにスポーツ振興に重要な役割を果たす総合型地域スポーツクラブを通じて地域のスポーツ振興についても学ぶ。また、スポーツ指導における法的責任や人権、政治、資格を通じてこれからのスポーツ振興について学ぶ。授業の後半は、講義だけでなくグループワークを中心に行う。		
授業形態※	対面		
評価方法※	毎回の授業内小レポートと manaba を活用した授業外学習（50%）及び定期試験に代わる授業外レポート（50%）とし、総合的に評価する。		
評価基準			
テキスト	指定テキストは特になし。必要な教材は随時配付もしくは紹介する。		
注意事項			
授業シラバス	<p>第1回 オリエンテーション シラバスをもとに、授業のねらい及び到達目標、学習内容、成績評価方法・基準について説明する。 事前学習：シラバスを熟読しておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。</p> <p>第2回 スポーツの概念と歴史 スポーツの概念と歴史について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：スポーツの概念と歴史について調べておくこと。 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。</p> <p>第3回 文化としてのスポーツ スポーツの文化的特性やスポーツ文化の内容について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：文化としてのスポーツについて調べておくこと。 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。</p> <p>第4回 社会の中のスポーツ 現代社会とスポーツ、スポーツの産業化と発展について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：社会の中のスポーツについて調べておくこと。 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。</p> <p>第5回 我が国のスポーツプロモーション 我が国のスポーツプロモーションとその課題・展望について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：我が国のスポーツプロモーションについて調べておくこと。 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。</p> <p>第6回 地域におけるスポーツ振興方策と行政のかかわり 地域におけるスポーツ振興方策と行政のかかわりについて概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：地域におけるスポーツ振興方策と行政のかかわりについて調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。</p>		

	<p>第 7 回 総合型地域スポーツクラブの必要性と社会的意義 総合型地域スポーツクラブの必要性と社会的意義について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：総合型地域スポーツクラブの必要性と社会的意義について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。</p> <p>第 8 回 総合型地域スポーツクラブの育成と運営 総合型地域スポーツクラブの育成と運営について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：総合型地域スポーツクラブの育成と運営について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。</p> <p>第 9 回 地域におけるスポーツクラブとしての「スポーツ少年団」 地域におけるスポーツクラブとしての「スポーツ少年団」について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。事前学習：地域におけるスポーツクラブとしての「スポーツ少年団」について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。</p> <p>第 10 回 スポーツ組織のマネジメントと事業のマーケティング スポーツ組織のマネジメントと事業のマーケティングについて概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：スポーツ組織のマネジメントと事業のマーケティングについて調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。</p> <p>第 11 回 スポーツ事業のプロモーション スポーツ事業・イベントの計画・立案について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：スポーツ事業のプロモーションについて調べておくこと。 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。</p> <p>第 12 回 スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任 スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任について調べておくこと。 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。</p> <p>第 13 回 スポーツと人権 スポーツ倫理と基本的人権、スポーツと社会規範について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：スポーツと人権について調べておくこと。 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。</p> <p>第 14 回 スポーツと政治 スポーツと政治との関わりについて概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：スポーツと政治について調べておくこと。 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。</p> <p>第 15 回 スポーツ指導者と資格 資格社会におけるスポーツ指導者資格の位置付けについて概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：スポーツ指導者と資格について調べておくこと。 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。</p> <p>※授業内容は、受講者数や受講者の興味関心、理解度などに応じて多少変更することがあります。</p>
--	---

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	帝京平成大学	学部・学科名※	健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科
科目名※	スポーツ生理学 I	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	金曜日 1 限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	6-205 教室
学修分野			
授業目的※	<p>身体の仕組みや身体の機能について理解する生理学の中でも、スポーツを行った際の身体の変化や機能について理解する分野がスポーツ生理学です。この授業では、「スポーツを実践する際の身体の変化や身体の仕組みについて、運動・スポーツ指導者として必要なスポーツ生理学的知識」を身に付けてもらうことを目指します。</p>		
到達目標	<p>各自の健康づくりおよびスポーツパフォーマンス向上のプログラム作成のための基礎知識習得を目指します。</p>		
授業内容	<p>原則として各回ごとにテーマを設定して講義を行います。また興味のあるテーマやキーワードについてグループワークを実施、またはグループごとに発表なども実施します。スポーツに対する様々な身体の生理的な反応や適応についての機序を学びます。トレーニングプログラムは、持久力や筋力の向上および効果的なダイエットや健康の維持・増進など、様々な目的に応じて作成されます。スポーツ生理学では、適切なトレーニングプログラムを作成するための基礎になる知識について学びます。</p>		
授業形態※	対面		
評価方法※	定期試験 70%、授業内での小テストおよびレポート課題などの平常点 30%		
評価基準			
テキスト	適宜プリントを配布する予定です。		
注意事項			
授業シラバス	<p>第 1 回 ガイダンス 授業の内容：本講義の目的と内容、本講義の進め方、テキストに関する説明、本講義における成績評価などについて説明 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと 事後学習；授業について振り返りを行うこと</p> <p>第 2 回 栄養とスポーツ 授業の内容：スポーツに重要な栄養素について 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと 事後学習；授業について振り返りを行うこと</p> <p>第 3 回 スポーツとエネルギー代謝 授業の内容：スポーツ生理学の化学的基礎について 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと 事後学習；授業について振り返りを行うこと</p> <p>第 4 回 骨格筋の構造と働き 授業の内容：骨格筋の構造と働きについて理解する 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと 事後学習；授業について振り返りを行うこと</p> <p>第 5 回 神経組織とスポーツ 授業の内容：神経細胞の構造や神経組織について説明し、運動のなかでの神経組織の役割などを説明 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと 事後学習；授業について振り返りを行うこと</p>		

	<p>第 6 回 呼吸器系とスポーツ 授業の内容：呼吸器系の構造や働き、トレーニングにおける変化や適応について説明 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと 事後学習；授業について振り返りを行うこと</p> <p>第 7 回 循環器系とスポーツ 授業の内容：循環器系の構造や働き、トレーニングにおける酸素運搬能力の変化や適応について説明 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと 事後学習；授業について振り返りを行うこと</p> <p>第 8 回 中間のまとめ（小テスト実施） 授業の内容：第 2 回目から第 7 回目までの授業のふりかえりと小テストを実施 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと 事後学習；授業について振り返りを行うこと</p> <p>第 9 回 内分泌系とスポーツ 授業の内容：運動時のホルモン分泌動態とそれがもたらす生理作用について説明 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと 事後学習；授業について振り返りを行うこと</p> <p>第 10 回 体液・血液とスポーツ 授業の内容：体液や血液の役割とそれらの運動による変化、パフォーマンスへの影響について説明 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと 事後学習；授業について振り返りを行うこと</p> <p>第 11 回 女性とスポーツ 授業の内容：性差について理解し、月経周期がコンディションに与える影響について説明 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと 事後学習；授業について振り返りを行うこと</p> <p>第 12 回 スポーツとウエイトコントロール テーマを設けてレポート作成をします。 授業の内容：体組成や減量・増量の方法について説明 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと 事後学習；授業について振り返りを行うこと</p> <p>第 13 回 外的要因とスポーツ 授業の内容：外的要因が身体およびパフォーマンスに与える影響について説明 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと 事後学習；授業について振り返りを行うこと</p> <p>第 14 回 内的要因とスポーツ 授業の内容：加齢、遺伝子、性差との運動の関係について説明 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと 事後学習；授業について振り返りを行うこと</p> <p>第 15 回 まとめ（小テスト実施） 授業の内容：今までの授業のふりかえりを行い、授業のまとめを行う 事前学習；第 2 回目から 14 回目までの範囲を振りかておく 事後学習；授業全体の内容についてまとめておく * 授業内容は、受講者数や受講者の興味関心、理解度などに応じて変更することがあります。</p>
--	--

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	帝京平成大学	学部・学科名※	健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科
科目名※	予防と介護	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2025 年度後期	曜日・時限※	月曜日 1 限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	6-202 教室
学修分野			
授業目的※	わが国では平均寿命が延び、高齢化が急速に進むことで、高齢者のみの世帯が増えている。高齢者だけでご自宅で過ごす時間も長くなっているだろう。昔ながらの日本家屋は段差が多く、廊下や開口部が狭いなど、高齢者にとって安全で快適な住まいとは言えないことが多い。安心して、快適に、自立してすまうことができる「福祉住環境」の視点が非常に重要であることは言うまでもない。そこで、本科目のねらいは、受講生が①「福祉住環境」の視点を理解し説明できること、②「福祉住環境コーディネーター2 級」取得の意義を理解し説明できること、とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な福祉、高齢者における住環境に対して意見交換ができる。 ・介護予防に必要な改善プログラムの基礎知識を持つ。 ・日商で行われている検定試験の福祉住環境コーディネーター2 級レベルの知識を有する。 		
授業内容	高齢者が住み慣れた地域で、主体性をもって自分らしく生活を最後まで続けることができるように「地域包括ケアシステム」という概念は、これからの地域ケアを導く先導概念として用いられている。この医療と介護、福祉にまたがる包括的なケアを実践していく上で、福祉と住環境の関連分野の基礎的知識について概説していく。医療・介護・福祉分野に関わり、地域社会や障がいのある人に対して、健康管理・健康増進を担う受講生にとっては土台となる概念であろう。授業は講義だけでなくオンライン上での課題遂行や教室内のグループ学習などを通し、履修生自身が知識や自分の考えをアウトプットする機会を多く設け、進めていく。		
授業形態※	対面		
評価方法※	学修成果物（レポート課題、グループ発表など）：60%、定期試験：40%		
評価基準			
テキスト	東京商工会議所(編).福祉住環境コーディネーター検定試験 3 級公式テキスト 改訂 6 版.東京商工会議所		
注意事項			
授業シラバス	<p>【第1回】介護予防とは 事前学習：介護予防について使用テキスト及び参考書を事前に読み、分からない箇所はノートにまとめておき、主体的に調べる。また、授業内で課題を提示する。次回の授業までに各自実施しておくこと。 事後学習：授業内容について振り返り、manaba ドリル課題や自己調べ学習を行い、ノートにまとめておくこと。</p> <p>【第2回】介護保険制度とは 介護保険制度について概観し、制度の隙間で起こるハラスメント事例についてグループディスカッションを行う。 事前学習：介護保険制度について使用テキスト及び参考書を事前に読み、分からない箇所はノートにまとめておき、主体的に調べる。また、授業内で課題を提示する。次回の授業までに各自実施しておくこと。 事後学習：授業内容について振り返り、manaba ドリル課題や自己調べ学習を行い、ノートにまとめておくこと。</p> <p>【第3回】介護予防プログラムとは 千葉県市原市の現状を概観し、なぜ介護予防が必要なのか？地域レベルで何ができるのか？グループディスカッションを行う。 事前学習：介護予防運動について使用テキスト及び参考書を事前に読み、分からない箇所はノ</p>		

ートにまとめておき、主体的に調べること。また、授業内で課題を提示する。次回の授業までに各自実施しておくこと。

事後学習：授業内容について振り返り、manaba ドリル課題や自己調べ学習を行い、ノートにまとめておくこと。

【第4回】介護保険における介護予防とは 介護予防を考えていく上で、高齢者の身体機能を体験することで何をすべきなのか？グループワークを行う。

事前学習：介護予防についての意義について使用テキスト及び参考書を事前に読み、分からない箇所はノートにまとめておき、主体的に調べること。また、授業内で課題を提示する。次回の授業までに各自実施しておくこと。

事後学習：授業内容について振り返り、manaba ドリル課題や自己調べ学習を行い、ノートにまとめておくこと。

【第5回】地域支援事業における介護予防とは 地域支援事業を考えていく上で、建造環境にも配慮する必要がある。建造環境において、何がバリアとなり得るのか？グループワークを行う。

事前学習：地域支援事業について使用テキスト及び参考書を事前に読み、分からない箇所はノートにまとめておき、主体的に調べること。また、授業内で課題を提示する。次回の授業までに各自実施しておくこと。

事後学習：授業内容について振り返り、manaba ドリル課題や自己調べ学習を行い、ノートにまとめておくこと。

【第6回】高齢者、障がい者の身体知識 高齢者、障がい者の身体機能体験を通して自己学習できたことをグループで共有しレポートにまとめるグループワークを行う。

事前学習：高齢者の身体的特徴について使用テキスト及び参考書を事前に読み、分からない箇所はノートにまとめておき、主体的に調べること。また、授業内で課題を提示する。次回の授業までに各自実施しておくこと。

事後学習：授業内容について振り返り、manaba ドリル課題や自己調べ学習を行い、ノートにまとめておくこと。

【第7回】高齢者、障がい者の病気 高齢者、障がい者の疾患・心理を理解する上でどのような情報が必要なのか？どのようなコミュニケーションを取る必要があるのか？グループディスカッションを行う。

事前学習：高齢者のなりやすい病気について使用テキスト及び参考書を事前に読み、分からない箇所はノートにまとめておき、主体的に調べること。また、授業内で課題を提示する。次回の授業までに各自実施しておくこと。

事後学習：授業内容について振り返り、manaba ドリル課題や自己調べ学習を行い、ノートにまとめておくこと。

【第8回】高齢者、障がい者の心理 高齢者、障がい者の疾患・心理を理解する上でどのような情報が必要なのか？どのようなコミュニケーションを取る必要があるのか？仮想症例を通してグループディスカッションを行う。

事前学習：高齢者の心理状態について使用テキスト及び参考書を事前に読み、分からない箇所はノートにまとめておき、主体的に調べること。また、授業内で課題を提示する。次回の授業までに各自実施しておくこと。

事後学習：授業内容について振り返り、manaba ドリル課題や自己調べ学習を行い、ノートにまとめておくこと。

【第9回】高齢者の運動および注意点 高齢者、障がい者に運動や身体活動を促す際どのようなことに注意し、配慮すべきなのか？仮想症例を通してグループディスカッションを行う。

事前学習：高齢者の運動時の注意点について使用テキスト及び参考書を事前に読み、分からない箇所はノートにまとめておき、主体的に調べること。また、授業内で課題を提示する。次回の授業までに各自実施しておくこと。

事後学習：授業内容について振り返り、manaba ドリル課題や自己調べ学習を行い、ノートにまとめておくこと。

	<p>【第10回】運動器の機能向上プログラム 高齢者、障がい者に運動や身体活動を促す際にどのようなことに注意し、配慮すべきなのか？仮想症例に合わせたプレゼンテーションを行う。</p> <p>事前学習：運動療法について使用テキスト及び参考書を事前に読み、分からない箇所はノートにまとめておき、主体的に調べる。また、授業内で課題を提示する。次回の授業までに各自実施しておくこと。</p> <p>事後学習：授業内容について振り返り、manaba ドリル課題や自己調べ学習を行い、ノートにまとめておくこと。</p> <p>【第11回】口腔ケア、栄養改善プログラム フレイル予防・改善に向けた地域活動、取り組みについて概観し、グループディスカッションを行う。</p> <p>事前学習：高齢者の嚥下障害について使用テキスト及び参考書を事前に読み、分からない箇所はノートにまとめておき、主体的に調べる。また、授業内で課題を提示する。次回の授業までに各自実施しておくこと。</p> <p>事後学習：授業内容について振り返り、manaba ドリル課題や自己調べ学習を行い、ノートにまとめておくこと。</p> <p>【第12回】福祉用具の選定、住宅改修の知識</p> <p>事前学習：福祉用具、住宅改修について使用テキスト及び参考書を事前に読み、分からない箇所はノートにまとめておき、主体的に調べる。また、授業内で課題を提示する。次回の授業までに各自実施しておくこと。</p> <p>事後学習：授業内容について振り返り、manaba ドリル課題や自己調べ学習を行い、ノートにまとめておくこと。</p> <p>【第13回】ケアマネジャーとは</p> <p>事前学習：ケアマネジャーの役割について使用テキスト及び参考書を事前に読み、分からない箇所はノートにまとめておき、主体的に調べる。また、授業内で課題を提示する。次回の授業までに各自実施しておくこと。</p> <p>事後学習：授業内容について振り返り、manaba ドリル課題や自己調べ学習を行い、ノートにまとめておくこと。</p> <p>【第14回】ケアマネジメント 地域在住高齢者をいかにして自律した生活を取り戻し、地域の互助活動に戻って頂くのか？仮想地域の取り組みに合わせてグループプレゼンテーションを行う。</p> <p>事前学習：アセスメントについて使用テキスト及び参考書を事前に読み、分からない箇所はノートにまとめておき、主体的に調べる。また、授業内で課題を提示する。次回の授業までに各自実施しておくこと。</p> <p>事後学習：授業内容について振り返り、manaba ドリル課題や自己調べ学習を行い、ノートにまとめておくこと。</p> <p>【第15回】まとめ 今までの学習したことのリフレクションを行い、再確認しながら理解を深める。各回のキーワードについてグループディスカッションを行う。</p> <p>事前学習：今まで行った授業を振り返り、講義資料やテキスト、自己学習ノートを再読しておく。</p> <p>事後学習：授業全体について振り返り、manaba ドリル課題や自己調べ学習を行い、ノートにまとめておくこと。</p> <p>※授業内容は、受講者数や受講者の興味関心、理解度などに応じて多少変更することがあります。</p>
--	--

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	帝京平成大学	学部・学科名※	健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科
科目名※	健康とスポーツ	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2025 年度後期	曜日・時限※	水曜日 2 限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	6-104 教室
学修分野			
授業目的※	<p>生体の持つ特性の一つに、生体適応が挙げられます。それは、運動刺激が適切であれば生体機能は向上し、もし運動刺激が少なければ機能低下が生じ、また運動刺激が強すぎると障害が引き起こされるという現象です。体力と健康の密接な関係から運動ならびにスポーツの重要度は増しているものの、トレーニング過多によりスポーツ障害が発生します。したがって、スポーツにおいて、個々人に対する適切なトレーニング刺激が必要とされます。この「健康とスポーツ」では、体力の維持・増進ならびに健康づくりをめざす運動や競技力向上をめざすスポーツにおいて、安全な実施の基盤となるスポーツ医科学の基礎と応用について学んでいきます。</p>		
到達目標	<p>健康ならびに運動・スポーツに携わる専門家に必要とされる、運動生理学ならびにスポーツ科学に基づく健康とスポーツについて理解し説明できる。</p>		
授業内容	<p>「健康とスポーツ」では、運動・スポーツの生理学的基礎理論の理解を踏まえ、日常生活において自発的かつ積極的な運動・スポーツ実践に発展させていくことを目標とする実用的な内容を目指します。この授業では、グループでのディスカッションやグループごとの発表なども行います。</p>		
授業形態※	対面		
評価方法※	定期試験 60%、授業内での小テストおよびレポート課題などの平常点 40%		
評価基準			
テキスト	原則としてプリントを配布します。		
注意事項			
授業シラバス	<p>第 1 回 ガイダンス 授業の内容：本講義の目的と内容、本講義の進め方、テキストに関する説明、本講義における成績評価などについて説明 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと 事後学習；授業について振り返りを行うこと</p> <p>第 2 回 健康について考える 授業の内容：グループディスカッションを行う 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと 事後学習；授業について振り返りを行うこと</p> <p>第 3 回 からだの仕組み 授業の内容：からだの仕組みについて説明する 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと 事後学習；授業について振り返りを行うこと</p> <p>第 4 回 健康と栄養を考える 授業の内容：第 2 回でとりあげた健康についての振り返りを行い、食事（栄養面）の重要性について解説する 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと 事後学習；授業について振り返りを行うこと</p> <p>第 5 回 生活習慣病を理解する 授業の内容：様々な生活習慣病を説明し、身体活動の重要性について説明する 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと</p>		

	<p>事後学習；授業について振り返りを行うこと</p> <p>第 6 回 有酸素運動を理解する 授業の内容：健康維持・増進のための有酸素運動プログラムを紹介する 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと 事後学習；授業について振り返りを行うこと</p> <p>第 7 回 レジスタンストレーニングを理解する 授業の内容：健康維持・増進のための筋力トレーニングプログラムを紹介する 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと 事後学習；授業について振り返りを行うこと</p> <p>第 8 回 中間のまとめ（小テスト実施） 授業の内容：第 2 回目から第 7 回目までの授業のふりかえりと小テストを実施 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと 事後学習；授業について振り返りを行うこと</p> <p>第 9 回 自分の身体を理解してボディデザインメニューを考えよう 授業の内容：テーマを設けてグループワークを行う 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと 事後学習；授業について振り返りを行うこと</p> <p>第 10 回 ロコモティブシンドローム 授業の内容：ロコモティブシンドロームについて説明する 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと 事後学習；授業について振り返りを行うこと</p> <p>第 11 回 サプリメント摂取について 授業の内容：サプリメントの効果について説明する 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと 事後学習；授業について振り返りを行うこと</p> <p>第 12 回 血液・免疫・アレルギー 授業の内容：体力と疲労について説明する 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと 事後学習；授業について振り返りを行うこと</p> <p>第 13 回 体温調節とスポーツ 授業の内容：体温調節とスポーツについて説明する 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと 事後学習；授業について振り返りを行うこと</p> <p>第 14 回 女性とスポーツ 授業の内容：月経周期について、女性におけるスポーツコンディショニングについて説明する 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて 調べておくこと 事後学習；授業について振り返りを行うこと</p> <p>第 15 回 まとめ（小テスト実施） 授業の内容：今までの授業のふりかえりを行い、授業のまとめを行う 事前学習；第 2 回目から 14 回目までの範囲を振りかえっておく 事後学習；授業全体の内容についてまとめておく</p> <p>※授業内容は、受講者数や受講者の興味関心、理解度などに応じて多少変更することがあります。</p>
--	---

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	帝京平成大学	学部・学科名※	健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科
科目名※	スポーツ生理学Ⅱ	単位数※	2単位
開講年度学期※	2025年度後期	曜日・時限※	水曜日 3限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	6-205 教室
学修分野			
授業目的※	トレーニングおよびスポーツコンディショニングに関する次の概要を説明できる。 ①疲労・ストレス ②喫煙の影響 ③貧血と対策 ④スタミナ ⑤筋グリコーゲン ⑥スプリント ⑦サーカディアンリズム ⑧心拍数の指標 ⑨体重の指標 ⑩体温の指標 ⑪水分補給 ⑫ストレッチング ⑬アイシング		
到達目標	体力・運動能力向上やスポーツ外傷・障害予防の計画と実践に必要な運動生理学の基礎知識を理解する。基礎知識をもとに生体の運動刺激・回復過程の特徴を現場に応用できるようにする。		
授業内容	スポーツにおける最大目標は、競技成績の向上です。即ち、スポーツはパフォーマンスの競い合いであり、実際の競技の場において個人の持つ最大能力の発揮が要求されます。運動およびスポーツは生体に対する極めて大きなストレスであり、そのストレス解除により大きなトレーニング効果が期待できます。したがって、運動後の回復の仕方が、重要な意味を示す事になります。この「スポーツ生理学Ⅱ」では、スポーツ医科学を基礎とした生体の運動刺激・回復過程の特徴を学びます。 学生が興味を持ったキーワードやテーマをもとに、グループワークやグループディスカッションを行います。またリアクションペーパーを用いて授業の後半に教員が設けたテーマについて記述し提出してもらいます。		
授業形態※	対面		
評価方法※	定期試験 70%、授業内での小テストおよびレポート課題などの平常点 30%		
評価基準			
テキスト	適宜プリントを配布します。		
注意事項			
授業シラバス	<p>【第1回】 ガイダンス 授業の内容：本講義の目的と内容、本講義の進め方、テキストに関する説明、本講義における成績評価などについて説明 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと 事後学習；授業について振り返りを行うこと</p> <p>【第2回】 生体の科学 授業の内容：前半はテーマについて解説、その後、テーマを設けてリアクションペーパーに記述 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと 事後学習；授業について振り返りを行うこと</p> <p>【第3回】 コンディショニング 授業の内容：前半はテーマについて解説、その後、テーマを設けてリアクションペーパーに記述 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと 事後学習；授業について振り返りを行うこと</p> <p>【第4回】 ウォーミングアップとクーリングダウン 授業の内容：前半はテーマの説明、その後グループに分かれてディスカッションを行う 事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと 事後学習；授業について振り返りを行うこと</p>		

【第5回】ピリオダイゼーション

授業の内容：前半はテーマについて解説、その後、テーマを設けてリアクションペーパーに記述
事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと
事後学習；授業について振り返りを行うこと

【第6回】水分補給

授業の内容：前半はテーマについて解説、その後、テーマを設けてリアクションペーパーに記述
事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと
事後学習；授業について振り返りを行うこと

【第7回】スポーツと栄養

授業の内容：前半はテーマの説明、その後グループに分かれてディスカッションを行う
事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと
事後学習；授業について振り返りを行うこと

【第8回】中間のまとめ（小テスト実施）

授業の内容：第2回目から第7回目までの授業のふりかえりと小テストを実施
事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと
事後学習；授業について振り返りを行うこと

【第9回】スポーツとウエイトコントロール

授業の内容：前半はテーマの説明、その後グループに分かれてディスカッションを行う
事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと
事後学習；授業について振り返りを行うこと

【第10回】体温調節

授業の内容：前半はテーマについて解説、その後、テーマを設けてリアクションペーパーに記述
事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと
事後学習；授業について振り返りを行うこと

【第11回】サーカディアンリズム

授業の内容：前半はテーマについて解説、その後、テーマを設けてリアクションペーパーに記述
事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと
事後学習；授業について振り返りを行うこと

【第12回】ストレッチング

授業の内容：前半はテーマの説明、その後グループに分かれてディスカッションを行う
事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと
事後学習；授業について振り返りを行うこと

【第13回】女性とスポーツ

授業の内容：前半はテーマについて解説、その後、テーマを設けてリアクションペーパーに記述
事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと
事後学習；授業について振り返りを行うこと

【第14回】アイシング

授業の内容：前半はテーマの説明、その後グループに分かれてディスカッションを行う
事前学習；授業最後に発表される次回授業のキーワードについて調べておくこと
事後学習；授業について振り返りを行うこと

【第15回】まとめ（小テスト実施）

授業の内容：今までの授業のふりかえりを行い、授業のまとめを行う
事前学習；第2回目から14回目までの範囲を振りかえっておく
事後学習；授業全体の内容についてまとめておく

※授業内容は、受講者数や受講者の興味関心、理解度などに応じて多少変更することがあります。

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	帝京平成大学	学部・学科名※	健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科
科目名※	スポーツ経営・管理学	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2025 年度後期	曜日・時限※	木曜日 4 限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	6-202 教室
学修分野			
授業目的※	総合型地域スポーツクラブの育成・運営を中心に、スポーツ経営学の基本的な考え方や構造・事業について理解する。		
到達目標	本授業は、日本スポーツ協会公認アシスタントマネージャーに対応する科目であることから、スポーツ経営学とは何か説明できるようになる。また総合型地域スポーツクラブを育成・運営する起業家精神とは何か説明できるようになる。		
授業内容	本授業は、総合型地域スポーツクラブの育成・運営を中心に、スポーツ経営学の基本的な考え方や構造・事業について学ぶ。また、総合型地域スポーツクラブが育成される社会的・政策的な背景や国民の運動・スポーツ実践についても学ぶ。これらの知識は、社会体育指導者のみならず、保健体育科教員、スポーツ行政等を目指す学生にも重要である。授業の後半は、講義だけでなくグループワークを中心に行う。		
授業形態※	対面		
評価方法※	毎回の授業内小レポートと manaba を活用した授業外学習（50%）及び定期試験に代わる授業外レポート（50%）とし、総合的に評価する。		
評価基準			
テキスト	指定テキストは特にない。必要な教材は随時配布もしくは紹介する。		
注意事項			
授業シラバス	<p>第 1 回 オリエンテーション シラバスをもとに、授業のねらい及び到達目標、学習内容、成績評価方法・基準について説明する。 事前学習：シラバスを熟読しておくこと 事後学習：授業で学んだ内容を必ず振り返ること</p> <p>第 2 回 スポーツ経営学とは スポーツ経営学の概念と構造について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：スポーツ経営学の概念について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。</p> <p>第 3 回 運動者と運動者行動について 運動・スポーツ実践の現状と運動者行動の基本類型について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：運動者と運動者行動について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。</p> <p>第 4 回 スポーツサービス(事業)とは スポーツサービス(事業)である AS、PS、CS について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：スポーツサービス(事業)について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。</p> <p>第 5 回 地域スポーツクラブの現状 地域スポーツクラブを取り巻く環境について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：地域スポーツクラブの現状について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。</p> <p>第 6 回 わが国のスポーツ政策 スポーツ基本法とスポーツ基本計画について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。</p>		

	<p>事前学習：わが国のスポーツ政策について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。</p> <p>第 7 回 総合型地域スポーツクラブとは 総合型クラブを取り巻く環境とクラブマネジメントの仕組みについて概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：総合型地域スポーツクラブについて調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。</p> <p>第 8 回 総合型クラブの育成・運営① クラブ創設のステップについて概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：クラブ創設のステップについて調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。</p> <p>第 9 回 総合型クラブの育成・運営② クラブの自主運営に必要な条件や経営資源について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：クラブの自主運営について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。</p> <p>第 10 回 総合型クラブの育成・運営③ クラブの顧客とスタッフの定義について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：クラブの顧客とスタッフの定義について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。</p> <p>第 11 回 総合型クラブの育成・運営④ NPO 法人格の取得手続きについて概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：NPO 法人格の取得手続きについて調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。</p> <p>第 12 回 総合型クラブの育成・運営⑤ クラブの活動拠点（クラブハウス含む）・財源の確保について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：クラブの活動拠点の確保について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。</p> <p>第 13 回 総合型クラブの育成・運営⑥ 事業計画書（ビジネスプラン）の作成と評価について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：事業計画書（ビジネスプラン）について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。</p> <p>第 14 回 総合型クラブの育成・運営⑦ 総合型クラブの事例を紹介する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：総合型クラブの事例について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。</p> <p>第 15 回 まとめ 事前学習：14 回までのテキスト範囲及びノートを再読しておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。</p> <p>※授業内容は、受講者数や受講者の興味関心、理解度などに応じて多少変更することがあります。</p>
--	---

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	東京情報大学	学部・学科名※	総合情報学部 総合情報学科
科目名※	コンピュータグラフィックス基礎	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	月曜・1 限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	オンライン
学修分野			
授業目的※	可視化技術やメディア産業などで使われるコンピュータグラフィックス技法の基本的な考え方および、生成手法と表現方法について講義を行う。また、2DCG および 3DCG の概要を解説し、2DCG および 3DCG の基本的な開発技術を学習する。CG は、GIMP (2DCG) および POV-Ray(3DCG)を用いて作成を行う。		
到達目標	メディア分野の応用について理解する能力と関連分野の基礎知識を学ぶ。 また、2DCG および 3DCG の概要を理解し、基本的な 2DCG および 3DCG の作成技術を習得し、高度かつ専門的な I C T の知識及び技術を身につける。		
授業内容	01 ガイダンス, 2DCG と 3DCG の例の違い 02 (2DCG) 2DCG の画像情報と視覚表現 03 (2DCG) 画面構成と黄金比・色彩・色と光の三原色 04 (2DCG) 画像情報の扱い・画像の加工とデザイン 05 (2DCG) 2DCG の設計と表現 06 (2DCG) 様々な 2DCG アニメーション表現 07 (2DCG) アニメーションの設計と表現の基礎 08 (2DCG) アニメーションの設計と表現の応用 09 (3DCG) 3DCG の概要、POV-Ray の基本操作 10 (3DCG) 座標系, シーンファイルの構成、基本図形 11 (3DCG) 彩色, 光源と陰影 12 (3DCG) 座標変換 (移動・回転・縮小拡大) 13 (3DCG) マッピング, 立体演算 14 (3DCG) 作品制作 15 (3DCG) 作品評価		
授業形態※	オンライン (Zoom) で実施します。 Zoom の URL については本学シラバスをご確認ください。		
評価方法※	2DCG 課題, 3DCG 課題		
評価基準	2DCG 課題 50%, 3DCG 課題 50%		
テキスト	松下孝太郎, 山本光, 柳川和徳, 鈴木一史, 星和磨, 羽入敏樹 共著 “POV-Ray で学ぶ はじめての 3DCG 制作”, 講談社, 2017 年, ISBN: 978-4-06-153827-6 (2,400 円+税)		
注意事項			
授業シラバス	シラバス検索ページ https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/ ※東京情報大学ロゴの下の ゲストの方はこちら から入り、開講年度学期 (2025 前期)、授業科目「コンピュータグラフィックス基礎」で検索		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	東京情報大学	学部・学科名※	総合情報学部 総合情報学科
科目名※	ゲーム制作基礎	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	火曜・1 限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	オンライン
学修分野			
授業目的※	<p>コンピュータ・ゲームの制作にはプログラミング技術の修得が必要であるが、ゲーム制作に特化した開発ツールを利用することによって、プログラミング技術を修得していない者でもゲームの内部処理を学び、自分のアイデアを表現することができる。</p> <p>本授業は、まずゲーム制作を体験してみることで、企画立案、デザイン設計、システム設計、さらに物理シミュレーションや AI 的制御の活用等に触れ、受講生のその先の学習・研究の方向性を見極める一つの助けとなることを目的とする。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の代表的なゲームによって表現された、「競争」「戦略」「解決」のモデル化技術を具体例から学ぶ。 ・ゲーム制作における乱数と変数の利用、データや物理シミュレーションの活用から数学・物理学的アプローチを理解し身につける。 ・自ら構想したゲームを実際に制作することによって、情報表現技術の基礎を習得する。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス <ul style="list-style-type: none"> ★授業の目的、内容の説明 ★ゲーム制作演習の概要 ★ツールの基本操作 2. ゲーム制作のプロセス <ul style="list-style-type: none"> ★ゲームの構成要素 ★イベントとアクション 3. 代表的なゲームの分析 <ul style="list-style-type: none"> ★レトロゲームの歴史 ★シューティングゲーム ★プラットフォームゲーム 4. ゲーム制作① <ul style="list-style-type: none"> ★プレイヤー・キャラクターの制御 ★コンピューター★キャラクターの制御 ★条件判定キャラクターの制御 5. 数値の計測と制御 <ul style="list-style-type: none"> ★得点の仕組みと制御 ★スコア、ライフ、ヒットポイント等の制御 ★数値の表示法 6. 空間の設計と制御 <ul style="list-style-type: none"> ★RPG の構成要素 ★画面レイアウトの設計 ★マップ、アイテム、障害物 7. 時間の制御 <ul style="list-style-type: none"> ★実時間の計測とフィードバック ★制限時間とルール 8. ゲーム制作② <ul style="list-style-type: none"> ★スコア、時間、HP、自機数などの表示制御 ★タイトル、背景、UI のデザイン ★レイヤーの理解と活用 9. 物理シミュレーション <ul style="list-style-type: none"> ★重力のシミュレーション ★衝突、摩擦、慣性のシミュレーション 10. ゲーム AI の基礎 <ul style="list-style-type: none"> ★乱数制御による移動と攻撃 ★手加減の表現 11. ゲーム制作③ <ul style="list-style-type: none"> ★ゲームの企画 ★システム設計 12. ゲーム制作④ <ul style="list-style-type: none"> ★ゲーム・グラフィックの制作 ★実装とデバッグ 13・14. ゲーム制作⑤⑥ <ul style="list-style-type: none"> ★作業の進行と統合 15. まとめ <ul style="list-style-type: none"> ★課題作品の講評 ★授業のまとめ 		

授業形態※	講義＋演習形式で行う。WebClass を活用し、スライド、参考資料は逐次配信する。 ゲーム制作アプリケーションは主に「ClickTeam Fusion2.5 free edition」を使用する。
評価方法※	課題, レポート
評価基準	課題（4 回の基礎課題、1 回の総合課題を課す。基礎課題では学習効果の測定、総合課題では総合的にこの授業の学習の到達度を判定する。）80% レポート（講義内容に関連するテーマで調査と分析を行い、自分の考察を加えたレポートを作成。詳細は講義内で通知する。）20%
テキスト	指定しない。毎回の授業の資料は WebClass に掲示する。
注意事項	
授業シラバス	シラバス検索ページ https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/ ※東京情報大学ロゴの下の ゲストの方はこちら から入り、開講年度学期（2025 前期）、授業科目「ゲーム制作基礎」で検索

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	東京情報大学	学部・学科名※	総合情報学部 総合情報学科
科目名※	地理情報システム a	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	火曜・1 限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	1 号館 3 階 322
学修分野			
授業目的※	地理情報システムは、あらゆる地理空間情報を地図上に表示しながら、その属性をデータベースとして管理できるシステムである。地形・地質・気温・生物の分布や、土地利用・道路・鉄道・人口の分布などの、様々な環境データを解析し、その結果を公開することもできる。講義では、業界標準ソフトウェアの ArcGIS を用いて、その概念と技術を習得する。		
到達目標	地理情報システムの基礎概念を理解する 地理情報システムのデータ構造を理解する 地理情報システムの操作技術を習得する 地理情報システムを用いて新たな地図を作成できる 地理空間情報についての基礎知識を身に付ける これらの目標をふまえて、自然や社会に関する幅広い教養と、衛星画像などのビッグデータを扱ううえで必要な知識、高い情報技術を身につけることで、情報社会に対応できるようになる		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・イントロダクション 2. ArcGIS の基本操作：データの閲覧と追加・主題図の作成 3. ArcGIS の基本操作：属性検索（データの種類と構造） 4. 空間検索 5. 空間検索と属性テーブルの編集 6. ジオプロセッシング：ディゾルブ・クリップ 7. ジオプロセッシング：マージ・ユニオン・インターセクト 8. 地図投影法・地図投影演習 9. 属性テーブルの編集：リレートと結合 10. ジオコーディング：住所データでの演習（アドレスマッチング） 11. ジオコーディング：ラスターデータでの演習 12. データの利用と公開 13. データの利用と公開：ポータルサイト 14. データの利用と公開：官公庁のサイト 15. まとめ・試験 		
授業形態※	地理空間情報に関する知識習得のための講義と、技術習得のための演習をセットで行う。毎回、課題を提出する。講義資料と、講義内容の理解度を測る課題を WebClass に掲載する。		
評価方法※	課題，平常試験		
評価基準	課題（講義内容についての理解度を評価する）20% 平常試験（到達目標の冒頭 5 項目の習熟度を試験から判断し、評価する。）80%		
テキスト	なし。講義時間中に適宜、紹介する。		
注意事項	USB メモリーを必ず持参すること。		
授業シラバス	シラバス検索ページ https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/ ※東京情報大学ロゴの下の ゲストの方はこちら から入り、開講年度学期（2025 前期）、授業科目「地理情報システム a」で検索		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	東京情報大学	学部・学科名※	総合情報学部 総合情報学科
科目名※	ソフトウェア工学 a	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	木曜・1 限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	1 号館 3 階 301
学修分野			
授業目的※	ソフトウェア工学の基本的な考え方と知識を体系的に学び、「安心・安全」なソフトウェアを設計・作成・保守する力を強化することを目的とする。ソフトウェア開発プロセス、ソフトウェアライフサイクル、プロセスの標準化、要求分析からテスト工程・保守まで一貫した流れを学ぶ。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトウェア開発におけるソフトウェア工学の役割を理解する ・ソフトウェアの性質、開発の課題を理解する ・ソフトウェア開発プロセス・ライフサイクル・モデルを理解する ・基本的なソフトウェア開発のモデルとしてウォーターフォール型開発について理解する 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. ソフトウェア工学の目的と発展史 3. ソフトウェアの開発方式 4. 要求分析と要求仕様書 5. 外部設計と外部仕様書 6. 内部設計と内部仕様書 7. 製造と試験 8. 要求分析の技法 9. 設計の技法 10. 製造の技法 11. オブジェクト指向設計 1 12. オブジェクト指向設計 2 13. オブジェクト指向設計 3 14. 総合演習 15. 総まとめ 		
授業形態※	講義形式で実施するが、必要に応じて演習課題を課す。		
評価方法※	課題、レポート、平常試験		
評価基準	課題（講義中に必要に応じて課す課題）20% レポート（2回のレポート課題）10% 平常試験（筆記および実技形式による試験を実施する。）70%		
テキスト	テキストはありません。資料は適宜公開します。		
注意事項			
授業シラバス	シラバス検索ページ https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/ ※東京情報大学ロゴの下の ゲストの方はこちら から入り、開講年度学期（2025 前期）、授業科目「ソフトウェア工学 a」で検索		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	東京情報大学	学部・学科名※	総合情報学部 総合情報学科
科目名※	システム設計論 a	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	木曜・2 限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	1 号館 3 階 301
学修分野			
授業目的※	インターネット時代の情報システムの設計・構築・管理法について理解を深め、Web ベース情報システム（Web アプリケーション）を実現する設計・構築・管理法を習得する。まず、情報システムの設計思想の変遷を概説し、情報システムの重要性やシステム開発モデルを理解する。次に、インフラ設計やアプリケーション設計などの設計の流れやシステムの分析設計法について学ぶ。更に、身に付けた専門知識を社会で活用する技術力や、問題を発見し、論理的に整理する能力も身に付ける。		
到達目標	Web ベース情報システム（Web アプリケーション）の設計・構築・管理法に関する標準化・基礎知識と最新技術動向を理解し、ユーザ要求分析からアプリケーション設計までの流れと情報処理技術を取得すると共に、実際の具体例に応用できる能力を養う。		
授業内容	01. ガイダンス 02. 情報システム概論 03. 情報システムの処理形態と変遷 04. ハードウェア進歩と情報システムの設計思想 05. クライアントサーバシステム 06. Web 3 階層型クライアントサーバシステム 07. システム設計・構築 08. テスト計画・設計・プロジェクト管理 09. インフラ設計 10. システム分析設計技法(1) 11. システム分析設計技法(2) 12. アプリケーション設計・構築 13. ユーザインタフェース設計・Web アプリケーション設計 14. 全体まとめ 15. 期末試験、解説		
授業形態※	・テキストを使用して、講義形式で行う。講義の理解状況を確認するため、毎回演習を実施する。 ・13 回と 14 回には、システム設計の全体の流れに関する理解状況を評価するため、総合演習を実施し、レポート提出を課する。		
評価方法※	課題, 平常試験		
評価基準	課題（受講した回の内容に関する演習を実施し、理解度を確認する。）40% 平常試験（到達目標のユーザ要求分析からアプリケーション設計までのシステム設計に関する理解度を評価するための試験を実施する。）60%		
テキスト	「システム設計論」布広永示 他 コロナ社(2017 年改訂版発行)		
注意事項	テキスト以外に関連資料などを自発的に学習すること。		
授業シラバス	シラバス検索ページ https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/ ※東京情報大学ロゴの下の ゲストの方はこちら から入り、開講年度学期（2025 前期）、授業科目「システム設計論 a」で検索		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	東京情報大学	学部・学科名※	総合情報学部 総合情報学科
科目名※	社会学概論	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2025 年度後期	曜日・時限※	月曜・2 限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	1 号館 4 階 401
学修分野			
授業目的※	本講義は社会学の入門として、社会学の基礎知識の習得を第一の目標とする。前半は、社会学の代表的な学説の基礎理解をめざし、そして、そこから現代社会を理解するための基礎づくりを目標とする。特に代表的な学説は、公務員試験他、社会学を受験科目としているような諸試験の基礎準備となる水準で講義する。後半は、具体的な社会問題を取りあげた学説を紹介する。		
到達目標	現代社会理解のための基礎知識の構築		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 社会学の萌芽 (コント・スペンサー) 3. 初期社会学の学説 1 (デュルケム) 4. 初期社会学の学説 2 (ウェーバー) 5. 初期社会学の学説 3 (ジンメル・テンニース) 6. 社会的人間発達 (クーリー・ミード) 7. 中間試験および解説 8. シカゴ学派 1 (トマス・パーク) 9. シカゴ学派 2 (バージェス・ワース) 10. 構造機能主義 (パーソンズ) 11. 構造機能主義 (マートン) 12. 現代社会論 1 (家族論) 13. 現代社会論 2 (逸脱行為論) 14. 現代社会論 3 (大衆社会論) 15. まとめ 		
授業形態※	講義形式で行う。		
評価方法※	平常試験		
評価基準	平常試験で全体を通した講義内容の理解度を確認する 中間試験 40%、期末試験 60%		
テキスト	使用しない		
注意事項	他者の学ぶ権利を侵害したり、学ぶ環境を乱したりする者には厳しい態度で接する。私語や不真面目な受講態度のないことを望む。		
授業シラバス	シラバス検索ページ https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/ ※東京情報大学ロゴの下の ゲストの方はこちら から入り、開講年度学期（2025 後期）、授業科目「社会学概論」で検索		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	東京情報大学	学部・学科名※	総合情報学部 総合情報学科
科目名※	経営学概論	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2025 年度後期	曜日・時限※	月曜・3 限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	1 号館 2 階 201
学修分野			
授業目的※	経営学の基本的な理論フレームワークについて講義する。経営学の関心は、企業活動にまつわるあらゆるトピックに及び非常に多岐にわたるが、本講義では、経営学の中心的な構成分野である経営戦略論と経営組織論における基本的な用語や考え方に重点を置き、具体的な事例を交えながら解説を加えていく。また、情報社会における経営のあり方と、その理解に必要な着眼点や分析力も併せて説明する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経営学における基本的な用語や概念を理解し、情報社会における企業経営にまつわるさまざまな事象を読み解く素養を身につけることができる。 ・企業経営に関する分析方法などの総合的な理解に基づいて、それを幅広い場面で活用しようとする姿勢を身につける。 ・情報社会の変化に対応するために、自律的に学ぶ姿勢を身につける。また、そのために常に高い意欲を持ち、自主的・総合的に学習する姿勢を身につける。 ・企業を理解するための情報収集方法や分的方法に基づいて、さまざまな企業の状況について調べることができる。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業ガイダンス：学習のための情報源 2 経営学の内容（1）：企業経営・経営学の全体像 3 経営学の内容（2）：株式会社、雇用制度 4 経営戦略論：成長戦略（1）：多角化 5 経営戦略論：成長戦略（2）：国際化 6 経営戦略論：競争戦略（1）：コストリーダーシップ、差別化 7 経営戦略論：競争戦略（2）：集中化 8 経営組織論：組織構造（1）：職能別組織、事業部制組織 9 経営組織論：組織構造（2）：マトリックス組織、その他の組織構造 10 経営組織論：リーダーシップ 11 経営組織論：組織文化 12 経営組織論：モチベーション 13 情報社会における現代の企業経営（1）：情報技術の役割 14 情報社会における現代の企業経営（2）：情報技術と戦略 15 総理解：これまでの授業内容のまとめと、理解度評価のための試験 		
授業形態※	講義形式を主体とし、テーマに沿った事例に基づくディスカッションを毎回行う。毎回、授業の理解度を測定するための確認テストを行う。		
評価方法※	課題、レポート、平常試験		
評価基準	課題（簡潔な提出物を求めることがある。）10% レポート（企業に関するレポートを2回行う。それぞれの評価の割合は25%。）50% 平常試験（授業最終回に試験を行う。）40%		
テキスト	「1からの経営学（第3版）」碩学社 978-4502375217 本体2,400円		
注意事項			
授業シラバス	シラバス検索ページ https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/ ※東京情報大学ロゴの下の ゲストの方はこちら から入り、開講年度学期（2025 後期）、授業科目「経営学概論」で検索		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	東京情報大学	学部・学科名※	総合情報学部 総合情報学科
科目名※	心理学概論	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2025 年度後期	曜日・時限※	水曜・3 限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	1 号館 2 階 201
学修分野			
授業目的※	人の心について知ることは、社会の中でより良く生きていくために重要な要素である。本講義では心理学の様々な領域について、それぞれどのような内容を対象としているかについて説明する。心について幅広い知識を得ることで、生活の様々な側面に心理学的な知見が生活していることを知り、心理学的な見方を持つための基礎を身につける。		
到達目標	心理学に関連する様々な領域で取り扱っている内容の基礎を知り、人の心について発展的な考えや興味を持つことができる。心理学に関する情報を適切に収集、分析及び活用することができる。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.心理学とは何か 心理学の成り立ちや、さまざまな学問領域の中における位置づけについて理解する。 2.脳と心理学 脳機能と心の関係について学ぶ 3.感覚・知覚 感覚や知覚の意味と仕組みについて学ぶ 4.記憶 記憶の仕組みについて学ぶ 5.学習 学習に関する心理学について学ぶ 6.思考・問題解決 思考や問題解決に関する心の働きについて学ぶ 7.感情 感情の仕組みについて学ぶ 8.動機づけ 動機づけの仕組みについて学ぶ 9.性格 性格の心理的構造や測定法について学ぶ 10.知能 知能の心理的構造や測定法について学ぶ 11.発達 人が成長していく中で心の機能の変化について学ぶ 12.ストレスと健康 心と身体の関係について学ぶ 13.臨床心理学 心の働きの異常や心理療法について学ぶ 14.社会心理学 人と人との関わりに関する心理学について学ぶ 15.まとめ及び試験 本講義の総括をし、心理学に関する情報を適切に収集、分析及び活用することができるようになったか確認をする。確認のための試験を行う。 		
授業形態※	講義形式		
評価方法※	平常試験、その他		
評価基準	平常試験（2 回行われる試験の合計点）80% その他（平常点（コメント、挙手、質問、提出物、授業態度））20%		
テキスト	「1からの経営学（第3版）」加護野忠男・吉村典久 碩学社 978-4502375217 本体 2,400 円		
注意事項			
授業シラバス	シラバス検索ページ https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/ ※東京情報大学ロゴの下の ゲストの方はこちら から入り、開講年度学期（2025 後期）、授業科目「心理学概論」で検索		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	東京情報大学	学部・学科名※	総合情報学部 総合情報学科
科目名※	情報ネットワーク概論	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2025 年度後期	曜日・時限※	金曜・3 限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	1 号館 1 階 101
学修分野			
授業目的※	本講義では、ネットワークの基礎知識、利用者として知っているべき技術的内容やセキュリティ上の知識を、幅広く学ぶ。また、ネットワークやセキュリティの設定や確認の実習を通して実用的な知識を学ぶ。本講義の内容は、多くの情報処理系の資格試験（IT パスポート、基本情報技術者試験など）の必要知識の一部を成すものである。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを中心とするネットワークの基本的な仕組みを理解する。 ・ネットワークを使う上でのセキュリティの基本的な仕組みを理解する。 ・ネットワークやセキュリティの実習を通して、実用的な知識を得る。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 ネットワークの概要 <ul style="list-style-type: none"> ・LAN, WAN について学ぶ 2 ネットワーク方式と LAN の基本構成 <ul style="list-style-type: none"> ・回線交換とパケット交換、LAN の基本について学ぶ 3 LAN の構成とイーサネット <ul style="list-style-type: none"> ・トポロジー、CSMA/CD について学ぶ 4 無線 LAN <ul style="list-style-type: none"> ・無線 LAN の規格とセキュリティについて学ぶ 5 通信プロトコル <ul style="list-style-type: none"> ・OSI 参照モデル、TCP/IP について学ぶ 6 IP アドレス（1） <ul style="list-style-type: none"> ・IPV 4 について学ぶ 7 IP アドレス（2） <ul style="list-style-type: none"> ・サブネットについて学ぶ 8 インターネット <ul style="list-style-type: none"> ・ISP とインターネットへの接続形態について学ぶ 9 WWW <ul style="list-style-type: none"> ・URL、DNS、Web アプリケーションについて学ぶ 10 電子メール <ul style="list-style-type: none"> ・メールのしくみとメールアドレスについて学ぶ 11 情報セキュリティ <ul style="list-style-type: none"> ・リスク対策、ISMS について学ぶ 12 情報セキュリティ対策（1） <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータウイルス、ネットワークのセキュリティについて学ぶ 13 情報セキュリティ対策（2） <ul style="list-style-type: none"> ・暗号方式、デジタル署名について学ぶ 14 情報セキュリティ対策（3） <ul style="list-style-type: none"> ・認証、アクセス管理について学ぶ 15 平常試験と総まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・平常試験（第 1 回～第 14 回）と総まとめを行う 		
授業形態※	<ul style="list-style-type: none"> ・次回講義をするテキスト、資料の範囲を授業の最後に連絡するので、事前に 1 時間学習する。 ・必ず 1 時間復習し、講義の内容を再確認する。 		

評価方法※	小テスト、平常試験
評価基準	小テスト（理解度チェックのため毎回小テストを行う。）20% 平常試験（理解度・到達度を評価するために、平常試験を行う。）80%
テキスト	「情報ネットワーク概論」 コロナ社 978-4-339-02484-5 「令和 07 年キタミ式イラスト IT 塾 IT パスポート」技術評論社 978-4-297-13184-5
注意事項	必ず 2 つのテキストを持参すること。
授業シラバス	シラバス検索ページ https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/ ※東京情報大学ロゴの下の ゲストの方はこちら から入り、開講年度学期（2025 後期）、授業科目「情報ネットワーク概論」で検索

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	東京情報大学	学部・学科名※	総合情報学部 総合情報学科
科目名※	視覚デザイン論	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2025 年度後期	曜日・時限※	金曜・3 限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	オンライン
学修分野			
授業目的※	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を視覚に訴える形で表し伝える"視覚デザイン"の変遷と理論を学ぶ。 ・現代社会における情報メディアの視覚情報伝達技術を理解し、演習により修得する。 		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚デザインの理論に基づくコミュニケーションの効果を理解しメッセージを読み解くことができる。 ・レポートやプレゼンテーション、WEB デザイン等に視覚デザインの理論と表現を活かした表現を行うことができる。 ・視覚デザインに関する知的財産権と関連法について学び、情報の表現者としての自覚と高い倫理観を身につける 		
授業内容	<p>01.デザインの歴史 1、ガイダンス、デザインの歴史 1 02.デザインの歴史 2、古代文明とデザイン、Inkscape の準備 03.デザインの歴史 3、産業革命とデザイン、Inkscape 入門 1 04.デザインの歴史 4、アーツアンドクラフツとアールヌーボー 05.デザインの歴史 5、印刷・広告とデザイン、デジタルデザイン演習 1 06.デザインの歴史 6、アールヌーボー、デジタルデザイン演習 2 07.デザインの歴史 7、ロシア・アバンギャルドとダダイズム 08.デザインの歴史 8、アールデコとアメリカン・スタイル 09.デザインの歴史 9、ドイツ・バウハウスとスイス・スタイル 10.デザインの歴史 10、コンピュータ革命とユニバーサルデザイン、 11.日本デザインの歴史 1、伝統文様と文化、デジタルデザイン演習 3 12.日本デザインの歴史 2、日本デザインの研究、デジタルデザイン演習 4 13.日本デザインの歴史 3、現代デザインの研究 14.デザインの歴史まとめ、WEB デザイン・最終課題の説明 15.現代日本のデザイン 授業のまとめ</p>		
授業形態※	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドや映像資料を用いた講義をおこなう。 ・視覚デザイン制作を行うアプリケーションソフトを演習により習得する。 ・体系的なデザイン学習に基づいたデザイン制作をおこなう。 		
評価方法※	課題、レポート、小テスト		
評価基準	<p>課題（①デジタル画像処理、②グラフィック・デザイン制作、③WEB サイトの企画・デザイン制作） 60% レポート（視覚デザイン分野のテーマを設定し、資料に基づいた調査・考察を行う。） 30% 小テスト（WebClass で授業内容に関する重要項目復習テストを複数回行う。） 10%</p>		
テキスト	指定しない。毎回の授業の資料は WebClass に掲示する。		
注意事項			
授業シラバス	<p>シラバス検索ページ https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/ ※東京情報大学ロゴの下のゲストの方はこちらから入り、開講年度学期（2025 後期）、授業科目「視覚デザイン論」で検索</p>		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学	学部・学科名※	経済学部 経済学科
科目名※	日本経済史 I	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度 前期	曜日・時限※	月曜・3 時限
キャンパス※		教室※	未決定
学修分野			
授業目的※	<p>近世から近現代を中心に、日本経済史の概説を行います。年号や事件、政治家の名前を記憶する暗記科目ではなく、モノの生産—流通—消費の量的・空間的な変化や、人びとの移動や生活の変化を論じます。身近なモノや人びとの暮らしを対象とすることで、現代社会を相対化（通時比較、共時比較）する知見が得られます。</p> <p>なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に【（思考力、判断力、表現力等）】に資する科目です。</p>		
到達目標	<p>・日本経済史における基礎的な用語や概念を解説できる。</p> <p>・日本国内における経済社会の動向のみならず、資本主義の世界体制形成・深化における日本の立ち位置を図解できる。</p>		
授業内容	<p>(1)イントロダクション：日本経済史を学ぶ意義 (2)勤勉革命と人口増加 (3)名産地の形成 (4)貿易の開始 (5)対外進出 (6)殖産興業 (7)海外への移民 (8)重化学工業の勃興 (9)都市の膨張 (10)農村の形成 (11)都市と農村 (12)フードチェーン (13)昭和農業恐慌と農村 (14)統制経済 (15)満州移民</p>		
授業形態※	対面授業		
評価方法※	<p>・評価項目割合：期末テスト 100%</p> <p>・全 15 回授業の 3 分の 2 に相当する 10 回分の出席が必須です。最低出席回数を満たされたうえで、期末テストの点数により成績評価を行います。</p>		
評価基準			
テキスト	指定なし		
注意事項	<p>・講義中に、教員からの問いかけに自分なりの回答を発表する場面があります。主体的に講義に参加してください。</p>		
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学	学部・学科名※	経済学部 経済学科
科目名※	国際金融論 I	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度 前期	曜日・時限※	火曜・3 時限
キャンパス※		教室※	未決定
学修分野			
授業目的※	金融とは文字通り、お「金」を「融」通すること、つまり資本（お金）の貸借を意味する。そして、国際金融とはこの資本の国際的な取引を指す。金融取引の国際化はさらに深化し、一国の金融問題が世界中に波及するリスクもさらに高まっているとともに、国際金融論を学ぶ意義も深くなっているといえる。この授業では、まず国際的な金融取引の仕組みを解説し、それに伴う経済的諸問題を概観する。次に、理論的な見地から望ましい国際金融システムの構築を展望する。なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に【（思考力、判断力、表現力等）】に資する科目である。		
到達目標	国際的な金融取引の現状と問題を説明できること、そして国際金融論の知識をもとに、問題の解決策を自分なりに考え、論じることができるようになることを目標とする。		
授業内容	第 1 回 為替レートの変動 第 2 回 円ドルレートと日本の貿易 第 3 回 国際収支統計 第 4 回 外国為替市場と為替リスク 第 5 回 為替制度と金融政策 第 6 回 金融政策と中央銀行のバランスシート 第 7 回 一物一価 第 8 回 内外の物価水準と為替レートの関係 第 9 回 実質為替レート 第 10 回 国内金利平価 第 11 回 カバー付き金利平価 第 12 回 カバーなし金利平価 第 13 回 金融政策の目的と目標 第 14 回 マネタリー・アプローチ(1)貨幣市場の均衡 第 15 回 マネタリー・アプローチ(2)為替レート決定式		
授業形態※	対面授業		
評価方法※	課題の取り組み 20%、期末試験の成績 80%。毎回 Forms による課題を課すので全 15 回の合計点を 100 点に換算して成績評価に加味する。 課題については、授業内で全員に対するフィードバックを行う。		
評価基準			
テキスト	指定なし。		
注意事項	授業は板書を使って行うので、国際金融論 I の専用ノートを用意すること。なお書くまでもないが、私語は厳禁である。		
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学	学部・学科名※	経済学部 経営学科
科目名※	経営管理論 I	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度 前期	曜日・時限※	火曜・3 時限
キャンパス※		教室※	未決定
学修分野			
授業目的※	<p>私たちの周りには、大企業のみならず、行政、病院、学校、NPO、中小企業など、様々な組織があります。そのため、現代社会において、組織に関わらず生きていくということは、ほぼ不可能だといえるかもしれません。そこで、この講義では、そうした企業をはじめとする諸組織が、目的を達成するためにどのようなマネジメントを行っているのかについて学修していきます。併せて、半年間の講義を通じて、経営管理論の基礎知識のほか、研究のために文献を「読む」手法、プレゼンテーション技法、論理的な思考力などを身につけていただければと思います。</p> <p>なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に【（知識、技能）（思考力、判断力、表現力等）】に資する科目です。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経営管理論の基礎知識を修得することができる。 ・現代の組織が抱えるマネジメントの諸課題に対して、自分の意見を述べることができる。 		
授業内容	<p>第 1 回 ガイダンス 第 2 回 経営管理論への招待 第 3 回 組織とは？ 第 4 回 組織が存続するためには？ 第 5 回 組織の基本型 第 6 回 組織構造のマネジメント 第 7 回 文献レビューの方法 第 8 回 経営戦略とは？ 第 9 回 企業戦略とは？ 第 10 回 事業戦略とは？ 第 11 回 ポーターの基本戦略 第 12 回 リーダーシップ・モチベーション・コミットメント 第 13 回 文献レビューの報告 第 14 回 課題報告 第 15 回 経営管理の課題と展望（総評）</p> <p>・毎回の講義は、①前回の振り返り、②テーマに関する概説、③受講生同士のディスカッションやプレゼンテーション、④ミニレポートの記入・提出といった流れで行う予定です。ただし、受講者数によって、講義の形式や内容を変更する可能性があります。</p> <p>・また、受講生の皆さんには、研究のために多数の文献を「読む」手法（アカデミックスキルの一つ）を身につけていただくことを計画しています。前期後半にはその成果の報告会を行います。</p>		
授業形態※	対面授業		

評価方法※	<p>①ディスカッション・プレゼンテーション・報告の内容、毎回のミニレポートなど 40%</p> <p>②期末課題 60%</p> <p>※本講義では、授業時間外での負担もあり、受講生にとってハードな講義になりますので、履修にあたってはそうした点をよく考慮するようにしてください。</p> <p>※授業への積極的な参加が成績に直結することから、毎回出席して真剣に講義に参加できる方の履修を強く希望します。</p> <p>※ミニレポートなどは、授業内で全員に対してフィードバックを行います。</p>
評価基準	
テキスト	指定なし
注意事項	<p>・初回の授業で授業の進め方について説明する予定のため、履修希望者は必ず出席するようにしてください。</p> <p>・受講生には、講義内での質疑応答やディスカッションへの積極的な参加、プレゼンテーションの実技、多数の文献を「読む」こと、毎回のミニレポートの記入などが求められます（具体的な方法については講義内で説明します）。</p> <p>・以上のように受講生にとってはハードな講義になりますので、履修にあたっては、そうした点を十分考慮するようにしてください。授業への積極的な参加が成績に直結することから、毎回講義に参加できる方の履修を強く希望します。</p> <p>・全 15 回の講義に真剣に取り組むことで、受講生には、思考力・表現力・文章力などが身に付くものと考えています。また、経営学関連科目や「経営管理論Ⅱ」を併せて履修してください。</p>
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学	学部・学科名※	経済学部 経営学科																					
科目名※	上級簿記 I	単位数※	2																					
開講年度学期※	2025 年度 前期	曜日・時限※	水曜・4 時限																					
キャンパス※		教室※	未決定																					
学修分野																								
授業目的※	<p>本講義では日商簿記 2 級レベルの簿記を学習した上で、上級レベル（簿記論・財務諸表）の簿記を習得することを目的としています。この講義では大企業を前提とした会計処理の実務能力を習得し、特に税理士試験（簿記論・財務諸表論）に関する個別財務諸表に関する個別財務諸表に関する論点を中心に扱います。</p> <p>なお、この科目は卒業認定・学位授与方針のうち、特に【(知識, 技能)】に資する科目です。本講義は会計コースの応用となる講義であり、税理士試験の合格を目指す学生は必ず履修してください。</p> <p>《参考》授業と資格試験の対応 ※令和 6 年度以前の入学者は（ ）の科目</p> <table border="0"> <tr> <td>資格</td> <td>授業科目</td> <td></td> </tr> <tr> <td>日商 3 級</td> <td>初級簿記 I・II（商業簿記 I・II）</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>簿記答練（簿記答練 I（集中））</td> <td></td> </tr> <tr> <td>日商 2 級</td> <td>中級簿記 I・II（商業簿記 III・IV）</td> <td>工業簿記 I・II</td> </tr> <tr> <td></td> <td>簿記答練（簿記答練 II（集中））</td> <td></td> </tr> <tr> <td>日商 1 級</td> <td>上級簿記 I・II（商業簿記 V）</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>（商業簿記答練上級）（工業簿記答練上級）</td> <td></td> </tr> </table>			資格	授業科目		日商 3 級	初級簿記 I・II（商業簿記 I・II）			簿記答練（簿記答練 I（集中））		日商 2 級	中級簿記 I・II（商業簿記 III・IV）	工業簿記 I・II		簿記答練（簿記答練 II（集中））		日商 1 級	上級簿記 I・II（商業簿記 V）			（商業簿記答練上級）（工業簿記答練上級）	
資格	授業科目																							
日商 3 級	初級簿記 I・II（商業簿記 I・II）																							
	簿記答練（簿記答練 I（集中））																							
日商 2 級	中級簿記 I・II（商業簿記 III・IV）	工業簿記 I・II																						
	簿記答練（簿記答練 II（集中））																							
日商 1 級	上級簿記 I・II（商業簿記 V）																							
	（商業簿記答練上級）（工業簿記答練上級）																							
到達目標	<p>上級簿記 I（商業簿記 V）では、高度な商業簿記・会計学（税理士試験（簿記論・財務諸表論））の知識を習得し、大企業に特有の会計処理ができることを目標としている。特に個別財務諸表の作成を前提に学習する。</p>																							
授業内容	<p>第 01 回 ガイダンス・簿記一巡</p> <p>第 02 回 現金預金</p> <p>第 03 回 金銭債権①：手形取引</p> <p>第 04 回 金銭債権②：貸倒引当金</p> <p>第 05 回 棚卸資産①：期末評価</p> <p>第 06 回 棚卸資産②：売価還元法</p> <p>第 07 回 有形固定資産①：取得</p> <p>第 08 回 有形固定資産②：減価償却</p> <p>第 09 回 有形固定資産③：買換・圧縮記帳</p> <p>第 10 回 無形固定資産・営業費</p> <p>第 11 回 金融商品①：有価証券</p> <p>第 12 回 金融商品②：保有区分と株式配当金</p> <p>第 13 回 法人税・消費税</p> <p>第 14 回 税効果会計①：将来減産一時差異</p> <p>第 15 回 税効果会計②：その他有価証券、法定実効税率</p>																							
授業形態※	対面授業																							
評価方法※	<p>小テスト・課題 40%，期末試験 60%</p> <p>小テスト・課題については、講義内で全体に対してフィードバックする。</p>																							

評価基準	
テキスト	<p>最新版を用意してください。</p> <p>ネットスクール株式会社『税理士試験教科書 簿記論・財務諸表論 I 基礎導入編』ネットスクール ネットスクール株式会社『税理士試験問題集 簿記論・財務諸表論 I 基礎導入編』ネットスクール ネットスクール株式会社『税理士試験教科書 簿記論・財務諸表論 II 基礎完成編』ネットスクール ネットスクール株式会社『税理士試験問題集 簿記論・財務諸表論 II 基礎完成編』ネットスクール 別途、講義レジュメを配布します。</p>
注意事項	<p>① 日商 2 級の内容を学習済みであることを前提に講義を行います。</p> <p>② 財務会計論や商業簿記答練上級も履修することを強く勧めます。</p>
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学	学部・学科名※	経済学部 経済学科
科目名※	中級マクロ経済学	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度 前期	曜日・時限※	金曜・2 時限
キャンパス※		教室※	未決定
学修分野			
授業目的※	<p>マクロ経済学が注目する話題は、一国の景気が悪化したときにどのような手立てで経済を回復させるのかを学ぶ学問である。過去の歴史において、金融、政府債務、および、新型コロナなどから生じる経済危機がもたらす不況を、どのように対処するのか。この授業では、その対処のメカニズムを理解し、不況から回復するための解決策の糸口を提供する。</p> <p>なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に【（知識、技能）（思考力、判断力、表現力等）】に資する科目です。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・財市場と貨幣市場の相互作用から一国の所得水準と金利の決定を図解できる。 ・財政政策と金融政策が一国の経済的な豊かさに与える影響を説明できる。 ・為替レートには変動相場制と固定相場制があり、2 つの制度の経済的影響の違いを分析できる。 ・経済活動をする上で、人々の将来への予想が一国の経済状態に変化が生じることを解明できる。 		
授業内容	<p>第 1 回 イントロダクション (8・9 章) 第 2 回 ケインズの交差図(1) 均衡への調整 (9 章) 第 3 回 ケインズの交差図(2) 政府購入の増加と減税 (9 章) 第 4 回 ケインズの交差図(3) 利子率の導入と IS 曲線 (9 章) 第 5 回 流動性選好理論と LM 曲線 (9 章) 第 6 回 IS-LM モデル(1) 財政政策 (10 章) 第 7 回 IS-LM モデル(2) 金融政策 (10 章) 第 8 回 IS-LM モデルから総需要曲線の導出 (10 章) 第 9 回 負債デフレーション理論と流動性の罫 (10 章) 第 10 回 マンデル＝フレミング・モデル(1) 変動相場制 (11 章) 第 11 回 マンデル＝フレミング・モデル(2) 固定相場制 (11 章) 第 12 回 マンデル＝フレミング・モデル(3) 利子率格差 (11 章) 第 13 回 マンデル＝フレミング・モデル(4) 大国開放経済 (11 章) 第 14 回 総供給の基礎理論 (12 章) 第 15 回 インフレーション、失業とフィリップス曲線 (12 章)</p>		
授業形態※	対面授業		
評価方法※	<p>課題 30%、期末試験 70%。授業後半で、Forms による試験対策問題を課すので合計点を成績評価にプラス α 加味する。</p> <p>課題の回収後、模範解答を配布します。(授業の中で問題の意図やヒントなどの解説を行います。)</p>		
評価基準			

テキスト	N・グレゴリー・マンキュー著（足立・地主・中谷・柳川訳）『マンキューマクロ経済学Ⅰ入門編 第5版』東洋経済新報社，2024。
注意事項	<p>初めに、マクロ経済学全般を理解するために、本科目と合わせて初級マクロ経済学を履修することを強く勧める。（単に、短期のマクロ経済学から勉強するか、長期のマクロ経済学から勉強するか、の違いである。）</p> <p>授業は、教科書と講義資料を使って行うが、時折、板書を使うので、メモする用紙を準備しておく。また、グラフを描くことがあるので定規を持参することを勧める。</p> <p>関連科目：初級ミクロ経済学、中級マクロ経済学</p>
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学	学部・学科名※	経済学部 経済学科
科目名※	日本経済史Ⅱ	単位数※	2
開講年度学期※	2025年度 後期	曜日・時限※	月曜・3時限
キャンパス※		教室※	未決定
学修分野			
授業目的※	<p>近世から近現代にかけての日本経済史における多様な研究主題の解説を行います。近現代の社会・経済を特徴づける資本主義について、その特徴や構造を理解するとともに、資本主義社会に移行し、あるいは移行するなかで、「ごく普通の人びと」の暮らしにどのような変化があったのか、また発生した問題点について学びます。講義内容は「家族」や「教育」など、いずれも現代日本が直面する社会問題（たとえば「ヤングケアラー」、「子どもの貧困」など）に関連しています。講義を通して、経済史をたんに過去に発生した出来事＝他人事ととらえるのではなく、自分事として理解し、現代社会の諸問題について観察する知見が得られます。なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に【（思考力、判断力、表現力等）】に資する科目です。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な研究主題を学び、日本経済史における研究動向や議論を解説できる。 ・現代社会の諸問題について考察・解決策を見出す知見を身につけることができる。 		
授業内容	<p>(1)イントロダクション：暮らしの歴史を学ぶ意義 (2)家族・地域社会と経済活動① (3)家族・地域社会と経済活動② (4)災害と飢饉 (5)森林資源と土地所有① (6)森林資源と土地所有② (7)エネルギーと経済成長① (8)エネルギーと経済成長② (9)人口で測る経済力① (10)人口で測る経済力② (11)健康と医薬① (12)健康と医薬② (13)娯楽と消費 (14)教育と労働 (15)法と福祉</p>		
授業形態※	対面授業		
評価方法※	<ul style="list-style-type: none"> ・評価項目割合：期末テスト 100% ・全 15 回授業の 3 分の 2 に相当する 10 回分の出席が必須です。最低出席回数が満たされたうえで、期末テストの点数により成績評価を行います。 		
評価基準			
テキスト	中西聡編『経済社会の歴史 生活からの経済史入門』名古屋大学出版会，2017。		
注意事項	・講義中に、教員からの問いかけに自分なりの回答を発表する場面があります。主体的に講義に参加してください。		
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学	学部・学科名※	経済学部 経営学科
科目名※	中小企業論	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度 後期	曜日・時限※	火曜・2 時限
キャンパス※		教室※	未決定
学修分野			
授業目的※	<p>中小企業は、我が国 421 万企業のうち 99.7%を占め、従業者数・付加価値額（製造業）においてもそれぞれ 7 割、5 割以上を占めます（中小企業庁,2020）。中小企業は、日本経済を支える重要な役割を担っていると共に、雇用の創出・雇用の場の提供による地域経済活性化に貢献しており、個々の中小企業の発展が重要であることは容易に想像されるでしょう。</p> <p>そこで、本講義では国の経済構造や経済発展などの視点から中小企業を捉えるだけではなく、マネジメントの視点からも考えることを目的としています。</p> <p>講師は、経営コンサルタントとして中堅・中小企業およびベンチャー企業の経営改革支援を行っており（2004 年～現在）、中小企業診断士です。講師自身の起業経験も踏まえ、実務と学術の両面からの考察を行います。</p> <p>なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に【（知識、技能）】に資する科目です。</p>		
到達目標	<p>中小企業が日本経済・地域経済で果たしている役割と課題について理解することが出来る。 中小企業の特性について大企業と比較して述べる事が出来る。</p>		
授業内容	<p>第 1 回 中小企業の特長 本講義を学ぶ意義（1 章） 第 2 回 中小企業の歴史（2 章） 第 3 回 海外の中小企業（3 章） 第 4 回 中小企業問題と中小企業政策（4 章） 第 5 回 経営環境の変容と戦略マネジメント（5 章） 第 6 回 分業構造の変容と下請マネジメント（6 章） 第 7 回 企業間関係の変容とネットワークマネジメント（7 章） 第 8 回 これまでの講義を踏まえレポート提出およびプレゼンテーション 第 9 回 産業構造の変容と地域産業マネジメント（8 章） 第 10 回 世界市場の変容とグローバル・マネジメント（9 章） 第 11 回 人材難と組織・人材マネジメント（10 章） 第 12 回 後継者難と事業承継マネジメント（11 章） 第 13 回 研究開発力不足と製品開発マネジメント（12 章） 第 14 回 既存事業の衰退と事業開発マネジメント（13 章） 第 15 回 資金難と財務マネジメント、これからの中小企業の課題（14 章） ※（ ）は教科書の該当章 ※進行内容は必要に応じて変更されることがあります。 ※具体的な講義の進め方は、教科書や動画を参照した講義を行うと共に、教員からの問いに対して、まずは個人で考察した後で全体共有を行います。4～5 名のグループ内で議論する場合があります。</p>		
授業形態※	対面授業		

評価方法※	<p>日常の受講態度、発言内容 30%</p> <p>レポートおよびプレゼンテーションの完成度 30%</p> <p>期末試験 40%</p> <p>※授業時間内にプレゼンテーションに対するフィードバックを行う。</p>
評価基準	
テキスト	井上善海・木村弘・瀬戸正則編（2022）『中小企業経営入門 第2版』中央経済社
注意事項	<p>双方向授業を行うため、グループメンバーと建設的なディスカッションができること。ただし、コロナ感染対策等で会話を控える必要がある場合は、別手法を検討する。</p> <p>必要に応じて、レポートおよび課題を課す。</p>
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学	学部・学科名※	経済学部 経済学科
科目名※	国際金融論Ⅱ	単位数※	2
開講年度学期※	2025年度 後期	曜日・時限※	火曜・3時限
キャンパス※		教室※	未決定
学修分野			
授業目的※	国際金融とは国境を越えた資本（お金）の取引のことである。金融取引は、高度に国際化が進み資本が効率的に配分されるようになった一方、一国で起こった金融問題が世界中に波及するリスクを抱えるようになった。例えば 2008 年のリーマン・ブラザーズの破綻をきっかけに発生した世界金融危機や、その発端となったサブ・プライムローン住宅問題などである。国際金融論Ⅱではこのような問題を経済学的に分析するための知識を提供する。なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に【（思考力、判断力、表現力等）】に資する科目である。		
到達目標	国際的な金融取引の現状と問題を説明できること、そして国際金融論の知識をもとに、問題の解決策を自分なりに考え、論じることができるようになることを目標とする。		
授業内容	第1回 総需要の決定要因（1）：内需 第2回 総需要の決定要因（2）：外需 第3回 経常収支の考察 第4回 生産物市場の短期均衡 第5回 貨幣需要 第6回 貨幣供給 第7回 貨幣市場の均衡 第8回 生産物市場と資産市場の同時均衡：閉鎖経済のケース 第9回 IS・LM 分析：金融・財政政策の効果 第10回 マンデル＝フレミングモデル 第11回 変動相場制における金融財政政策の効果 第12回 固定相場制における金融財政政策の効果 第13回 通貨危機（1）：第1世代モデル 第14回 通貨危機（2）：第2世代モデル 第15回 通貨危機（3）：第3世代モデル		
授業形態※	対面授業		
評価方法※	課題の取り組み 20%，期末試験の成績 80%。毎回 Forms による課題を課すので全 15 回の合計点を 100 点に換算して成績評価に加味する。 課題については、授業内で全員に対するフィードバックを行う。		
評価基準			
テキスト	指定なし。		
注意事項	授業は板書を使って行うので、国際金融論Ⅱの専用ノートを用意すること。なお書くまでもないが、私語は厳禁である。		
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学	学部・学科名※	経済学部 経営学科
科目名※	経営管理論Ⅱ	単位数※	2
開講年度学期※	2025年度 後期	曜日・時限※	火曜・3時限
キャンパス※		教室※	未決定
学修分野			
授業目的※	<p>私たちの周りには、大企業のみならず、行政、病院、学校、NPO、中小企業など、様々な組織があります。そのため、現代社会において、組織に関わらず生きていくということは、ほぼ不可能だといえるかもしれません。そこで、この講義では、経営管理論Ⅰでの学びを深化させながら、そうした企業をはじめとする諸組織が、目的を達成するためにどのようなマネジメントを行っているのかについて学修していきます。併せて、半年間の講義を通じて、経営管理論の基礎知識のほか、研究のために文献を「読む」手法、プレゼンテーション技法、論理的な思考力などを身につけていただければと思います。</p> <p>なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に【（知識、技能）（思考力、判断力、表現力等）】に資する科目です。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経営管理論の基礎知識を修得することができる。 ・現代の組織が抱える経営管理上の諸課題に対して、自分の意見を述べることができる。 		
授業内容	<p>第1回 ガイダンス 第2回 経営管理論Ⅰの復習 第3回 マネジメントの誕生 第4回 マネジメントの基礎 第5回 官僚制とは？ 第6回 官僚制の逆機能 第7回 論文レビューの方法 第8回 組織デザインとは？ 第9回 組織設計の基礎 第10回 人材マネジメントとは？ 第11回 人材マネジメントの課題と展望 第12回 公共組織のマネジメント 第13回 論文レビューの報告 第14回 課題報告 第15回 経営管理の課題と展望（総評）</p> <p>・毎回の講義は、①前回の振り返り、②テーマに関する概説、③受講生同士のディスカッションやプレゼンテーション、④ミニレポートの記入・提出といった流れで行う予定です。ただし、受講者数によって、講義の形式や内容を変更する可能性があります。</p> <p>・また、受講生の皆さんには、研究のために多数の文献を「読む」手法（アカデミックスキルの一つ）を身につけていただくことを計画しています。後期後半にはその成果の報告会を行います。</p>		
授業形態※	対面授業		

評価方法※	<p>①ディスカッション・プレゼンテーション・報告の内容、毎回のミニレポートなど 40%</p> <p>②期末課題 60%</p> <p>※本講義では、授業時間外での負担もあり、受講生にとってハードな講義になりますので、履修にあたってはそうした点をよく考慮するようにしてください。</p> <p>※授業への積極的な参加が成績に直結することから、毎回出席して真剣に講義に参加できる方の履修を強く希望します。</p> <p>※ミニレポートなどは、授業内で全員に対してフィードバックを行います。</p>
評価基準	
テキスト	指定なし
注意事項	<p>・初回の授業で授業の進め方について説明する予定のため、履修希望者は必ず出席するようにしてください。</p> <p>・受講生には、講義内での質疑応答やディスカッションへの積極的な参加、プレゼンテーションの実技、多数の文献を「読む」こと、毎回のミニレポートの記入などが求められます（具体的な方法については講義内で説明します）。</p> <p>・以上のように受講生にとってはハードな講義になりますので、履修にあたっては、そうした点を十分考慮するようにしてください。授業への積極的な参加が成績に直結することから、毎回講義に参加できる方の履修を強く希望します。</p> <p>・全 15 回の講義に真剣に取り組むことで、受講生には、思考力・表現力・文章力などが身に付くものと考えています。また、「経営管理論 I」からの学びの継続性を重視しますので、同科目を履修してください。</p>
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学	学部・学科名※	経済学部 経営学科																					
科目名※	上級簿記Ⅱ	単位数※	2																					
開講年度学期※	2025年度 後期	曜日・時限※	水曜・4時限																					
キャンパス※		教室※	未決定																					
学修分野																								
授業目的※	<p>本講義では日商簿記2級レベルの簿記を学習した上で、上級レベル（簿記論・財務諸表）の簿記を習得することを目的としています。この講義では大企業を前提とした会計処理の実務能力を習得し、特に税理士試験（簿記論・財務諸表論）に関する個別財務諸表に関する個別財務諸表に関する論点を中心に扱います。</p> <p>なお、この科目は卒業認定・学位授与方針のうち、特に【(知識, 技能)】に資する科目です。本講義は会計コースの応用となる講義であり、税理士試験の合格を目指す学生は必ず履修してください。</p> <p>《参考》授業と資格試験の対応 ※令和6年度以前の入学者は（ ）の科目</p> <table border="0"> <tr> <td>資格</td> <td>授業科目</td> <td></td> </tr> <tr> <td>日商3級</td> <td>初級簿記Ⅰ・Ⅱ（商業簿記Ⅰ・Ⅱ）</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>簿記答練（簿記答練Ⅰ(集中)）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>日商2級</td> <td>中級簿記Ⅰ・Ⅱ（商業簿記Ⅲ・Ⅳ）</td> <td>工業簿記Ⅰ・Ⅱ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>簿記答練（簿記答練Ⅱ(集中)）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>日商1級</td> <td>上級簿記Ⅰ・Ⅱ（商業簿記Ⅴ）</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>（商業簿記答練上級）（工業簿記答練上級）</td> <td></td> </tr> </table>			資格	授業科目		日商3級	初級簿記Ⅰ・Ⅱ（商業簿記Ⅰ・Ⅱ）			簿記答練（簿記答練Ⅰ(集中)）		日商2級	中級簿記Ⅰ・Ⅱ（商業簿記Ⅲ・Ⅳ）	工業簿記Ⅰ・Ⅱ		簿記答練（簿記答練Ⅱ(集中)）		日商1級	上級簿記Ⅰ・Ⅱ（商業簿記Ⅴ）			（商業簿記答練上級）（工業簿記答練上級）	
資格	授業科目																							
日商3級	初級簿記Ⅰ・Ⅱ（商業簿記Ⅰ・Ⅱ）																							
	簿記答練（簿記答練Ⅰ(集中)）																							
日商2級	中級簿記Ⅰ・Ⅱ（商業簿記Ⅲ・Ⅳ）	工業簿記Ⅰ・Ⅱ																						
	簿記答練（簿記答練Ⅱ(集中)）																							
日商1級	上級簿記Ⅰ・Ⅱ（商業簿記Ⅴ）																							
	（商業簿記答練上級）（工業簿記答練上級）																							
到達目標	<p>上級簿記Ⅱでは、高度な商業簿記・会計学（税理士試験（簿記論・財務諸表論））の知識を習得し、大企業に特有の会計処理ができることを目標としている。特に個別財務諸表の作成を前提に学習する。</p>																							
授業内容	<p>第01回 ガイダンス・リース会計①：ファイナンスリース取引 第02回 リース取引②：セール・アンド・リースバック取引 第03回 減損会計 第04回 退職給付会計①：会計処理 第05回 退職給付会計②：差異の会計処理 第06回 退職給付会計③：前払年金費用 第07回 引当金・繰延資産 第08回 社債 第09回 純資産会計①：自己株式 第10回 純資産会計②：社債・新株予約権付社債 第11回 純資産会計③：ストックオプション 第12回 金融商品・デリバティブ 第13回 資産除去債務 第14回 収益認識 第15回 無形固定資産</p>																							
授業形態※	対面授業																							

評価方法※	小テスト・課題 40%, 期末試験 60% 小テストについては、講義内で全体に対してフィードバックする。
評価基準	
テキスト	最新版を用意してください。 ネットスクール株式会社『税理士試験教科書 簿記論・財務諸表論Ⅱ 基礎完成編』ネットスクール ネットスクール株式会社『税理士試験教科書 簿記論・財務諸表論Ⅲ 応用編』ネットスクール ネットスクール株式会社『税理士試験問題集 簿記論・財務諸表論Ⅱ 基礎完成編』ネットスクール ネットスクール株式会社『税理士試験問題集 簿記論・財務諸表論Ⅲ 応用編』ネットスクール 別途、講義レジュメを配布します。
注意事項	① 日商 2 級の内容を学習済みであることを前提に講義を行います。 ② 財務会計論や商業簿記答練上級も履修することを強く勧めます。
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名※	ビジネスライフ学科
科目名※	情報と社会		単位数※ 2
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	月曜・3 時限
キャンパス※	千葉経済大学短期大学部	教室※	302
学修分野	卒業認定・学位授与の方針中のベースアップステージに位置づけられます。(学修目標中の主として知識・技術・技能の育成に取り組んでいきます。)		
授業目的※	本講では、日常的に当たり前のように接している「情報」について、歴史的な背景も含め、社会との関係を中心に改めて考えてみます。情報の持っている様々な特性が人々の生活にどのような影響を与えているか、何を理解し、何に注意すべきかなど、公共図書館での実務経験をもとに、情報と社会の関係について多面的な把握を試みます。DIKW（データ・情報・知識・叡智）モデルやリテラシーなどのキーワードを軸に、短大で教育を受ける者として知っておくべき情報に関するマナー・身のこなしなどについても触れます。これらを通じて、情報が溢れる現代社会において、より豊かな生き方へのヒントを見つけ、成熟した社会人としての自覚を得る一助となればと考えます。		
到達目標	① 情報が人の行動に及ぼす影響について具体例を示すことができる ② 自分なりの情報との付き合い方を見定めることができる ③ 信頼性の高い情報を見分けることができる		
授業内容	第1回 ガイダンス：データ・情報・知識・叡智及び図書館 第2回 個人と情報に関する身近な事例 第3回 情報と媒体（メディア）：言語・文字・媒体の歴史概観 第4回 情報と報道：判断材料としての情報を提供するジャーナリズム 第5回 情報と統制：言論統制・検閲・焚書・流言飛語・フェイクニュース 第6回 情報の生産と知識の蓄積：学問・科学の概略史と研究不正 第7回 情報とICT：コンピュータの発達とコミュニケーションの変化 第8回 情報とリテラシー：言語・メディア・IT、それぞれのリテラシー 第9回 情報と図書館：地域における情報拠点としての図書館の役割 第10回 生活の中でニーズの高い情報：消費者・健康医療・法・ビジネス 第11回 文化の伝播と受容（情報としての文化の伝わり方の事例） 第12回 災害と情報（備え・災害発生時の情報ニーズ・災害の教訓） 第13回 情報と著作権（誰もかが情報の発信者・著作者になりうる時代） 第14回 情報リテラシー：必要な情報を、的確に探し、評価し、活用する能力 第15回 まとめ：社会の中の個人としての情報との付き合い方		
授業形態※	主にパワーポイントのスライドを用いた講義形式で行いますが、適宜、受講者の発言・意見発表を交えたり、視聴覚教材を利用したりすることもあります。毎回レジメを配布します。参考資料を追加する場合があります。		
評価方法※	修了レポート（70%）、授業への積極的参加（出席・発言・意見記入：30%）をカッコ内の比率で総合的に評価します。授業では、毎回簡単な意見記入の時間を設け、提出することを求めます。提出された意見記入の代表的なものいくつかを次回の授業時に取り上げ、コメントを付すことで、授業内容の理解を深めます。レポート作成については、基本的注意点等を授業の中で説明します。提出された修了レポートについては、採点時に気づいたポイント等をまとめ、最終回の授業時に解説します。		
評価基準			
テキスト	特になし。講義レジメを毎回配布します。関連する新聞・雑誌記事や論文・レポート類を配布する回もあります。		
注意事項			
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/Syllabus/SyllabusConfirm.asp?cdsl=1735&nendo=2025		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名※	ビジネスライフ学科
科目名※	観光ビジネス I	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	火曜・1 時限
キャンパス※	千葉経済大学短期大学部	教室※	402・404
学修分野	卒業認定・学位授与の方針中のキャリアアップステージに位置づけられます。(学修目標中の主として知識・技術・技能の育成に取り組んでいきます。)		
授業目的※	観光は旅行業、宿泊業をはじめとして運輸業、飲食業などいろいろな産業と関連して地域の雇用創出に役立っています。千葉県には全国トップの観光施設である東京ディズニーリゾートや国内外から多くの人が集う幕張メッセなどがあります。観光による地域活性化に取り組んでいる事例を見ながら観光の現状を学びます。オーバーツーリズムなど新たな課題も含めてインバウンド戦略なども考えます。 観光振興や国際会議の誘致などの担当教員の実務経験に基づいて、観光ビジネスの様々なネットワークによる事業展開の事例を紹介しますので、観光ビジネスの魅力を理解することができます。 観光ビジネスに従事しているゲストスピーカー（旅行業など）の講義も行う予定です。		
到達目標	①地域活性化事例から現状の観光ビジネスを理解する。 ②観光ビジネスの具体的なイメージを持ち、進路決定に役立てる。		
授業内容	以下の内容で進める予定です。 第1回 イントロダクション 第2回 千葉県観光の現状 第3回 日本の観光振興状況 第4回 グリーンブルーツーリズム 第5回 産業インフラの効果(1) 第6回 産業インフラの効果(2) 第7回 観光資源(1) 第8回 観光資源(2) 第9回 国際観光(インバウンドの効果)(1) 第10回 国際観光(インバウンドの効果)(2) 第11回 地域の活性化事例(1) 第12回 地域の活性化事例(2) 第13回 観光ビジネスで働くこと 第14回 ホスピタリティマインド 第15回 まとめ		
授業形態※	講義を中心として、PCによるスライド・資料提示を行います。		
評価方法※	テスト(40%)、レポート(40%)、授業への取り組み能動性(20%)を総合的に評価します。授業中に実施した小テストはその都度採点して返却するので、振り返りに利用してください。提出したレポートについては授業で説明し返却しますので、振り返りの参考にしてください。		
評価基準			
テキスト	指定なし。授業時に資料等を配布します。		
注意事項			
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/Syllabus/SyllabusConfirm.asp?cdsl=1915&nendo=2025		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名※	ビジネスライフ学科
科目名※	自然科学への招待 A		単位数※ 2
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	木曜・3 時限
キャンパス※	千葉経済大学短期大学部	教室※	301
学修分野	卒業認定・学位授与の方針中のベースステージに位置づけられます。(学修目標中の主として知識、理解、思考力、人間性、技術・技能、判断力の育成に取り組んでいきます。)		
授業目的※	<p>「物質・原子・原子核・素粒子・・・(ミクロの世界)」</p> <p>自然の世界は、大きさのスケールでいえば極微の素粒子から極大の宇宙まで広がり、時間のスケールでいえば宇宙の誕生からその死まで続いています。自然科学は、これら自然に存在するものすべてを対象とし、それらの構造や仕組み、変化の仕方を調べ、できるだけ簡単な法則でしかも統一的に理解しようとする学問です。</p> <p>広い意味の自然科学は、数学や理科(物理・化学・地学・生物など)に相当しますが、ここでは特に理科(物理・化学・地学)に関わる内容を扱います。“理科”という難しいというイメージを抱くかもしれませんが、授業では難しい数式や計算は使いません。スライドや動画を使って、できるだけわかりやすく概念を伝えるような説明を行うつもりです。</p> <p>「自然科学への招待 A」では、光や音、原子や原子核、放射線、素粒子といった「小さな(ミクロ)世界」に目を向けます。また毎月の星座や天文現象なども紹介します。</p>		
到達目標	<p>①インバウンドの取組み事例を研究することで、インバウンドの効果を理解する。</p> <p>②観光関連人材として必要なおもてなしマインドを高めることで、コミュニケーション能力の向上を図る。</p>		
授業内容	<p>以下の内容で進める予定です。 (履修者の状況により適宜変更する可能性もあります。)</p> <p>第 1 回 自然界のスケール 第 2 回 数値の表し方 第 3 回 単位 第 4 回 光と色 第 5 回 虹と青空 第 6 回 電磁波 第 7 回 音 第 8 回 運動・力・重力 第 9 回 物質と分子・原子 第 10 回 固体・液体・気体 第 11 回 元素の周期表 第 12 回 原子の構造 第 13 回 原子核 第 14 回 核分裂と核融合、放射線 第 15 回 素粒子</p>		
授業形態※	講義を中心として、PC によるスライド・資料提示を行います。		
評価方法※	授業への取り組みの能動性(30%)、期末試験(70%)により総合的に評価する予定です。毎授業時に記入してもらう質問票をもとに、次回の授業時に追加説明を行います。授業であいまいだった点の確認に役立ててください。		
評価基準			
テキスト	指定なし。 毎授業時に資料プリントを配布します。		
注意事項			
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/Syllabus/SyllabusConfirm.asp?cdsl=1520&nendo=2025		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名※	こども学科
科目名※	健康科学概論	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	木曜・4 時限 (βh) 3 時限 (αh)
キャンパス※	千葉経済大学短期大学部	教室※	201
学修分野	卒業認定・学位授与の方針中の基礎科目に位置づけられる。(学修目標中の主として知識、理解、思考力の育成に取り組んでいく。)		
授業目的※	より望ましいライフスタイルを獲得するための知識を学びます。 特に、青年期というライフステージに必要な健康に関する知識を学んでいきます。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・健康とは何か?どのような状態をさすのかを理解する。 ・食事、運動(含む外傷、予防)、睡眠等に関する正しい知識を獲得する。 ・健康なライフスタイルを獲得するための様々な知識を獲得する。 		
授業内容	<p>第1回 オリエンテーション、健康とは/ W.H.O.の世界保健憲章(前文)に見る「健康」</p> <p>第2回 「体育」の定義/「知育」「徳育」「体育」と三育主義。</p> <p>第3回 「体力」の定義/防衛体力と行動体力、体力の構成要素</p> <p>第4回 様々な指数(1)/ BMIによって何が評価できるのか。指数を算定・評価します</p> <p>第5回 様々な指数(2)/ カウプ指数、ローレル指数、ブリンクマン指数によって何が評価できるのか。指数・評価を算定します</p> <p>第6回 水分補給量/生活やスポーツ時に必要な水分量を算定します</p> <p>第7回 身体の構造と機能(1)/ 骨、関節、筋肉の構造と機能について学びます</p> <p>第8回 身体の構造と機能(2)/ 神経系の働き、乳幼児期における神経系の発達について学びます。呼吸器の働きについて学びます</p> <p>第9回 運動(スポーツ) 外傷(1)/運動(スポーツ) 時の外傷における救急処置について学びます</p> <p>第10回 運動(スポーツ) 外傷(2)/運動(スポーツ) 時の外傷における救急処置について学びます</p> <p>第11回 感染症/感染症の種類、感染経路、感染症予防の手段について学びます</p> <p>第12回 健康な生活設計/薬物、アルコール、たばこ健康について学びます</p> <p>第13回 ストレスと健康/ストレスの身体への反応、運動とストレスの関係について学びます</p> <p>第14回 小テスト/これまで学んだ内容を小テストで確認します</p> <p>第15回 まとめ/授業のまとめと振り返りを行います</p>		
授業形態※	※この科目は「教養科目」のため、皆さんの興味関心の高い分野についても柔軟に取り入れたいと考えています。そのため初回のオリエンテーションでアンケートを取り、一部内容を変更する可能性があります。		
評価方法※	小テスト(50%)、提出物・課題(30%)、授業への取り組み(20%) ※提出された提出物・課題・小テストは、授業内で返却します。なお、コメントカードなどで頂いた質問は、次回の授業冒頭で紹介、返答いたします。		
評価基準			
テキスト	指定なし		
注意事項			
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/Syllabus/SyllabusConfirm.asp?cdsl=3200&nendo=2025		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名※	ビジネスライフ学科
科目名※	映画で学ぶ英語表現		単位数※ 1
開講年度学期※	2025 年度後期	曜日・時限※	月曜・2 時限
キャンパス※	千葉経済大学短期大学部	教室※	201
学修分野	卒業認定・学位授与の方針中のベースステージに位置づけられています。(学修目標中の主として知識、理解、思考力、人間性、技術・技能、判断力の育成に取り組んでいきます。)		
授業目的※	映画を通じて日常的な英語の表現を習得し、リスニング能力の向上を目指します。英語の母国語話者が用いる「英語」と今まで学校で学んできた知識との接点を確認していきます。		
到達目標	①映画を理解するために必要な語句・構文に慣れること。 ②リスニングを通じて英語の音声に慣れること。		
授業内容	第 1 回 授業の進め方についてガイダンス 第 2 回 SOUND OF MUSIC その 1 第 3 回 SOUND OF MUSIC その 2 第 4 回 SOUND OF MUSIC その 3 第 5 回 SOUND OF MUSIC その 4 第 6 回 ROMAN HOLIDAYS その 1 第 7 回 ROMAN HOLIDAYS その 2 第 8 回 ROMAN HOLIDAYS その 3 第 9 回 ROMAN HOLIDAYS その 4 第 10 回 TITANIC その 1 第 11 回 TITANIC その 2 第 12 回 TITANIC その 3 第 13 回 TITANIC その 4 第 14 回 発音とイントネーション 第 15 回 まとめ		
授業形態※	講義を中心として、PC によるスライド・映像資料提示を行います。		
評価方法※	筆記テスト(50%)、授業への積極的な取り組み(50%)を考慮して評価します。 なお、筆記テストの結果はコメントと共に返却します。		
評価基準			
テキスト	指定なし 授業中に映画のスク립トを配布します。なお、教材として鑑賞する映画のタイトルは「サウンドオブミュージック」(20 世紀フォックス、1965 年)、「ローマの休日」(パラマウント映画、1953 年)、および「タイタニック」(20 世紀フォックス、パラマウント映画、1997 年)などを予定しています。		
注意事項			
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/Syllabus/SyllabusConfirm.asp?cdsl=1590&nendo=2025		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名※	ビジネスライフ学科
科目名※	ホスピタリティサービス	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度後期	曜日・時限※	月曜・4 時限
キャンパス※	千葉経済大学短期大学部	教室※	204
学修分野	卒業認定・学位授与の方針中のキャリアアップステージに位置付けられます。（学修目標中の主として知識、技術・技能の育成に取り組んでいく。）		
授業目的※	<p>サービス産業が拡大する中で、顧客満足度により企業業績を上げることができるホスピタリティビジネスの重要性が高まっています。ホスピタリティの基本スキルを磨き、ホスピタリティマインドを高めることを学びます。</p> <p>インバウンド効果を高める日本の「おもてなし」の推進をいろいろな関係者が取り組んでいます。「サービス」と「ホスピタリティ」の違いはどこにあるのか考えましょう。</p> <p>観光振興や国際会議誘致などの担当教員の実務経験を活かして、ホスピタリティマネジメントの事例を紹介しますので、その効果についての理解が深まります。</p> <p>サービス産業従事者（ホテル関係者など）からのホスピタリティマインド実践についての講義を聞くことも予定しています。</p>		
到達目標	<p>①ホスピタリティが何かを理解する。</p> <p>②基本マナーの習得を目指す。</p> <p>③ホスピタリティマインドを高める。</p> <p>④サービス接客検定 2 級の取得を目指す。（2 月受験）</p>		
授業内容	<p>以下の内容で進める予定です。必要に応じて実習を行います。</p> <p>第 1 回 インTRODクシヨン</p> <p>第 2 回 なぜ、ホスピタリティなのか</p> <p>第 3 回 ホスピタリティ・マネジメント（1）</p> <p>第 4 回 ホスピタリティ・マネジメント（2）</p> <p>第 5 回 ホスピタリティマインド（1）（ゲストスピーカー）</p> <p>第 6 回 ホスピタリティ実践の基本</p> <p>第 7 回 基本マナー（1）</p> <p>第 8 回 基本マナー（2）</p> <p>第 9 回 ホスピタリティマインド（2）（ゲストスピーカー）</p> <p>第 10 回 気配り（1）</p> <p>第 11 回 気配り（2）</p> <p>第 12 回 心配り</p> <p>第 13 回 ケーススタディ（1）</p> <p>第 14 回 ケーススタディ（2）</p> <p>第 15 回 まとめ</p> <p>*ゲストスピーカーによる講義は日程変更になることがあります。</p>		
授業形態※	講義を中心として、PC によるスライド・資料提示を行います。		
評価方法※	レポート（40%）、テスト（40%）、授業への能動性（20%）を総合的に評価します。提出したレポートについては授業で説明し返却しますので、振り返りの参考にしてください。		
評価基準			
テキスト	授業時に資料などを配布します。		
注意事項	ホスピタリティマインドを持って、臨機応変に対応できる力を高めるよう積極的に取り組んでください。		
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/Syllabus/SyllabusConfirm.asp?cdsl=1910&nendo=2025		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名※	ビジネスライフ学科
科目名※	観光ビジネスⅡ	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度後期	曜日・時限※	火曜・1 時限
キャンパス※	千葉経済大学短期大学部	教室※	402・404
学修分野	卒業認定・学位授与の方針中のキャリアアップステージに位置づけられます。(学修目標中の主として知識、技術・技能の育成に取り組んでいきます。)		
授業目的※	<p>観光ビジネスⅠで学んだ観光ビジネスの理解を踏まえて、観光ビジネス関連の人材として必要なコミュニケーション能力やおもてなしマインドなどを学び、観光ビジネスだけでなく社会人として役に立つ人間力を高めることを目指します。</p> <p>担当教員が観光振興や国際会議の誘致などの実務経験に基づいて、インバウンドの事例紹介を行いますので、観光ビジネスにかかわる人材として求められるスキルなどの理解が深まります。</p> <p>訪日外国人客から評判の良い老舗料亭の女将による「おもてなし英会話」など、観光ビジネスに従事しているゲストスピーカーの講義も行う予定です。</p>		
到達目標	<p>①インバウンドの取組み事例を研究することで、インバウンドの効果を理解する。</p> <p>②観光関連人材として必要なおもてなしマインドを高めることで、コミュニケーション能力の向上を図る。</p>		
授業内容	<p>以下の内容で進める予定です。</p> <p>第1回 インバウンド研究(1)</p> <p>第2回 インバウンド研究(2)</p> <p>第3回 日帰り旅行企画(1)</p> <p>第4回 日帰り旅行企画(2)</p> <p>第5回 日帰り旅行企画(3)</p> <p>第6回 おもてなし英会話(1)</p> <p>第7回 おもてなし英会話(2)</p> <p>第8回 おもてなし英会話(3)</p> <p>第9回 おもてなし英会話(4)</p> <p>第10回 おもてなし英会話(5)</p> <p>第11回 文化と観光(1)</p> <p>第12回 文化と観光(2)</p> <p>第13回 文化と観光(3)</p> <p>第14回 文化と観光(4)</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>*ゲストスピーカーによる講義は日程変更になることもあります。</p>		
授業形態※	講義を中心として、PCによるスライド・資料提示を行います。		
評価方法※	レポート(40%)、実習(30%)、授業への取組み能動性(30%)を総合的に評価します。授業中に実施した小テストはその都度採点して返却するので、振り返りに利用してください。提出したレポートについては授業で説明しますので、振り返りの参考にしてください。		
評価基準			
テキスト	指定なし。必要に応じて資料等を配布します。		
注意事項	観光ビジネスⅠを履修していること。 「ホスピタリティサービス」を受講することが望ましい。		
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/Syllabus/SyllabusConfirm.asp?cdsl=1916&nendo=2025		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名※	こども学科
科目名※	文学	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度後期	曜日・時限※	木曜・4 時限
キャンパス※	千葉経済大学短期大学部	教室※	201
学修分野	卒業認定・学位授与の方針中の一般教養科目に位置づけられている。(学修目標中の主として知識、理解、思考力の育成に取り組んでいく。)		
授業目的※	<p>本科目では「浦島太郎」や「一寸法師」といった昔話としてもなじみ深い 2 作品を取り上げる。これらについて、室町期に成立した「御伽草子」版で読み進めていく。</p> <p>作品の講読を行う中で、それぞれの作品の特徴や背景にある事柄等についても様々な側面から検討していく。さらに、現代において流布している絵本や昔話等の児童書についても取り上げ、「御伽草子」版との比較作業を通じ、それぞれの特徴を検討していく作業も行う。</p> <p>また、保育者や教員をはじめ社会人・職業人として必要となる他者の立場から物事を考える姿勢を身につけるために、自己の物事のとらえ方が自己中心的なものになりがちであるということへの気づきも作品読解の過程において促したい。</p>		
到達目標	<p>①御伽草子について理解し、説明することができる。</p> <p>②時代背景、作者、構造、形式、内容、享受等の各点から作品の概要や周辺事項について理解し、説明することができる。</p> <p>③多様な視点から物事をとらえ、考察し、それを表現することができる。</p>		
授業内容	<p>第 1 回 オリエンテーション、イントロダクション</p> <p>第 2 回 御伽草子概説</p> <p>第 3 回 昔話や話型について</p> <p>第 4 回 「浦島太郎」を読む①</p> <p>第 5 回 「浦島太郎」を読む②</p> <p>第 6 回 「浦島太郎」を読む③</p> <p>第 7 回 「浦島太郎」を読む④</p> <p>第 8 回 「浦島太郎」を読む⑤</p> <p>第 9 回 現代の「浦島太郎」作品との比較</p> <p>第 10 回 「一寸法師」を読む①</p> <p>第 11 回 「一寸法師」を読む②</p> <p>第 12 回 「一寸法師」を読む③</p> <p>第 13 回 「一寸法師」を読む④</p> <p>第 14 回 現代の「一寸法師」作品との比較</p> <p>第 15 回 総括</p>		
授業形態※	講義を中心として、PC によるスライド・資料提示を行います。		
評価方法※	<p>授業内レポート（45%）と期末レポート（50%）を主たる評価材料とする。加えて、自主的な課題提出（自由レポート等／5%）も認める。それぞれの成績算出基準（前掲の到達目標を参照のこと）に対する配点は以下のとおり。</p> <p>■ 授業内レポート（45 点）：到達目標①②③にかかわる内容</p> <p>■ 期末レポート（50 点）：到達目標①②③にかかわる内容</p> <p>■ 自主課題（5 点）：到達目標①②③にかかわる内容</p> <p>授業内レポートについては、次の授業回でその記載内容に基づいた補足解説等を行うので、それらをもとにより深い理解に繋げてほしい。</p> <p>また、期末レポートについては最終回の授業にて取り上げて解説し、フィードバックを行う。</p>		

評価基準	
テキスト	指定なし。授業時に配付するプリントを用いる。
注意事項	作品の概要がおさえられていると、より理解が深まると考えられるので、 なお、プリントについては古語による本文のみならず、現代語訳も作成して付したものを用意する。各自の学習歴や知識に応じて適宜現代語訳を援用しながら読めばよい。授業においても、この点には配慮する。
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/Syllabus/SyllabusConfirm.asp?cdsl=3000&nendo=2025

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名※	ビジネスライフ学科
科目名※	自然科学への招待 B	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度後期	曜日・時限※	木曜・3 時限
キャンパス※	千葉経済大学短期大学部	教室※	201
学修分野	卒業認定・学位授与の方針中のベースステージに位置づけられます。(学修目標中の主として知識、理解、思考力、人間性、技術・技能、判断力の育成に取り組んでいきます。)		
授業目的※	<p>「地球・太陽系・星・銀河・宇宙・・・(マクロの世界)」</p> <p>前期の「自然科学への招待 A」に引き続き、理科(物理・化学・地学)的な眼で自然界を見ます。「自然科学への招待 B」では、地球・月・太陽系・星・銀河・宇宙といった「大きな(マクロ)世界」に目を向けていきます。スライドや動画を使って、できるだけわかりやすく概念を伝えるような説明を行うつもりです。また毎月の星座や天文現象なども紹介します。</p> <p>マクロな世界について理解するには、ミクロな世界の知識が必要です。この科目を履修するために「自然科学への招待 A」の履修を前提とはしませんが、できれば履修しておくことより理解が深まるでしょう。</p>		
到達目標	<p>① 社会人として知っておくべき理科の知識と教養を身につける。</p> <p>② 身近なものごと・現象の理学的理解ができるようになる。</p> <p>③ 公務員試験「自然科学」分野の準備となる。</p>		
授業内容	<p>以下の内容で進める予定です。</p> <p>(履修者の状況により適宜変更する可能性もあります。)</p> <p>第 1 回 自然界のスケール 第 2 回 いろいろな星 第 3 回 太陽系の動き 第 4 回 星座 第 5 回 地球の形と運動 第 6 回 地球の内部 第 7 回 プレートテクトニクス 第 8 回 月 第 9 回 太陽系(1) 第 10 回 太陽系(2) 第 11 回 太陽系(3) 第 12 回 太陽 第 13 回 銀河系 第 14 回 星の一生と元素の生成 第 15 回 宇宙の大規模構造と歴史</p>		
授業形態※	講義を中心として、PC によるスライド・資料提示を行います。		
評価方法※	授業への取り組みの能動性(30%)、期末試験(70%)により総合的に評価する予定です。毎授業時に記入してもらった質問票をもとに、次回の授業時に追加説明を行います。授業であいまいだった点の確認に役立ててください。		
評価基準			
テキスト	指定なし。 毎授業時に資料プリントを配布します。		
注意事項			
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/Syllabus/SyllabusConfirm.asp?cdsl=1530&nendo=2025		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名※	こども学科
科目名※	歴史への旅	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度後期	曜日・時限※	木曜・4 時限
キャンパス※	千葉経済大学短期大学部	教室※	303
学修分野	卒業認定・学位授与の方針中の一般教養科目に位置づけられる。(学修目標中の主として知識、理解、思考力の育成に取り組んでいく。)		
授業目的※	歴史とは先を生きた人たちの痕跡です。それぞれの時代の人々は、どう生きてどう考えて、なにを生み出してきたのでしょうか。歴史のなかには、為政者の試行錯誤があり、権力者の欲望や嫉妬があり、民衆の苦難や生活や知恵があり、諸外国との関係があります。制度や法律、優れた知恵や技、時代ごとの美意識や表現、時代を動かす大きな流れもあります。私たちはそこから学び、いまに活かすことができます。本講は「暗記する歴史の授業」ではなく「歴史を手がかりに考える授業」を目指します。原始から近代まで、日本の歴史を大きく概観し、各時代の特徴をおさえながら、教育や子どもを含むいくつかの出来事・人・テーマをていねいに掘り下げて、ともに考えていきます。		
到達目標	歴史の面白さや大切さを知る。異なる時空間に生きた人々に出会い、理解し、考えるための方法を学ぶ。基礎的な知識を身につけて歴史から学び、歴史的に考えるための基盤を作る。歴史をいまに活かす視点、自分なりに考えていくための問いを育む。		
授業内容	<p>第1回 イン트로ダクション — 旅の始まり</p> <p>第2回 人類の誕生と移動 — 日本人はどこから来たのか</p> <p>第3回 原始を生きた人々 — 縄文・弥生時代から考える</p> <p>第4回 言葉と共に生きる — 文字の伝来・言霊思想・万葉仮名</p> <p>第5回 国をつくる① — リーダー・資源・大陸文化の受容</p> <p>第6回 国をつくる② — 仏教・中央集権・律令体制</p> <p>第7回 不安な平安貴族たち — 遷都・仏教・もののけ</p> <p>第8回 庶民を支えた鎌倉新仏教 — 武士と戦乱の時代</p> <p>第9回 戦国の世 — 新しい秩序とリーダー</p> <p>第10回 戦国の美意識と服装の歴史 — なぜ人は服装にこだわるのか</p> <p>第11回 江戸の国づくり人づくり① — 徳川家康と近世封建体制</p> <p>第12回 江戸の国づくり人づくり② — 参勤交代と判じ絵</p> <p>第13回 近代国家をつくる — 明治期の教育制度・翻訳・標準語</p> <p>第14回 戦争・メディア・悪 — 2度の世界大戦と「私」</p> <p>第15回 旅の終わり、旅の始まり — 史に埋もれ歴に生きた人々の横顔</p>		
授業形態※	講義を中心として、PCによるスライド・資料提示を行います。		
評価方法※	平常点(受講態度、授業への積極的参加度、リアクションペーパーなど)50%、期末レポート50%を標準として、総合的に判断します。リアクションペーパーは次回授業においてフィードバックを行います。		
評価基準			
テキスト	指定なし		
注意事項			
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/Syllabus/SyllabusConfirm.asp?cdsl=3020&nendo=2025		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛大学	学部・学科名※	経済、国際、情報学部
科目名※	数学 I	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	月曜・2 限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野			
授業目的※	線形代数に登場する様々な概念を理解し計算できるようになる。		
到達目標	連立 1 次方程式、平面の直線などを「行列」と「ベクトル」で表して計算できるようになる。		
授業内容	連立一次方程式の復習、連立一次方程式と行列・ベクトル、連立一次方程式と行列式、連立一次方程式とクラメル公式と逆行列、平面のベクトル、方向ベクトルと直線の式、内積と平行四辺形の面積、法線ベクトルと直線の式、点と直線の距離、平面のベクトルの一次変換、固有値と固有ベクトル、対角化、二次形式		
授業形態※	授業は前半に講義し、後半に演習を行う。演習は moodle で実施する。 双方向型演習		
評価方法※	演習 50% (小テスト 3% × 10 回, 演習 6.7% × 3 回) 試験 50% (中間試験 25%, 期末試験 25%) 中間試験と期末試験を未受験の場合は評価対象としない。		
評価基準	秀 (S) : 得点が 90%以上 優 (A) : 得点が 80%以上 90%未満 良 (B) : 得点が 70%以上 80%未満 可 (C) : 得点が 60%以上 70%未満 不可 : 得点が 60%未満		
テキスト	テキストは授業内で指示します。 (数学 I・II, 統計学 I・II のテキストは共通)		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛大学	学部・学科名※	経済、国際、情報学部
科目名※	統計学 I	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	水曜・3 限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野			
授業目的※	データの要約の実用性の高い知識を効率よく学習する。		
到達目標	記述統計の様々なアイデアを人に説明できるようになる。		
授業内容	データの種類、データの中心の特性値、データのバラツキ、変動係数、標準化、正規化、度数分布表とヒストグラム、ローレンツ曲線、共分散と相関係数、見せかけの相関と偏相関係数、回帰分析、リスク比、オッズ比		
授業形態※	授業は前半に講義し、後半に演習を行う。演習は moodle で実施する。 双方向型演習		
評価方法※	演習 50% (小テスト 3%×10回, 演習 6.7%×3回) 試験 50% (中間試験 25%, 期末試験 25%) 中間試験と期末試験を未受験の場合は評価対象としない。		
評価基準	秀 (S) : 得点が 90%以上 優 (A) : 得点が 80%以上 90%未満 良 (B) : 得点が 70%以上 80%未満 可 (C) : 得点が 60%以上 70%未満 不可 : 得点が 60%未満		
テキスト	テキストは授業内で指示します。 (数学 I・II, 統計学 I・II のテキストは共通)		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛大学	学部・学科名※	経済・国際・教育・情報学部
科目名※	地域ボランティア活動	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	水曜・2 限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野			
授業目的※	ボランティア活動や社会貢献についての基礎的知識・原理原則並びに地域ボランティア活動の種類・活動方法を学び、一人ひとりの学生が、自己にあった地域ボランティア活動を見つけだし、社会人・企業人としての心構えを学ぶ事を目的とする。(DP、CP)		
到達目標	ボランティア活動の基礎知識を講義により習得します。		
授業内容	ボランティアとは、ボランティア活動の理念、ボランティア活動の歴史、ボランティア活動の法と制度、ボランティア関係機関、ボランティア活動の担い手、地域社会とボランティア活動、社会福祉施設とボランティア活動、スポーツボランティア、災害支援とボランティア活動、企業の地域貢献とボランティア、国際ボランティア活動、ボランティアコーディネート、ボランティア活動の新しい形、これからのボランティア活動		
授業形態※	授業は、「対面授業」と「オンライン授業(オンデマンド型)」を併用して行います。 スケジュールについては、ウイルス等の感染状況をみながら、クラスプロファイルを通じて学生に知らせます。毎回、各講義ごとの理解度・到達度を確認するために KCN（学生ポータルサイト）を使っての小テスト・課題を実施し、KCN を通じて評価フィードバックを行います。 振り返りシート Refiection Sheet		
評価方法※	各講義での小テスト・課題で 50%、期末試験 50%で評価。		
評価基準	秀（S）：授業のねらいを越えて、積極的なボランティア活動への参加が認められ、その成果を課題提出で十分に伝えられている。 優（A）：授業のねらいどおり、ボランティア活動への参加が認められ、その成果を課題提出で十分に伝えられている。 良（B）：授業のねらいどおり、ボランティア活動の概要を正しく説明できる。 可（C）：ボランティア活動の概要を概ね説明できる。 不可：ボランティア活動の概要を説明できない。		
テキスト	『初めて学ぶ地域ボランティア活動』（KT 福祉研究所出版部） ISBN978-4-9910261-3-3 （参考文献）小倉常明著『ボランティア論 第二版』（KT 福祉研究所出版部） ISBN978-4-9910261-7-1		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛大学	学部・学科名※	経済、国際、情報学部
科目名※	日本語学	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	金曜・1 限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野			
授業目的※	日本語社会におけるコミュニケーションに特徴的に見られる現象を取り上げ、言語と社会の関わりを理解します。日本語教師として必要な知識を単に詰め込むのではなく、自分が使用している日本語を客観的に観察し、練習問題にも取り組みます。そして、ことばに関わる文化的背景についても理解を深めることで、受講者一人一人が、今後、世界のさまざまな言語、多様な文化を見つめるための土台を培っていきます		
到達目標			
授業内容	日本語社会における言語行動、日本語のコミュニケーション		
授業形態※	対面授業とオンデマンド型授業の混合型で実施します（。副専攻日本語教員養成課程の必修科目ですので、受講者は日本語教育やコミュニケーションに関心のあることが前提です。教科書とワークシートを使用し、「知っていること」「習ったこと」を活かしながら、段階的に積み上げて理解していきます。毎回、講義後には小テストで確認を行い、学んだ内容を確実に身につけていきます。		
評価方法※	授業への取り組み（発言、受講態度、提出物、小テスト）で 60%、確認試験 40%の割合で評価します。		
評価基準	秀（S）：得点が 90%以上 優（A）：得点が 80%以上 90%未満 良（B）：得点が 70%以上 80%未満 可（C）：得点が 60%以上 70%未満 不可：得点が 60%未満		
テキスト	毎週、ワークシート形式の授業資料を配布します。		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛大学	学部・学科名※	経済、国際、教育・情報学部
科目名※	憲法	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	金曜・2 限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野			
授業目的※	憲法の保障する原理や思想を近代憲法発展の歴史のなかで捉え、また、問題点などについて諸外国との比較や判例・学説を素材として平易に具体的に理解していくこと。		
到達目標	憲法の原理や考え方を正しく理解し説明できること。		
授業内容 授業形態※	<p>憲法の内容、日本国憲法の成立過程、憲法の制定・改正および変遷、憲法改正と限界、憲法の基本原理、国民主権主義、基本的人権、平和主義、統治機構・地方自治</p> <p>毎回の授業では前回学習した基礎事項・重要事項・ポイントの確認等によって学習へのフィードバックをおこない、次の授業項目へと進めていきます。</p> <p>授業内容に応じてデユベートやディスカッションを行い、それぞれのテーマを学生一人一人がフィードバックし授業への参加意欲を高めます。</p>		
評価方法※	平常点（授業内に適示おこなうアクションペーパーや任意課題レポート）20%、確認試験 80%で評価します。		
評価基準	<p>秀（S）：授業のねらいを越えて憲法的思考を深めるレベルに達している。</p> <p>優（A）：授業のねらいがほぼ達成できており、憲法的思考もできるレベルにある。</p> <p>良（B）：授業のねらい・内容が到達目標に 達成し、概要を正しく 説明できる。</p> <p>可（C）：授業のねらい・内容が到達目標に 達成している。</p> <p>不可：授業のねらい・内容が達成されておらず概要を説明できない。</p>		
テキスト	斎藤静敬・覚正豊和 共著『法学・憲法要説 』八千代出版(ISBN978-4-8429-1722-1)		
注意事項			
授業シラバス	<p>本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。</p> <p>https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/</p> <p>トップ画面の「シラバス照会」から検索する。</p>		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛大学	学部・学科名※	経済、国際、教育学部
科目名※	法学	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	金曜・3 限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野			
授業目的※	社会生活に必然する法を理解するために必要な基本原理・原則・基礎理論、用語の学習を通して法律学（法学）への導入とし、次に社会生活における法的思考方法、法律的なものの考え方（legal mind）を具体的事例、判例などによって理解することを目的とします（CP2.3・DP2.3）。		
到達目標	今日、とくとく流れる国際社会のなかで言語習慣、考え方の相違する人達が共存していくために必要不可欠な学習である「法学」を理解し日々の生活にいかせること。		
授業内容	法の概念、法と法則、法と道徳、法の構造、法の目的、法源論、成文法、不文法、法の分類、法の適用と解釈、法の実質的効力、法の形式的効力、権利と義務		
授業形態※	毎回の授業では前回学習した基礎事項・重要事項・ポイントの確認等によって学習へのフィードバックをおこない、次の授業項目へと進めていきます。		
評価方法※	平常点（授業内に適示おこなうアクションペーパーや任意課題レポート）20%、確認試験 80%で評価します。		
評価基準	秀（S）：授業のねらい・内容を正しく理解しリーガル・マインドができるようになり、社会生活において適用できるようになる。 優（A）：授業のねらいがほぼ達成できており、法的思考もできるレベルにある。 良（B）：授業のねらい・内容が到達目標に 達成し、概要を正しく 説明できる。 可（C）：授業のねらい・内容が到達目標に 達成している。 不可：授業のねらい・内容が達成されておらず概要を説明できない。		
テキスト	斎藤静敬・覚正豊和 共著『法学・憲法要説』八千代出版(ISBN978-4-8429-1722-1) (参考文献)『六法』(岩波) (三省堂) (有斐閣) などを持参するとよいでしょう。		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛大学	学部・学科名※	経済、国際、情報学部
科目名※	数学Ⅱ	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度後期	曜日・時限※	月曜・2 限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野			
授業目的※	経済学を習得するために必要な「関数」と「微分」の知識を身につける。		
到達目標	「関数」の定義と「微分」の意味を人に説明できるようになり、さらに、それらを経済学へ応用できるようになる。		
授業内容	るい乗関数、多項式、逆数、ルート、微分、接線の式、最適化、二変数関数とその微分、接平面と最適化、不定積分、定積分、対数関数、指数関数、三角関数、微分と積分の公式		
授業形態※	授業は前半に講義し、後半に演習を行う。演習は moodle で実施する。 双方向型演習		
評価方法※	演習 50% 試験 50% 試験を未受験の場合は評価対象としない。		
評価基準	秀 (S) : 得点が 90%以上 優 (A) : 得点が 80%以上 90%未満 良 (B) : 得点が 70%以上 80%未満 可 (C) : 得点が 60%以上 70%未満 不可 : 得点が 60%未満		
テキスト	テキストは授業内で指示します。 (数学Ⅰ・Ⅱ、統計学Ⅰ・Ⅱのテキストは共通)		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛大学	学部・学科名※	経済、国際、情報学部
科目名※	統計学Ⅱ	単位数※	2
開講年度学期※	2025年度後期	曜日・時限※	水曜・3限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野			
授業目的※	推測統計に必要な確率の基本、推定、検定を理解する。		
到達目標	点推定と区間推定ができる、検定ができる。		
授業内容	平均と分散の点推定、区間推定の考え方と平均の区間推定、分散と比率の区間推定、検定の考え方と平均の検定、分散の検定、比率の検定、対応のあるt検定、対応のないt検定、比率の差の検定、分散の比の検定、適合度検定、独立性の検定、無相関の検定、回帰係数の検定、一元配置分散分析、確率論を使った区間推定と仮説検定の理論		
授業形態※	授業は前半に講義し、後半に演習を行う。演習は moodle で実施する。 双方向型演習		
評価方法※	演習 50% (小テスト 3%×11回, 演習 8.5%×2回) 試験 50% 試験を未受験の場合は評価対象としない。		
評価基準	秀 (S) : 得点が 90%以上 優 (A) : 得点が 80%以上 90%未満 良 (B) : 得点が 70%以上 80%未満 可 (C) : 得点が 60%以上 70%未満 不可 : 得点が 60%未満		
テキスト	テキストは授業内で指示します。 (数学Ⅰ・Ⅱ, 統計学Ⅰ・Ⅱのテキストは共通)		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛大学	学部・学科名※	経済、国際、情報学部
科目名※	言語学	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度後期	曜日・時限※	金曜・1 限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野			
授業目的※	この授業では、言語学の基礎を学ぶ。身近に観察できるさまざまなことばの事象を取り上げ、それを理解するための枠組みを分かりやすく紹介することによって、言語学という研究領域における見方や考え方を知り、理解することを目標とする。語学は、高校までの学校教育で学ぶ国語とは大きく異なる。人間がもつ言語というものの普遍的な性質や特徴を知ること、自分の母語とこれまでに学んだ外国語、さらに未知の言語の間にも共通性があることに気づき、新たな関心を持ったり理解が深まったりすることにつながる。言語学の下位領域（各論）における方法に触れることによって、ものごとのとらえ方（観察、分析、分類、考察など）についても学ぶ。授業で扱う事象は日本語を中心とし、世界の中の一言語としての日本語、国語としての日本語という見方でとらえることを目指す。		
到達目標			
授業内容	言語学の概要、歴史言語学・比較言語学、言語の特徴、音韻論、形態論、統語論、語彙論・意味論、語用論、文字論、応用言語学		
授業形態※	対面での実施を基本とするが、状況によってオンデマンド授業を併用する場合もあり得る。ことばやコミュニケーションに関心のある人の受講を歓迎する。授業では、色々な事例をもとに、皆さん自身が観察したり、考えたりする時間が多くある。また、その結果を発言したり、他の例を出してもらうこともある。このような授業の進め方に協力できることが履修条件となる。毎回、授業の後に小テストを実施するので、忘れずに受けること。		
評価方法※	授業態度（発言やコミュニケーション、提出物など）30%、小テスト 40%、確認テスト 30%によって評価する。		
評価基準	秀（S）：得点が 90%以上 優（A）：得点が 80%以上 90%未満 良（B）：得点が 70%以上 80%未満 可（C）：得点が 60%以上 70%未満 不可：得点が 60%未満		
テキスト	毎週、ワークシート形式の授業資料を配布します。		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛大学	学部・学科名※	経済、国際、教育、情報学部
科目名※	歴史学	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度後期	曜日・時限※	月曜・2 限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野			
授業目的※	「国際的な視野で多様な共生社会の課題に取り組む能力（DP.CP2）」を身につけるため、「歴史とは何か」「歴史を学ぶ意義」を問いながら、今後新しく展開される近現代史の論点を知る		
到達目標	歴史の連続性や歴史の同時代性の視点から現在の日本、及び国際関係を理解し、課題を発見し、自分自身の言葉で説明できること		
授業内容	歴史を学ぶ意義を考える。世界の現状をどのように認識するか（歴史的視点から）。歴史の連続性。歴史の転換点。		
授業形態※	第 1 回目はオンデマンド、2 回目からは対面で行います。 テーマごとのグループディスカッション、映像資料に関するリアクションペーパーの作成、関心のある歴史事象に関するプレゼンテーション。ただし、プレゼンテーションは、履修の人数によっては行わない場合があります。		
評価方法※	①授業への取り組み・リアクションペーパー・プレゼンテーション（40%） ②学期末確認テスト、必要に応じてのレポート提出（60%）		
評価基準	秀（S）：授業のねらいと到達目標を総合的に理解し、自ら問題を発見し、積極的に授業の課題に取り組み、自らが発見した問題意識を解決するための調査をおこない、優れたプレゼンテーションを行い、優れた確認テストの答案を作成できる。 優（A）：授業のねらいと到達目標を理解し、自ら問題を発見し、積極的に授業の課題に取り組み、自らが発見した問題意識をまとめ、調査し、一定の水準以上のプレゼンテーションを行い、確認試験の答案を作成できる。 良（B）：授業のねらいと到達目標を基本的に理解し、授業の課題に取り組み、その中から問題意識をまとめ、一定の水準のプレゼンテーションを行い、一定水準以上の確認試験の答案を作成できる。 可（C）：授業のねらいと到達目標に一定の理解をもち、授業の課題に取り組み、一定水準のプレゼンテーションを行い、一定水準の確認試験の答案を作成できる。 不可：授業のねらいと到達目標に対する理解、及び授業の課題への取り組みが不十分で、プレゼンテーション、確認試験の内容が一定の水準に達しない。		
テキスト	教科書は指定しません。授業用に作成した講義ノート及び資料を配布し、教科書の代わりとします。		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛大学	学部・学科名※	経済、国際、教育学部
科目名※	法学	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度後期	曜日・時限※	金曜・2 限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野			
授業目的※	社会生活に必然する法を理解するために必要な基本原理・原則・基礎理論、用語の学習を通して法律学（法学）への導入とし、次に社会生活における法的思考方法、法律的なものの考え方（legal mind）を具体的事例、判例などによって理解することを目的とします（CP2.3・DP2.3）。		
到達目標	今日、とくとく流れる国際社会のなかで言語習慣、考え方の相違する人達が共存していくために必要不可欠な学習である「法学」を理解し日々の生活にいかせること。		
授業内容	法の概念、法と法則、法と道徳、法の構造、法の目的、法源論、成文法、不文法、法の分類、法の適用と解釈、法の実質的効力、法の形式的効力、権利と義務		
授業形態※	毎回の授業では前回学習した基礎事項・重要事項・ポイントの確認等によって学習へのフィードバックをおこない、次の授業項目へと進めていきます。		
評価方法※	平常点（授業内に適示おこなうアクションペーパーや任意課題レポート）20%、確認試験 80%で評価します。		
評価基準	秀（S）：授業のねらい・内容を正しく理解しリーガル・マインドができるようになり、社会生活において適用できるようになる。 優（A）：授業のねらいがほぼ達成できており、法的思考もできるレベルにある。 良（B）：授業のねらい・内容が到達目標に 達成し、概要を正しく 説明できる。 可（C）：授業のねらい・内容が到達目標に 達成している。 不可：授業のねらい・内容が達成されておらず概要を説明できない。		
テキスト	斎藤静敬・覚正豊和 共著『法学・憲法要説 』八千代出版 (ISBN978-4-8429-1722-1) (参考文献)『六法』(岩波) (三省堂) (有斐閣) などを持参するとよいでしょう。		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛大学	学部・学科名※	経済、国際、教育・情報学部
科目名※	憲法	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度後期	曜日・時限※	金曜・3 限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野			
授業目的※	憲法の保障する原理や思想を近代憲法発展の歴史のなかで捉え、また、問題点などについて諸外国との比較や判例・学説を素材として平易に具体的に理解していくこと。		
到達目標	憲法の原理や考え方を正しく理解し説明できること。		
授業内容	憲法の内容		
授業形態※	<p>憲法の概念、日本国憲法の成立過程、憲法の制定・改正および変遷、憲法改正と限界、憲法の基本原理、国民主権主義、基本的人権、平和主義、統治機構・地方自治</p> <p>毎回の授業では前回学習した基礎事項・重要事項・ポイントの確認等によって学習へのフィードバックをおこない、次の授業項目へと進めていきます。</p> <p>授業内容に応じてデユベートやディスカッションを行い、それぞれのテーマを学生一人一人がフィードバックし授業への参加意欲を高めます。</p>		
評価方法※	平常点（授業内に適示おこなうアクションペーパーや任意課題レポート）20%、確認試験 80%で評価します。		
評価基準	<p>秀（S）：授業のねらいを越えて憲法的思考を深めるレベルに達している。</p> <p>優（A）：授業のねらいがほぼ達成できており、憲法的思考もできるレベルにある。</p> <p>良（B）：授業のねらい・内容が到達目標に 達成し、概要を正しく 説明できる。</p> <p>可（C）：授業のねらい・内容が到達目標に 達成している。</p> <p>不可：授業のねらい・内容が達成されておらず概要を説明できない。</p>		
テキスト	斎藤静敬・覚正豊和 共著『法学・憲法要説』八千代出版(ISBN978-4-8429-1722-1)		
注意事項			
授業シラバス	<p>本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。</p> <p>https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/</p> <p>トップ画面の「シラバス照会」から検索する。</p>		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛短期大学	学部・学科名※	現代子ども学科
科目名※	乳児保育Ⅱ	単位数※	2
開講年度学期※	2025年度 後期	曜日・時限※	月曜・4限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野			
授業目的※	乳児保育Ⅱでは、乳児保育Ⅰの学びを踏まえ、乳児保育の実際についての理解をより深める。		
到達目標	<p>3歳未満児の発達の特徴を踏まえた総合的な子どもの理解とともに、人間形成の上で大切な乳幼児期の育ちに関わる保育者として、子どもに寄り添い、ともに成長しようとする使命感をもって以下について学ぶ。</p> <p>① 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。</p> <p>② 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。</p> <p>③ 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。</p>		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・（6か月未満の子ども）の発達と保育内容・保育の留意点、【演習】具体的な保育内容・養護（抱っこ・着替え・おむつ交換・授乳）、 ・（6か月以上1歳未満の子ども）の身体と心、言葉の発達と保育内容・保育の留意点、生活・遊びの発達と安全への配慮、 ・（1歳以上2歳未満の子ども）および（2歳から3歳の子ども）の身体と心、言葉の発達と保育内容・保育の留意点、生活・遊びの発達と安全への配慮、 ・乳児保育における長期指導計画と短期指導計画、観察・記録及び自己評価、子どもの生活と遊びが豊かになる保育環境、【演習】手作り玩具の発表、乳児保育における集団での生活への配慮、環境の変化や移行に対する配慮 		
授業形態※	講義形式が中心となるが、保育の実際を学ぶために演習、ロールプレイングやプレゼンテーションを取り入れる。また、理解を深めるためビデオ視聴を取り入れ、振り返りシートにおいて学びの確認を行なう。		
評価方法※	定期試験（50％） 課題レポート＋振り返りシート＋演習（50％）		
評価基準	<p>AA：講義内容を十分に理解し、演習においてその成果が発揮され、レポート作成においては課題をより深く考察し、授業での学びが活かされている。</p> <p>A：講義内容を理解し、演習においてその成果が発揮され、レポート作成においては授業での学びが理解され、活かされている。</p> <p>B：講義内容を理解し、授業での学びをもとに演習への参加とレポートが作成されている。</p> <p>C：講義内容が概ね理解され、課題に沿った演習への参加とレポートが作成されている。</p> <p>D（不可）：講義内容が殆ど理解されておらず、課題に沿った演習への参加とレポート作成ができていない。</p>		
テキスト	乳児保育演習ブック 第2版 松本峰雄監修 ミネルヴァ書房 （参考文献）保育所保育指針解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛短期大学	学部・学科名※	現代子ども学科
科目名※	子どもと造形	単位数※	2
開講年度学期※	2025年度 前期	曜日・時限※	火曜・2限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野	保育		
授業目的※	乳幼児期の子どもの育ちや保育の「要領」「指針」、実践等に基づきながら、本授業では造形表現の作品製作（実技）を行う。		
到達目標	幼児教育・保育における造形表現に関する基本的な知識や技術（技能）、配慮事項等を体験的に理解し、遊びを通じた保育の実践力を身につけることを目標とする。		
授業内容	新聞紙で遊ぶ、スクリブル／クレヨン遊び、スクリブル／絵具遊び・ぬたくり、粘土遊び、オーナメント、のり付け遊び・コラージュ、製作・工作／手作りおもちゃ、紙版画、人物画／描画、ポップアップカードの製作、絵本とお話の絵・壁面構成、図鑑の活用と造形表現の探究		
授業形態※	保育実践や保育の「要領」「指針」、子どもの発達段階に基づきながら、作品製作（実技）を中心に授業を行う。		
評価方法※	本授業では「作品製作（実技）の過程」等を重視して総合的に評価する。		
評価基準	「提出物（作品、レポート類、等）」100%を基本とする。		
テキスト	原則として授業等で説明後、「教材・画材」を受講者が別途購入する。		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛短期大学	学部・学科名※	現代子ども学科
科目名※	子どもと言葉	単位数※	2
開講年度学期※	2025年度 前期	曜日・時限※	火曜・2限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野	保育		
授業目的※	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「言葉」に示されたねらいや内容を理解する。子どもの言葉の発達について学び、主体的、対話的で深い学びが実現する具体的な保育を構想する方法を身につけ、子どもの言葉の発達に関わっていくという「使命感」を培う。		
到達目標	<p>1 子どもの言葉の発達段階における特徴や連続性など（言葉に関する知識）を捉え理解を深める。</p> <p>2 主体的に遊びに取り組む中で言葉が育つ過程を理解し、言葉の育ちを促す教材を作成したり、実践したりして（保育技術）を身につける。</p> <p>3 事前に調べたことをグループでディスカッションする、自分たちの考えをプレゼンテーションするなどを通して様々な考えを知り学び合う。</p> <p>4 言葉に関わる協働的な学習を通して、（問題解決力や人と関わる基礎となるコミュニケーションスキル）を高める。</p>		
授業内容	前半は講義を主として乳幼児の言葉の発達を理解して各年齢に合わせて保育を考えられるようにする。後半は言葉の発達を促す教材を考えて作成したり、グループで協力して創作したものを発表したりして実習や保育に活かせるようにする。発表したものを評価し合うことで、子どもの発達を考えた教材の工夫や指導方法を導き出して理解を深めさせる。		
授業形態※	講義形式（対面）		
評価方法※	振り返り 50%、課題などの提出物 50%		
評価基準	<p>A A 講義内容を十分に理解して意欲的に教材研究や発表に取り組んでおり、課題を深く理解して考察し、授業での学びが活かされている。</p> <p>A 講義内容を理解し、教材研究や発表に意欲的に取り組んでいる。</p> <p>B 講義内容を理解し、教材研究や発表に取り組んでいる。</p> <p>C 講義内容を概ね理解し、教材研究や発表に参加している。</p> <p>D 講義内容の理解が不足しており、教材研究や発表への取り組みができない。</p>		
テキスト	『保育ニュースタンド 保育内容「言葉」』 同文書院		
注意事項			
授業シラバス	<p>本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。</p> <p>https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/</p> <p>トップ画面の「シラバス照会」から検索する。</p>		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛短期大学	学部・学科名※	現代子ども学科
科目名※	児童文化Ⅱ	単位数※	2
開講年度学期※	2025年度 前期	曜日・時限※	火曜・2限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野	保育		
授業目的※	子どもの心を育む児童文化の特性について理解し、「子どものための文化」「子どもによる文化」の両視点から様々な児童文化財に触れ、言葉や表現との関わりを通して、保育者の役割や具体的な実践方法を身につける。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実践の基礎として、児童文化に関する基本的な理解を深める。 ・ 保育技術としての児童文化財の活用法を習得し、実践する力を身につける。 ・ 保育者として子どもと共に楽しむ視点に立ち、人間性や感性を豊かにする。 		
授業内容	児童文化とは何か、絵本、紙芝居とペープサート、シアターあそび、パネルシアター、おもちゃ、伝統行事と伝承遊び、保育と児童文化財		
授業形態※	実践力を深める授業形態となるように理論に基づいた講義を行うほか、教材作成及び模擬保育を実施して基本的な技術や方法を実践的に学べるようにする。各授業では振り返りシートへの記述を取り入れ、次回授業時に学びの共有を行う。		
評価方法※	評価の要点に基づいて実施する最終課題(60%)と、出席・授業態度・提出物(40%)で総合的に評価		
評価基準	<p>A A 積極的に授業に参加し、講義内容を十分に理解している。保育者としての姿勢が育まれている。</p> <p>A 積極的に授業に参加し、講義内容を理解している。保育者としての姿勢が概ね育まれている。</p> <p>B 授業に参加し、講義内容を理解している。保育者としての姿勢が育まれつつある。</p> <p>C 授業に参加しているが、学びの姿勢は消極的である。</p> <p>D 授業に参加せず、到達目標への達成が難しい。</p>		
テキスト	なし		
注意事項			
授業シラバス	<p>本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。</p> <p>https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/</p> <p>トップ画面の「シラバス照会」から検索する。</p>		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛短期大学	学部・学科名※	現代子ども学科
科目名※	育ちと学びの心理学	単位数※	2
開講年度学期※	2025年度 前期	曜日・時限※	火曜・3限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野	保育		
授業目的※	乳幼児の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性をふまえた主体的な学びの基礎となる考え方を理解する。		
到達目標	「子どもを育むことの価値を理解し、人間形成の基礎を培うことの実感したうえで、子ども一人一人を敬愛し、常に向上しようとする意識を身につける」ことを到達目標とする。		
授業内容	子どもの発達を理解することの意義、子どもの発達と環境、発達理論と子ども観・保育観、社会的情動的発達①エリクソンの発達段階説②愛着の発達③自己主張・自己抑制、身体的機能と運動機能の発達、認知の発達①ピアジェによる思考の発達段階説②記憶の発達、言語の発達、乳幼児期の学びに関わる理論①レスポナント条件づけ②オペラント条件づけ、乳幼児期の主体的な学びの過程と特性、乳幼児期の主体的な学びを支える保育、子どもの知的・社会的発達と絵本との関わり		
授業形態※	基本的には講義形式が中心となるが、ロールプレイングやディスカッション、振り返りシートの記入を取り入れる。積極的な参加を望む。		
評価方法※	毎回の講義内容についての小レポート・振り返りシート 60%+定期試験 40% = 100%		
評価基準	AA: ディスカッションに積極的に参加し、課題解決に貢献している。小レポートや振り返りシートに、講義内容と自らの体験を深く関連させて意見を述べている。 A: ディスカッションに積極的に参加し、課題解決に貢献しようとしている。小レポートや振り返りシートに、講義内容と自らの体験を踏まえて意見を述べている。 B: ディスカッションに参加し、小レポートや振り返りシートに講義内容についての意見を述べている。 C: ディスカッションにあまり参加せず、小レポートや振り返りシートに講義内容のみが書かれている。 D: ディスカッションに参加せず、小レポートや振り返りシートの記述がほとんどない。		
テキスト	長谷部比呂美・日比暁美・吉村真理子著「保育の心理学」ななみ書房		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛短期大学	学部・学科名※	現代子ども学科
科目名※	生涯スポーツ実習	単位数※	2
開講年度学期※	2025年度 前期	曜日・時限※	火曜・4限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野	保育		
授業目的※	保育者として必要とされるスポーツ・運動に関する理論や子どもの遊びについて学び、理解する。また、運動・スポーツ・遊びの実践を通して運動技能の向上や健康の保持・増進を図る中で、生涯スポーツとしての運動・スポーツとして様々な人との関わりを深めることができるようになることを目指す。そのことで、協働的な課題解決の能力を高めていくことを期待する。		
到達目標	保育者として主体的に成長していく力を身につけること。		
授業内容	集団ゲーム(鬼遊び・伝承遊び、ボール遊び)、ボール運動の特性の理解、パラスポーツ(シッティングバレー)、バレーボール、バドミントン、カルタゲーム(36の動き・ものまね)、課題解決型集団ゲーム(パラバルーン)、表現運動(リズムダンス)		
授業形態※	実技を中心とし、グループでの課題解決学習をおこなう。個人の実技試験などをもとに、集団形成を行い、スポーツ活動を通しての役割の認識を深める。集団での活動内容を記録し、結果への反映を評価しながら、活動課題へとフィードバックしていく。		
評価方法※	受講時の課題達成 50%、個人実技課題 30%、グループ課題 20%		
評価基準	AA 自身の身体能力、技能を活用し、集団での運動・スポーツ活動に積極的に関わることができるとともに、運動が苦手な人へのサポートができる。 A 自身の身体能力、技能を活用し、集団での運動・スポーツ活動に挑戦することができる B 集団での運動・スポーツ活動に挑戦することができる C 運動・スポーツ活動に挑戦することができる D 運動・スポーツ活動に積極的に参加することができない		
テキスト	なし		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛短期大学	学部・学科名※	現代子ども学科
科目名※	保育者論	単位数※	2
開講年度学期※	2025年度 後期	曜日・時限※	木曜・1限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野	保育		
授業目的※	専門職としての保育者の役割や倫理、制度にもとづく職務内容について理解し、保育・教育の専門家として身につけるべき知識・技能を修得すると共に、人間性や感性を育むことをねらいとする。またチーム保育、組織としての連携・協働について学び、保育者の専門性に対する理解を深める。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者の役割と倫理について理解する。 ・ 保育者の制度的な位置づけを理解する。 ・ 保育者の専門性について考察し、理解する。 ・ 保育者の連携・協働について理解する。 ・ 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。 		
授業内容	保育者の役割、保育者の倫理、保育者の資格と責務、保育者の資質・能力、養護および教育の一体的展開、家庭との連携と保護者に対する支援、計画に基づく保育の実践と省察・評価、保育の質の向上、保育における職員間の連携・協働、専門職間及び専門機関との連携・協働、地域社会との連携・協働、関係機関東都の連携、資質向上に関する組織的取り組み、保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義、保育におけるリーダーシップ		
授業形態※	講義		
評価方法※	毎回のワークシートやミニツッパパー(60%)、授業への取り組み(グループワーク、話し合い、ロールプレイ等への参加・貢献)(20%)、まとめのレポート(20%)		
評価基準	<p>A A 授業内容を深く理解し、授業でのグループ活動に積極的に参加し、保育者としての知識を十分に獲得し、保育者としての考え方、態度、姿勢が育まれ、この授業の到達目標を達成している。</p> <p>A 授業内容を理解し、授業でのグループ活動に参加し、保育者としての知識を十分に獲得しており、保育者としての考え方、態度、姿勢が育まれ、この授業の到達目標を概ね達成している。</p> <p>B 授業内容を理解し、授業でのグループ活動に参加し、保育者としての知識を獲得しており、保育者としての考え方、態度、姿勢が概ね育まれ、この授業の到達目標をある程度達成している。</p> <p>C 授業でのグループ活動に参加し、授業内容について概ね理解できているが、この授業の到達目標に達していない内容もある。</p> <p>D 講義や授業でのグループ活動に参加する意欲に乏しく、講義内容について、十分に理解できて折らず、この授業の目標に到達していない。</p>		
テキスト	矢藤誠慈郎ら編『保育者論』中央法規		
注意事項			
授業シラバス	<p>本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。</p> <p>https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/</p> <p>トップ画面の「シラバス照会」から検索する。</p>		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛大学	学部・学科名※	経済、国際、教育学部
科目名※	社会的養護 I	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度 前期	曜日・時限※	木曜・3 限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野	保育		
授業目的※	わが国における社会的養護の理念と方向性を把握し、現在実施されている社会的養護の意義を理解する。		
到達目標	社会的養護の実践は、児童福祉における現実問題の解決という課題を担っている。まずは、その社会的養護が児童の権利の保障をめざしてどのように展開されているのかを理解する。くわえて、児童福祉のいかなる制度と実施体系のもとに実践が行われているのかを把握する。また、児童の自立支援が養護の中軸にあることを学習し、本学 DP3「コミュニケーション力、課題解決力」に鑑み、よりよい社会の実現を目指す専門職者としての保育士の実践について理解を深めていく。		
授業内容	社会的養護の理念と概念、社会的養護の歴史の変遷、子どもの人権擁護と社会的養護、社会的養護の基本原則、社会的養護における保育士等の倫理と責務、社会的養護の制度と法体系、社会的養護の仕組みと実施体系、社会的養護の対象、家庭養護と施設養護、社会的養護に関わる専門職、社会的養護に関する社会的状況、施設等の運営管理、被措置児童等の虐待防止、社会的養護と地域福祉		
授業形態※	講義		
評価方法※	試験 60%、授業への積極的な参加姿勢 20%、レポート・課題提出 20%		
評価基準	<p>A A 試験での素点が 90 点以上ならびに授業への参加において事前学習や事後学習に基づく発言、質問をする姿勢が見られ、レポート・課題において内容の理解と保育者の職務として自身との関連を強く意識しているのが見られる</p> <p>A 授業の内容を把握し、理解している。レポート課題が全て所定通りに提出されている。</p> <p>B 授業の内容を、おおむね把握し、理解している。レポート・課題は提出されているものの、内容の点で不足が見られる。</p> <p>C 授業の内容を、おおよそ把握しているが、理解の点で不足が見られる。レポート・課題は提出されているものの、内容の点でかなりの不足が見られる。</p> <p>D (不可) 授業の内容について把握できておらず、理解の点でも不十分さが顕著である。レポート・課題の提出の不足がある</p>		
テキスト	<p>松本峰雄編『子どもの養護』建帛社</p> <p>福祉小六法編集委員会編『福祉小六法』みらい</p>		
注意事項			
授業シラバス	<p>本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。</p> <p>https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/</p> <p>トップ画面の「シラバス照会」から検索する。</p>		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛短期大学	学部・学科名※	現代子ども学科
科目名※	子ども家庭支援の心理学	単位数※	2
開講年度学期※	2025年度 前期	曜日・時限※	金曜・1限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野	保育		
授業目的※	保育者にとって、子どもへの支援のみならず保護者に対する支援は必要不可欠である。この科目は、発達段階と家族システム、親としての養育スタイルや多様な子育て環境を学び、子どもを育むことの価値を理解し、人間形成の基礎を培うことの実感したうえで、子ども一人一人を敬愛し、常に向上しようとする保育者としての使命感身につけられるようにする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題について理解する。 2.家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその過程を包括的に捉える視点を習得する。 3.子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 4.子どもの精神保健とその課題について理解する。 		
授業内容	乳幼児の発達、学童期の発達、青年期の発達、成人期・老年期の発達、家族・家庭の意義と機能、親子関係・家族関係の理解、子育ての経験と親としての育ち、子育てを取り巻く社会状況、ライフコースと仕事・子育て、多様な家庭とその理解、特別な配慮を要する家庭、子どもの生活・生育環境とその影響、子どもの心の健康に関わる問題		
授業形態※	保育士資格を希望する者は必修である。講義形式である。 テキストやプリントにより基礎的な知識を身につけたうえで、学生が自身の経験や身近な出来事に振り返り、ディスカッション、ロールプレイング等を行っていく。概ね各回のワークシートなどが試験内容になる。		
評価方法※	試験・発表(40%)、ワークシートや課題提出(60%)		
評価基準	<p>A A ディスカッションに積極的に参加し、問題解決に貢献している。振り返りシートに自らの体験を踏まえた意見、学びを今後の生活に生かしていこうという姿勢がみられる。</p> <p>A ディスカッションに積極的に参加し、問題解決に貢献している。振り返りシートに自らの体験を踏まえ、意見を述べている。</p> <p>B ディスカッションに参加し、振り返りシートに講義内容についての意見を述べている。</p> <p>C ディスカッションにあまり参加せず、振り返りシートに講義内容のみが書かれている。</p> <p>D ディスカッションに参加せず、振り返りシートの記述がほとんどない。</p>		
テキスト	『子ども家庭支援の心理学 演習ブック』松本峰雄監修 ミネルヴァ書房		
注意事項			
授業シラバス	<p>本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。</p> <p>https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/</p> <p>トップ画面の「シラバス照会」から検索する。</p>		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛短期大学	学部・学科名※	現代子ども学科
科目名※	特別支援教育	単位数※	2
開講年度学期※	2025年度 前期	曜日・時限※	金曜・3限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野	保育		
授業目的※	保育者（保育士、幼稚園教諭、保育教諭）として、特に障害児保育の理念や歴史的な変遷、様々な障害特性、心身の発達等に応じた援助や配慮、障害を持つ子どもやその他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法、関係機関との連携・協働等を理解する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 障害児保育の理念や歴史的な変遷について学び、障害のある子どもの保育について理解する ● 様々な障害特性について理解し、個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について学ぶ ● 障害を持つ子どもやその他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について学ぶ ● 障害を持つ子どもやその他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する ● 障害を持つ子どもやその他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する 		
授業内容	障害児保育・特別支援教育について学び、障害を捉える二つの障害モデルについて、保育者に求められる「障害観」について、障害児保育の歩み、肢体不自由児・重度心身障害の子どもへの理解と援助、医療的ケアが必要な子どもへの理解と援助、聴覚障害の子どもへの理解と援助、知的障害の子どもへの理解と援助、ダウン症の特性と対応方法、支援が必要な子どもや人々の絵本の役割、自閉スペクトラム症の特性と対応、ADHD の特性、障害を持つ子どもやその他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働、障害を持つ子どもの就学先、障害を持つ子どもの個別支援計画		
授業形態※	講義形式を中心とするが、ワークシートを使用し、自身の学びの確認ができるようにする。また、DVD を活用した授業や疑似体験も盛り込み、可能な限り「障害をもつこと」を学生がイメージできるような授業展開を実施する。授業内の学びの確認テストを実施する。ワークシートは次の授業回に返却する。		
評価方法※	ワークシート（50%）、授業内テスト（50%）、その他授業への取り組みを含め総合的に判断する。		
評価基準	<p>A A 講義内容を深く理解し、ワークシートへの記入内容が適切であり、自分自身の考えを明確にもち実践に活かそうという姿勢が記述内容から確認できる</p> <p>A 講義内容を理解し、適切にワークシートの記入ができており、更に自身の考えを述べる事ができる</p> <p>B 講義内容を理解し、適切にワークシートの記入ができています</p> <p>C 講義内容について概ね理解している</p> <p>D 講義内容について理解が適切でない</p>		
テキスト	毎回の授業時に配布する資料を使用して授業を行うため、テキストは特に使用しない。		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛短期大学	学部・学科名※	現代子ども学科
科目名※	保育内容演習（健康）	単位数※	2
開講年度学期※	2025年度 後期	曜日・時限※	月曜・4限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野			
授業目的※	幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園法に示されている幼児期の終わりまでに育みたい 10 の姿に向かい、幼児期に育みたい資質、能力をふまえ、領域「健康」のねらい、内容を理解し、その具体的実践方法を講義で学ぶだけでなく、学生が主体的に考え、体験しながら学び、身につけることを目指す。		
到達目標	領域「健康」は「遊び」と「生活」を通して総合的に実践することを理解し、情報機器の利用を含む保育者の具体的援助方法を身につけること、現代の幼児を取り巻く健康と安全に結びつく生活や社会の問題を知り、解決の一助となる保育者の援助の方法を知り身につけること、これらを講義に加えて、体験、およびディスカッションやプレゼンテーションにより、社会に貢献できる問題解決能力やコミュニケーション能力が身につく、向上できるようになること、そして全授業を通して乳幼児が心身共に「健康」と「安全」な生活を送るために保育者が重要な役割を果たすことを認識し、保育者としての使命感をもつようになること、である。【幼稚園教諭として実務経験のある者が経験を生かして具体的な保育内容を指導する】		
授業内容	健康について、乳幼児期の健康な生活について、乳幼児期の運動 遊びと運動、乳幼児期の安全、乳幼児期の生活と食、保護者との健康情報共有、保護者向け健康冊子を作成する、健康情報の保護者への伝え方		
授業形態※	パワーポイント等の情報機器使用による講義、課題の提示、課題を個人、グループで考えまとめる、発表資料作成、発表、全体でのディスカッション、個人で学びをまとめる形式 教科書と配布プリントを使用して授業を進めていくため、配布プリント用のファイルを用意し、常に授業に持参すること。また、カラーサインペン、はさみ、のり等、発表資料作成時に必要な文房具を常時持参すること。		
評価方法※	授業内での課題 30%、最終レポート 70%		
評価基準	AA：講義内容を十分理解し、ロールプレイング、ディスカッション、プレゼンテーション、双方向型演習を通して保育の中で遊びや生活を通して保育内容「健康」を実践しようとする意欲と姿勢がみられる。保護者への情報発信の意味、方法を十分に理解し実践できる力が十分身についている。 A：講義内容を十分理解し、ロールプレイング、ディスカッション、プレゼンテーション、双方向型演習を通して保育の中で遊びや生活を通して保育内容「健康」を実践しようとする意欲と姿勢がみられる。保護者への情報発信の意味、方法を理解し実践できる力が身についている。 B：ロールプレイング、ディスカッション、プレゼンテーション、双方向型演習を通して講義内容をおおむね理解し、保育の中で遊びや生活を通して保育内容「健康」を実践しようとする意欲がみられる。保護者への情報発信の意味、方法をおおむね理解し実践できる力がおおむねついている。 C：ロールプレイング、ディスカッション、プレゼンテーション、双方向型演習を通して講義内容をある程度理解している。 D（不可）：ロールプレイング、ディスカッション、プレゼンテーション、双方向型演習を積極的に行わず講義内容を理解していない。保育の中で遊びや生活を通して保育内容「健康」を実践しようとする姿勢や意欲がみられない。		
テキスト	演習 保育内容 健康 河邊貴子 編著 建帛社		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛短期大学	学部・学科名※	現代子ども学科
科目名※	リトミック	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度 後期	曜日・時限※	木曜・3 限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野	保育		
授業目的※	保育現場においてリトミックの手法を用いた活動をするための、知識と技術の習得を目指す。保育者を志す者としての自覚を持ち、実際に幼児におけるリトミックを体験しその内容の分析を行う。打楽器やボールなど様々な教具を使い、子どもが音楽遊びを楽しめるような援助ができる力を養う。また、音楽の身体表現などのグループワークを通して、多様な意見を統合してアイデアを生み出せる力を養う。		
到達目標	同上		
授業内容	リトミックの三大要素、ビート、テンポ、ダイナミクス 音符と休符、アクセント、「アナクルーシス、クルーシス、メタクルーシス」、拍子、シンコペーション、指導案の作成、プラスチックアニメ（音楽の身体表現）について		
授業形態※	講義と演習の組み合わせ形式で行う。演習では、主に3～5 歳児を対象としたリトミックレッスンを体験し、ロールプレイングやディスカッション、振り返りシートの記入を取り入れる。また、指導案を作成をすることにより指導ポイントの理解を深め、実践演習や音楽の身体表現などのグループワークを通して多様な音楽表現方法を学ぶ。 講義・演習共に、積極的な発言、参加を望む。演習は、動きやすい服装で行う。		
評価方法※	授業態度、課題提出を通して総合的に判断する。授業への取り組みの積極性 30%、提出課題の内容及び試験 70%		
評価基準	<p>A A 講義内容とリトミック教育の要点を十分に把握し、音楽的要素に基づいた身体表現ができている。学びを応用し、創意工夫をしようとする姿勢がみられる。</p> <p>A 講義内容とリトミック教育の要点を理解し、音楽的要素に基づいた身体表現ができている。</p> <p>B 講義内容とリトミック教育の要点を理解し、身体表現ができている。</p> <p>C 講義内容について、おおむね理解している。</p> <p>D 講義内容について、ほとんど理解していない。</p>		
テキスト	板野平監修、神原雅之・野上俊之編著「ダルクローズ教育法によるリトミックコーナー」チャイルド社、その他プリント配布		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛短期大学	学部・学科名※	現代子ども学科
科目名※	教育原理	単位数※	2
開講年度学期※	2025年度 後期	曜日・時限※	金曜・1限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野	保育		
授業目的※	幼児教育や保育のあり方について考察する上での基礎となる教育の本質、教育目的、教育思想など教育の理念について学習し、幼児教育や保育の現場に立つにあたって必要となる幼児教育施設への理解、教育観、子どもの発達観について講義を行い、基礎的な幼児教育の習得をめざす。		
到達目標	幼児教育のあり方の基礎となる内容－教育の本質、幼児教育の目的、幼児期の発達、教育思想など、また今日の幼児教育のあり方についてより具体的に理解できるために、幼児教育の内容や方法を理解する。		
授業内容	教育の本質的意味、教育の概念、子どもにとって遺伝と環境のもつ意味、教育の目的、教育の意義、子ども観の変遷、教育・教育思想の歴史、子どもを育む地域・家庭・学校との関係、子どもを理解するには、乳幼児期の子どもの発達、子どもが求める教育者・保育者とは		
授業形態※	対面形式		
評価方法※	講義形式と事例検討が中心となるので、主体的・意欲的な受講態度を求める。またともに学びあうことが可能になるような、主体的な学びとなるようにしたい。		
評価基準	毎授業課すレポート、提出物（80％）、授業態度（20％）をそれぞれ得点化し、総合的に判断する。		
テキスト	高野良子・武内清編著『教育の基礎と展開』（学文社）		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項